

モクレポ



○京丹波市役所新庁舎（京都府京丹波市）
※令和4年度木材利用優良施設等コンクール農林水産大臣賞

令和4年12月

No.15

特集

- 令和3年度における森林環境譲与税の取組状況
- 第45回全国育樹祭（大分県豊後大野市、大分市）
- 林業人材と異分野人材からなるチームによる
ビジネスコンテスト（SFA2022）
- 国連気候変動枠組条約第27回締約国会議（COP27）
- 第58回国際熱帯木材理事会（ITTTC58）
- 農林業センサスデータによる林業経営体の動向

このレポートは、木材需給、木材価格、木材産業の動向等に関するデータを集約・整理し、毎月定期的に公表するものです。林業・木材産業関係者の事業活動に役立てていただくことを目指しています。

【利用上の注意】

1. 原則として毎月中旬に公表。公表日の5営業日前に入手可能なデータを反映しています。
2. 内容については、必要に応じて項目の追加・削除などの変更を行うことがあります。
3. 調査方法の見直しに伴い、データが接続しない場合があります。

林野庁

CONTENTS

令和4年12月号

特集

- 1 令和3年度における森林環境譲与税の取組状況
- 2 第45回全国育樹祭（大分県豊後大野市、大分市）
- 3 林業人材と異分野人材からなるチームによるビジネスコンテスト(SFA2022)
- 4 国連気候変動枠組条約第27回締約国会議（COP27）
- 5 第58回国際熱帯木材理事会（ITTC58）
- 6 農林業センサスデータによる林業経営体の動向

特集1
特集2
特集3
特集4
特集5
特集6

01 基礎的指標

- 1 新設住宅着工戸数
- 2 新設住宅着工床面積 <参考> 非居住用建築物着工床面積
- 3 木材産業の業況
- 4 USドル及びユーロ為替相場
- 5 米国民間新設住宅着工戸数、日本向けコンテナ運賃
- 6 中国の木材輸入量、EUにおける建設活動水準

基礎1
基礎4
基礎8
基礎9
基礎10
基礎11

02 木材価格情報

- 1 スギ・ヒノキ原木の主要市場価格
- 2 木材価格（農林水産統計）

価格1
価格3

03 木材需給情報

- 1 需要量、供給量、自給率の動向
- 2 製材工場の原木入荷、製品生産等の動向
- 3 合板工場の原木入荷、製品生産等の動向
- 4 チップ工場の原木入荷、製品生産等の動向
- 5 燃料材（国内生産）利用量、紙品種別生産高
- 6 素材生産量
- 7 木材生産の産出額

需給1
需給4
需給5
需給6
需給7
需給8
需給9

04 林産物輸出入情報

- 1 林産物輸出額
- 2 木材輸出額
- 3 木材輸入額
- 4 木材輸入量
- 5 製材・構造用集成材・合板の輸入平均単価

輸出入1
輸出入2
輸出入3
輸出入4
輸出入10

05 特用林産情報

- 1 特用林産物の国内生産量
- 2 特用林産物の産出額
- 3 特用林産物の輸出入量
- 4 特用林産物の輸出額
- 5 中国からのしいたけ菌糸輸入量
- 6 きのこと類の卸売量・価格

特産1
特産2
特産3
特産4
特産7
特産8

06 セミナー・イベント情報

- 12月中旬以降の開催情報

イベント1

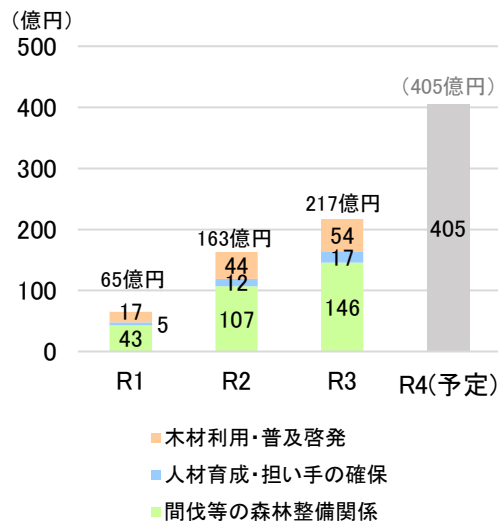
特集-1 令和3年度における森林環境譲与税の取組状況

- 令和3年度における市町村での森林環境譲与税の活用額は217億円（譲与額総額の64%）。令和4年度の活用予定額は405億円（同92%）。
- また、令和3年度における間伐等の森林整備実施面積は、令和元年度の約5倍となるなど、取組は着実に進展。
- 全国の取組状況の公表とあわせて、市町村・都道府県による譲与税活用の事例集を公表。使途別の索引を追加。

■ 森林環境譲与税の活用状況(市町村・都道府県)

		R1決算	R2決算	R3決算	(R4予定)
市町村	活用額	65億円	163億円	217億円	(405億円)
	譲与額	160億円	340億円	340億円	(440億円)
都道府県	活用額	31億円	47億円	53億円	(68億円)
	譲与額	40億円	60億円	60億円	(60億円)
合計	活用額	96億円	210億円	270億円	(472億円)
	譲与額	200億円	400億円	400億円	(500億円)

■ 市町村における使途別の活用状況



■ 市町村における主な取組実績

主な取組実績	R1	R2	R3
森林整備面積 (うち間伐面積)	約5.9千ha (約3.6千ha)	約17.9千ha (約10.3千ha)	約30.8千ha (約14.2千ha)
林道、森林作業道等の整備	約90千m	約238千m	約420千m
木材利用量	約5.4千m3	約13.4千m3	約22.5千m3
イベント、講習会等	約900回	約1000回	約1800回

注1: 活用額、取組実績については総務省・林野庁調べ。
注2: R4予定の金額については、2022年9月時点で自治体への聞き取り結果をとりまとめたもの。

■ 市町村・都道府県による譲与税活用の事例集

今年度の事例集のポイント

- 市町村の事例として93事例、都道府県の事例として102事例を掲載
- 使途別検索のための索引や、事例集全体の概要解説のページを追加



【市町村・都道府県の取組事例】

【使途別の索引】



【事例集の概要解説】

森林環境譲与税の全国の活用状況や取組事例については、次のURLをご覧ください。

https://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/kankyousei/kankyousei_jouyouzei.html#t3

特集-2 第45回全国育樹祭（大分県豊後大野市、大分市）

- 2022年11月12日から13日にかけて、大分県豊後大野市及び大分市にて、第45回全国育樹祭を開催。
- 秋篠宮皇嗣同妃両殿下によるお手入れの他、各種表彰や緑の少年団による苗木の贈呈を実施。

■全国育樹祭とは

- 健全で活力ある森林を育て、次の世代に引き継ぐことの大切さを伝えるため、1977年（昭和52年）から毎年秋に開催されている国民的な緑の祭典。第1回は、大分県別府市において開催。
- 全国植樹祭で天皇皇后両陛下がお手植えされた樹木を皇嗣殿下がお手入れされる育樹運動のシンボリック行事と、皇嗣殿下によるおことばや各種表彰等の式典行事のほか、参加者による育樹活動等の行事が行われる。

■第45回全国育樹祭

第45回全国育樹祭は、2022年11月12日、13日に、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席の下、「豊かなおおいた 森林（もり）を育み 木と暮らし」をテーマに開催。

12日に「大分県県民の森 平成森林公園」で開催されたお手入れ行事では、2000年（平成12年）に開催された第51回全国植樹祭で天皇皇后両陛下がお手植えされたアカガシとカツラに、両殿下がお手入れをされた。

13日の「昭和電工武道スポーツセンター」で開催された式典行事では、大会会長である尾辻秀久国土緑化推進機構最高顧問（参議院議長）及び広瀬勝貞大分県知事の挨拶の後、皇嗣殿下から「循環利用に向けて計画的に森林を再造成し、健全な姿で次の世代へと引き継いでいくことは、私たちに課せられた大切な務め」とのおことばを賜った。

その後、全国での育樹活動や大分県の森林の育成に功績のあった方々への表彰、全国緑の少年団表彰の受賞団への「緑の贈呈」等を実施。

さらに、メインテーマアトラクションとして、第1回全国育樹祭の開催地である大分県で、森林を守り育てることの大切さと森林と人との関わりについて未来を担う子ども達と考える「始まりの地から、未来へ」をテーマとした、トークショー、歌唱、演舞が披露。最後に、国土緑化推進機構の濱田純一理事長による「大会宣言」等が行われ、式典は閉幕。

第46回全国育樹祭は、「誰かじゃない 僕が育てる 緑と日本」を大会テーマに、2023年秋に茨城県で開催予定。



秋篠宮皇嗣殿下によるお手入れの様子



緑の少年団にお声がけされる
秋篠宮皇嗣同妃両殿下



表彰を行う野中農林水産副大臣

これまでの全国育樹祭については、次のURLをご覧ください。
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/ryokka/ikuju/>

- ・ 林野庁は、異分野の人材の持つ技術・ノウハウを林業現場に導入し、新たなビジネスの創出を目指す取り組み、SUSTAINABLE FOREST ACTION（SFA）を支援。
- ・ 4期目となるSFA2022では、ゼロから事業を創造する「インキュベーション部門」と既存事業の加速を支援する「アクセラレーター部門」を設置。
- ・ SFA事務局によるマッチングを経て林業人材と異分野人材がチームを結成。6チーム計24名が約2か月にわたって事業開発を検討。
- ・ 11月5日に東京都内においてデモデイ（最終発表会）が開催され、優勝チームを決定。

■ インキュベーション部門

〔優勝〕 林地残材を使ったオーダー住宅/リノベ向け内装材事業

チームメンバー：(株)リクルート 山本 万優氏、(株)フォレストストーリー 渡部 真之助氏
農林水産省 横山 聡子氏、3rdkind(株) 細谷 太郎氏

メンター（助言者）：アバロン(株) 吉見 晋平氏

〈概要〉

未利用材となっている根元部分の材「タンコロ」を、寄木細工のような床材（パーケット）に加工して販売する事業。初期プロダクトを基にユーザーヒアリングを重ねて改良を行っており、2023年から販売開始予定。

■ アクセラレーター部門

〔優勝〕 建築VRによる空間価値向上

チームメンバー：(株)ジオクリエイツ 本田 司氏、(株)エスウッド 長田 剛和氏
(株)日田中央木材市場 十時 義明氏、サニハユニハ 吉田美帆氏

メンター：(株)ADX 安齋 好太郎氏

〈概要〉

視線や脳波を解析して空間体験価値を定量化するVRサービス「ToPolog（トポログ）」を活用して、木質内装が見る人に与える効果を測定、定量化。建設・内装事業者による建材や家具の配置検討に活用してもらうサービスを企画。



インキュベーション部門優勝チームの発表風景



アクセラレーター部門優勝チーム

特集-4 国連気候変動枠組条約第27回締約国会議(COP27)

- 2022年11月6日～20日にシャルム・エル・シェイク（エジプト）において、COP27及び関連会合が開催。日本からは林野庁を含む10省庁が出席。
- 「共に実施に向けて（Together for Implementation）」をスローガンに、気候変動対策を具体的な行動に移すことに焦点。
- 日本は新たに立ち上げられた国際イニシアティブ「森林・気候のリーダーズ・パートナーシップ（FCLP）」に参加。

■ 国連気候変動枠組条約締約国会議(COP)とは

- 大気中の温室効果ガスの濃度を安定化させることを究極の目標として1992年（平成4年）に採択された「国連気候変動枠組条約（UNFCCC）」の最高意思決定機関で、1995年（平成7年）から毎年開催。

■ COP27の概要

○交渉結果の概要

- COP27全体決定では、気候変動対策の各分野における取組の強化を求める「シャルム・エル・シェイク実施計画」が採択。その中で、パリ協定の気温に関する目標の達成に向けて、温室効果ガスの吸収源及び貯蔵庫である森林等を含めた自然及び生態系の保護・保全・回復が重要であること等が強調。
- 各議題では、2030年までに温室効果ガスの排出削減を強化するための「緩和作業計画」が採択されたほか、ロス&ダメージ（気候変動の悪影響に伴う損失と損害）支援の一環として基金を設置すること等が決定。また、パリ協定第6条（市場メカニズム）に関する議題では、COP26で決定した実施指針に基づき、排出削減・吸収量の国際的な取引を報告する様式や記録システムの仕様、専門家による審査手続、国連が管理する市場メカニズムの運用細則等が決定。

○新たな森林イニシアティブの立ち上げ

英国が主導する新たな国際イニシアティブ「森林・気候のリーダーズ・パートナーシップ（FCLP）」が立ち上げ。2030年までに森林の消失と土地の劣化を食い止め、その状況を好転させる世界的な取組を加速することを目的とし、日本を含む27の国・地域が参加。



（プレナリー会場の様子）



（FCLP首脳級会合での英国スナク首相スピーチ）

■ 森林分野に関する日本からの情報発信

- 我が国は「Solution for the world」をテーマにジャパンパビリオン等で先進的な技術や取組を発信。森林分野では、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所が、国際熱帯木材機関（ITTO）や、国際アグロフォレストリー研究センター（ICRAF）との共催によりサイドイベントを開催し、森林の機能発揮を通じた適応と緩和への貢献等について紹介。



（ジャパンパビリオンでの森林総研の発表）

会合の詳細は、次のURLをご覧ください。

農水省HP：https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/b_kankyo/221122.html

UNFCCCのHP（英文）：<https://unfccc.int/cop27>

英国政府のHP（英文）：<https://www.gov.uk/government/news/world-leaders-launch-forests-and-climate-leaders-partnership-at-cop27>

特集-5 第58回国際熱帯木材理事会（ITTC58）

- 2022年11月7～11日、第58回国際熱帯木材理事会（ITTC58）が横浜市において開催。
- 林野庁から、タイ及びインドネシアにおける「持続可能な木材消費の促進」プロジェクトへの拠出を表明。

■第58回国際熱帯木材理事会(ITTC58)とは

- 国際熱帯木材機関(ITTO)の最高意志決定機関。
- 今次会合は、本年2月1日に就任したシャーム事務局長の下での初の理事会。37加盟国及びEUの政府関係者、国際機関が参加。
- 林野庁は、全体会合のほか、森林・林業関連の2つの技術委員会に対応。



(今回・次回全体会合議長交代の様子)

■技術委員会における議論の概要

- 生産国における14件のプロジェクト・活動等の完了が承認された。
このうち、我が国からの拠出が含まれるものは、計9件(外務省拠出:8件、林野庁拠出:1件)。
＜承認された主なプロジェクト＞
 - ・ペルー及びインドネシアにおける森林火災管理(外務省拠出)
 - ・コンゴ盆地における合法性・持続可能性のある木材利用促進のための能力開発(林野庁拠出)等
- 加えて、林野庁は、2021年から支援しているベトナムに続き、タイ及びインドネシアにおける持続可能な木材利用の促進プロジェクトへの拠出を表明。東南アジア地域における持続可能な木材利用の促進の取組を拡大。

【事業名】 **ベトナムにおける持続可能な木材消費の促進(2021年拠出)**

【事業総額】 361,100米ドル

【実施機関】 ベトナム木材・森林製品協会(VIFOREST)

【実施期間】 24か月(2021年12月開始)

【事業内容】 ① **木材消費促進のための政策枠組みの改善・整備**
② **木材消費促進のための実証的取組・能力向上**



(ベトナムの建築大学における日本産スギ家屋のモデル展示の様子)

【事業名】 **タイにおける持続可能な木材製品の国内消費の促進(2022年拠出)**

【事業総額】 345,000米ドル

【実施機関】 国立カセサート大学、タイ王室林業局

【実施期間】 24か月(2022年12月開始予定)

【事業内容】 ① **国内での木材利用促進のための政策枠組みの整備**
木材利用促進協議会の設立、認証制度の発展 等
② **関係者の能力向上**
国内市場向け商品開発技術の向上、合法性確認への理解普及、消費者教育 等
③ **試行的な木材サプライチェーンモデルの構築**
北部・小規模チーク林と南部・大規模ゴム植林地

【事業名】 **インドネシアにおける持続可能な木材製品国内市場の開拓(2022年拠出)**

【事業総額】 285,691米ドル

【実施機関】 インドネシア環境林業省

【実施期間】 18か月(2022年12月開始予定)

【事業内容】 ① **消費者のニーズに応える国内市場開拓**
消費者調査や市場調査を踏まえた中期的な「木材製品開発国家戦略」策定、消費者教育 等
② **国内消費拡大のための制度設計の強化**
木材利用促進協議会の設立、建築業界での木製材料利用促進の働きかけ、木材加工施設への投資のための政策的インセンティブの促進、中小企業支援 等

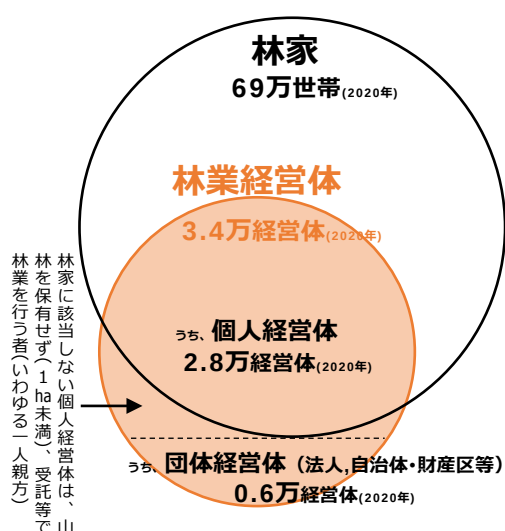
ITTOへの拠出事業やITTCの詳細は、次のURLをご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/boutai/yunyu/itto.html>

データに基づく政策立案を推進するため、今年度から新たに、統計部（統計データ分析支援チーム）と政策部局が一体となつてのデータの分析を行う取組を開始。この中で、2015年と2020年農林業センサスデータを利用し、林業経営体の動向についてより詳細な分析を行った内容を紹介。（2020農林業センサスの結果概要は、2021年9月のモクレポ創刊準備号を参照。）

- 林業経営体の数（図2：オレンジ枠）は、2015年：8.7万→2020年：3.4万（△5.3万、39%）に減少。一方で、保有山林面積が3ha以上であるものの、林業経営体に該当しなかった者（図2：青枠）が30万程度存在し、これらの者は、施業の実施又は森林経営計画の作成が行われていれば、林業経営体に該当し得たと考えられる。
- また、農林業センサス（客体候補名簿）で把握している林家・法人等の総数（図2：赤枠）は、2015年：176.0万→2020年：157.0万（△19.0万）に減少。この一因として、相続・転居等により山林の所有者を把握しきれていない場合があることも影響していると考えられる。

図1 林業経営体等の定義（農林業センサス）



◆ 林家(69万世帯(2020年))

各調査年の2月1日現在の保有山林面積が1ha以上の世帯
※民間事業体等の法人や自治体等は含まない。

◆ 林業経営体(3.4万経営体(2020年))

次の①又は②のいずれかに該当するものをいう。

① 保有山林面積が3ha以上で、かつ、調査期日前5年間に林業経営（育林・伐採）を行った者、又は、調査実施年をその計画期間に含む「森林経営計画」を作成している者。

② 委託を受けて素材生産又は立木を購入して素材生産を行っている者（調査期日前1年間に200㎡以上の素材生産した者に限る。）または、素材生産以外の林業サービス（育林作業）を行っている全ての者。

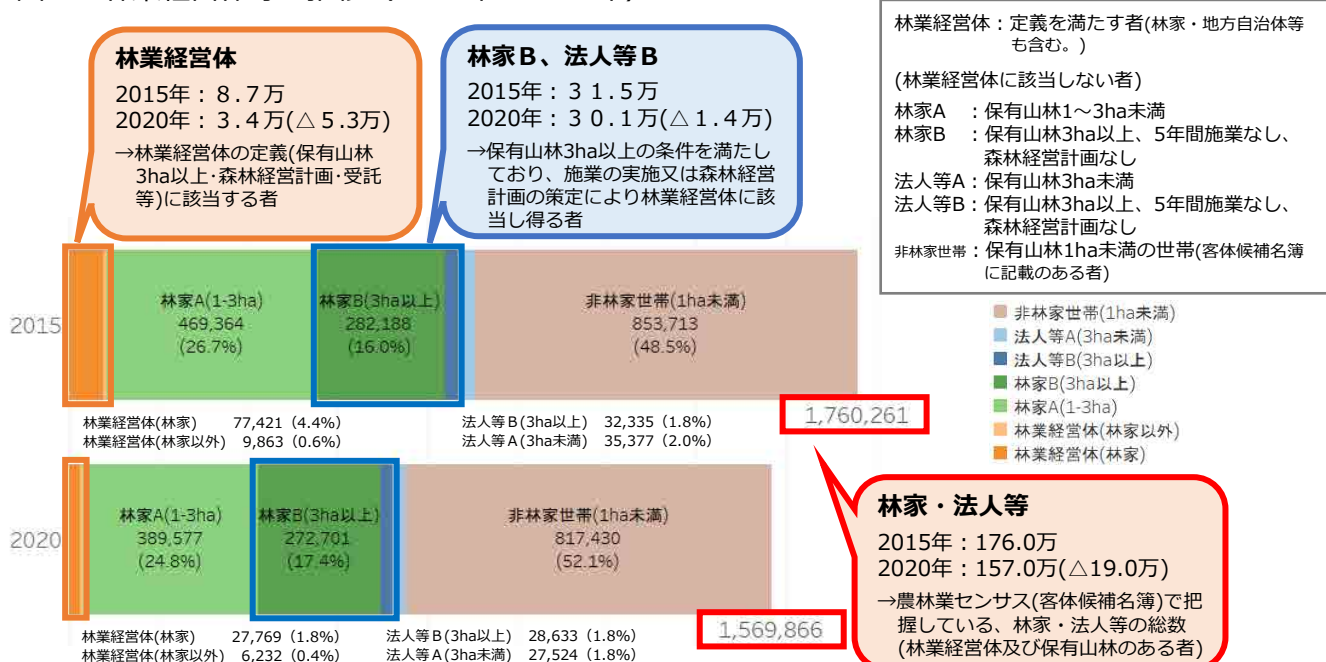
※「森林経営計画」を策定しておらず、且つ過去5年間に育林・伐採をしていない森林所有者は、3ha以上の保有山林があっても林業経営体に含まれない。

◆ 保有山林

自らが林業経営に利用できる(している)山林をいう。
保有山林＝所有山林－貸付山林＋借入山林

農林業センサスの定義による「林業経営体」に該当する経営体には、数haの山林を保有し施業は他者に任せているような小さな林家から、年間数万㎡の素材生産を行うような大きな事業体まで、様々な規模・形態の経営体が含まれる。

図2 林業経営体等の推移（2015年→2020年）



- 2015年の調査で林業経営体に該当した8.7万のうち、2020年では非該当となった経営体（図3：青枠）は6.0万で、2015年当時の該当要件は「育林・伐採のみ」が67.8%と最も多く、次いで「森林経営計画のみ」（15.6%）、「両方（育林&計画）」（12.9%）となり、これらの合計で96%（図3：赤枠）を占め、「受託（造林・保育、素材生産）」の要件に該当していた経営体は、全体の4%程度と少ない。「育林・伐採」の要件は施業が必要な時だけ該当する要件（この要件のみ該当する経営体の大半が林家）であり、次回調査で非該当となる経営体の割合が高い要件であるのに対し、「受託」は事業としての継続性が高く、次回調査で非該当となる経営体の割合が比較的低い要件であると推察される。
- また、林業経営体の属性別に継続該当の割合を見ると、林業経営体の要件（図4）では「受託」の有無の影響が大きく、保有山林面積規模（図5）では規模階層が上がるほど継続該当率が増加し、経営形態（図6）では会社・森林組合（生産森林組合を含む。）の継続該当率が高いことがわかる。

図3 林業経営体の属性分析（林業経営体の要件）

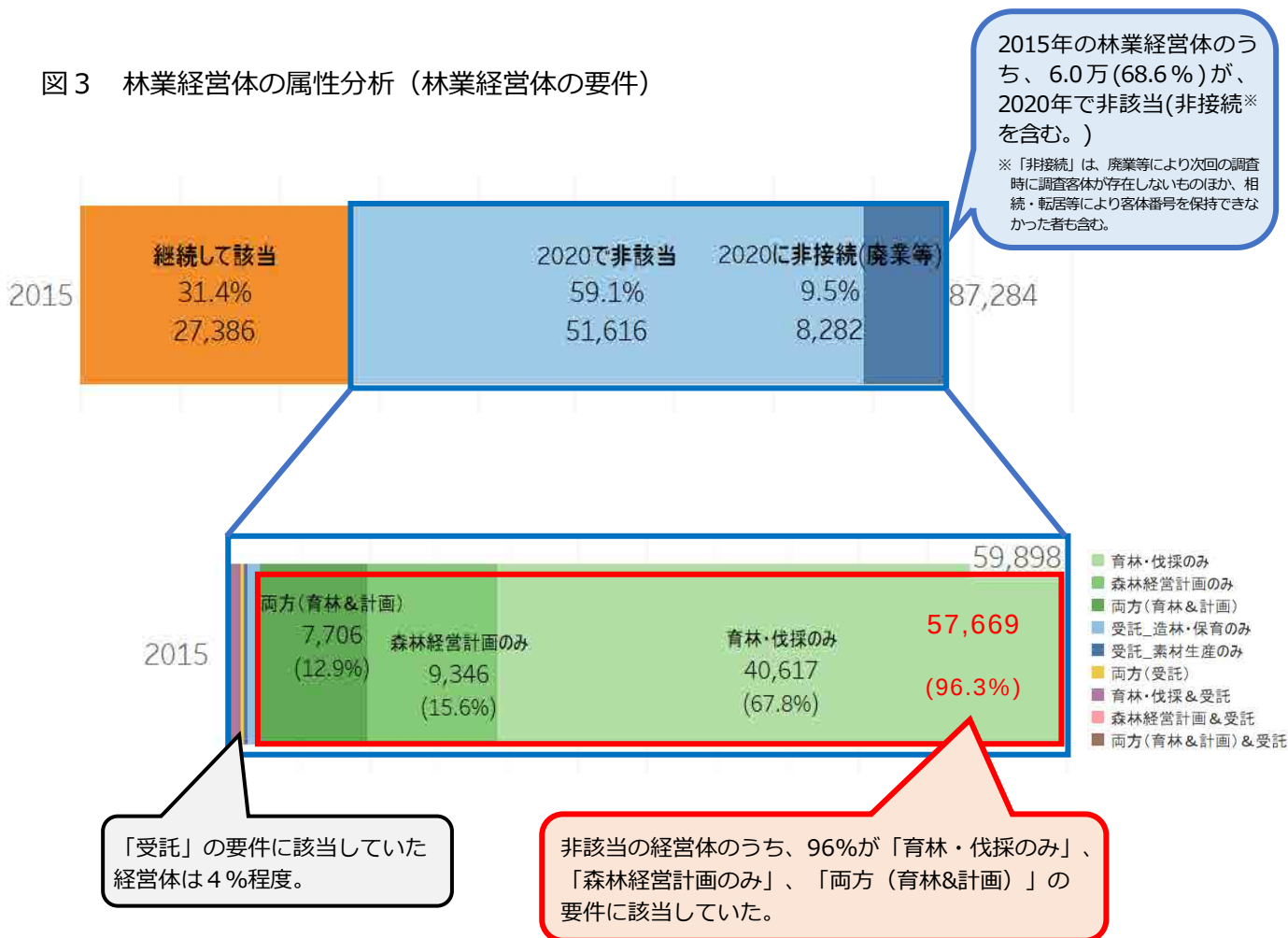


図 4 【林業経営体の要件】 2015年林業経営体(87,284)の該当要件別の5年後(2020年)継続該当割合

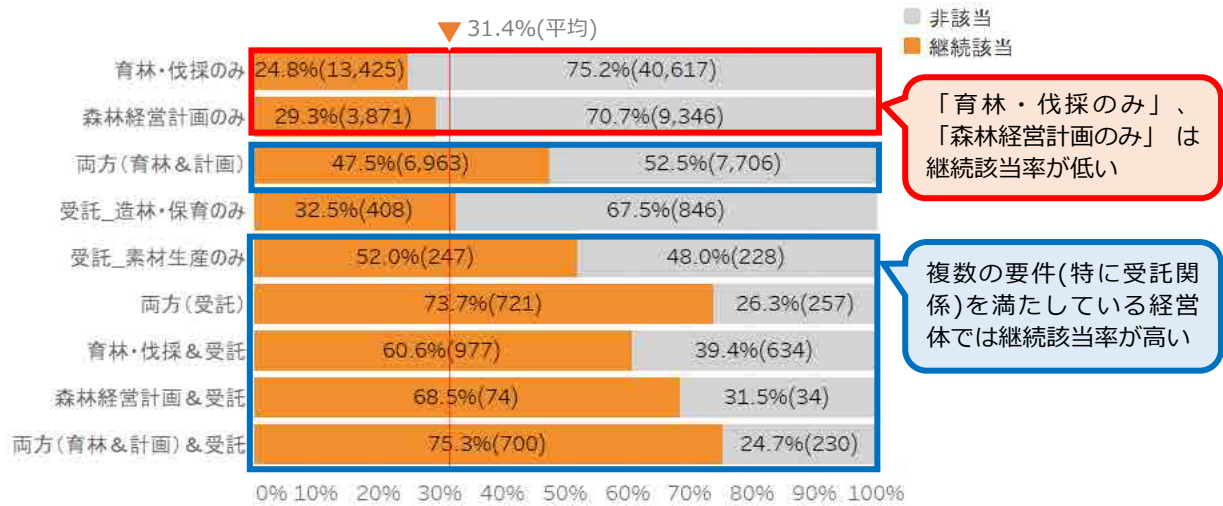


図 5 【保有山林面積規模】 2015年林業経営体(87,284)の保有山林規模別の5年後(2020年)継続該当割合

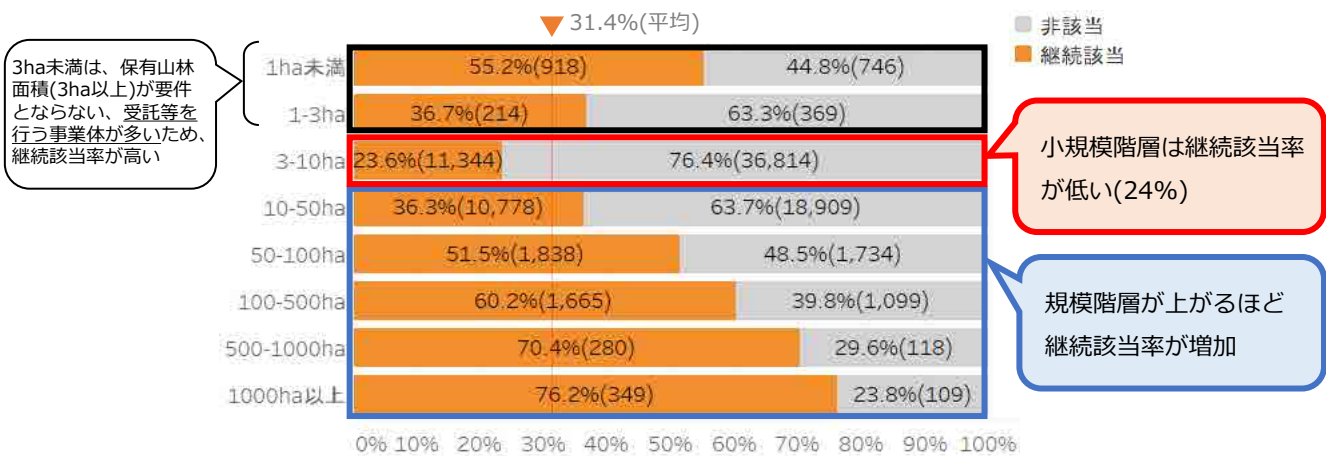
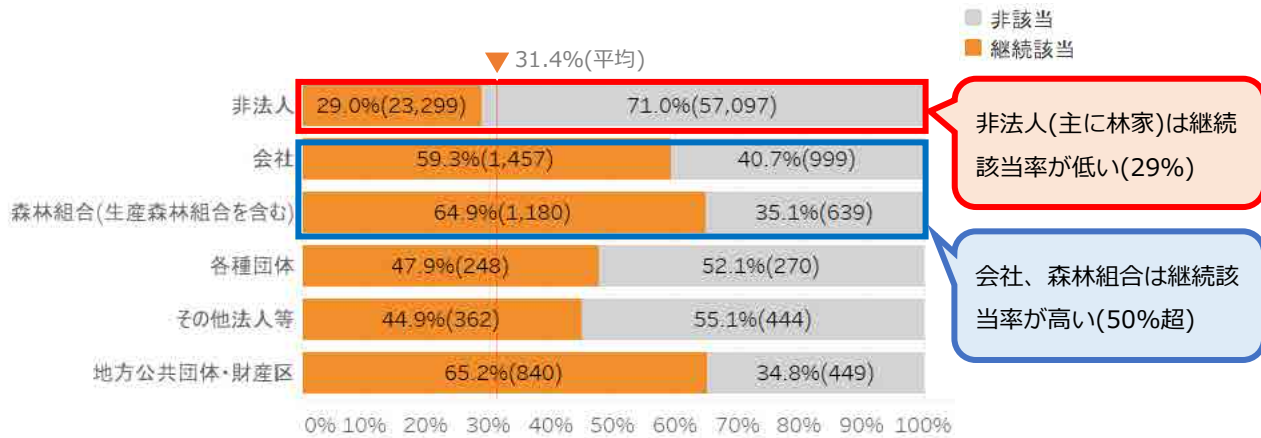


図 6 【経営形態】 2015年林業経営体(87,284)の経営形態別の5年後(2020年)継続該当割合



※1 各種団体は、農協、農業共済組合、農業関係団体、森林組合以外の組合等の団体。
※2 その他法人等は、公益法人、宗教法人、医療法人、NPO法人などや農事組合法人。

- 2010→2015→2020年の各調査年における林業経営体への該当・非該当を見ると、「〇×〇、××〇」のように、一旦、非該当（×）となった経営体が、次回調査で該当（〇）となるケースがある（図7）。
- このような経営体（特に保有山林面積の小さな経営体）は、調査ごとに施業の有無により該当・非該当を繰り返すため、保有山林の高齢級化等による過去5年間での間伐等の施業実施率の低下（施業の必要が無い期間の増加）により、林業経営体に該当する機会が減少していくものと考えられる（図7・8）。
- 一方、林業経営体における素材生産量の推移を見ると、林業経営体の該当数が大きく減少する中でも、全体の素材生産量は増加傾向。また、2020年では、10,000m³以上を生産した経営体による生産量が全体の約7割を占め、1経営体当たりで見ても、2010年の1.2千m³に対し、3.5千m³と約3倍となっており、素材生産を行う経営体の規模拡大が進んでいる（図9）。

図7 林業経営体への該当・非該当サイクル（2010→2015→2020）

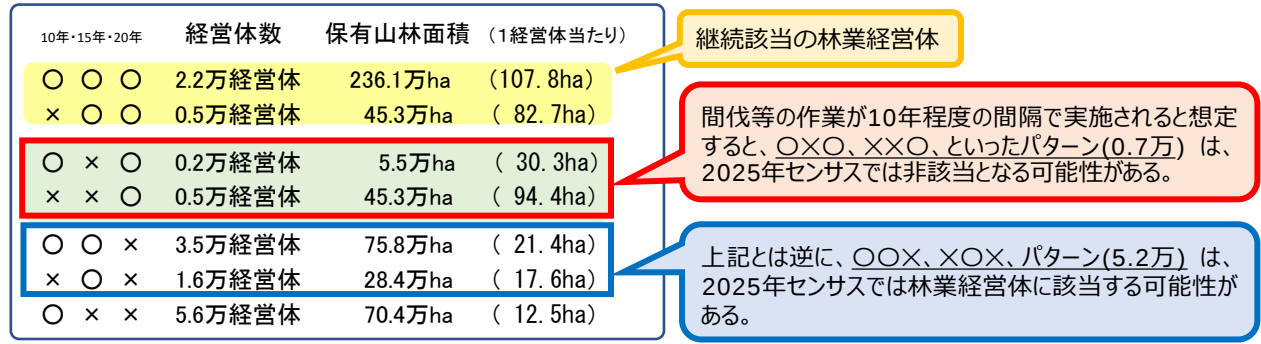
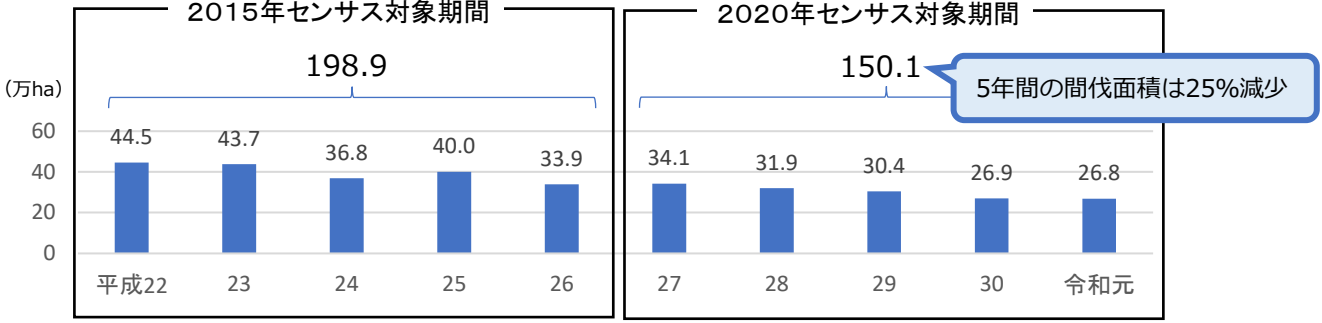
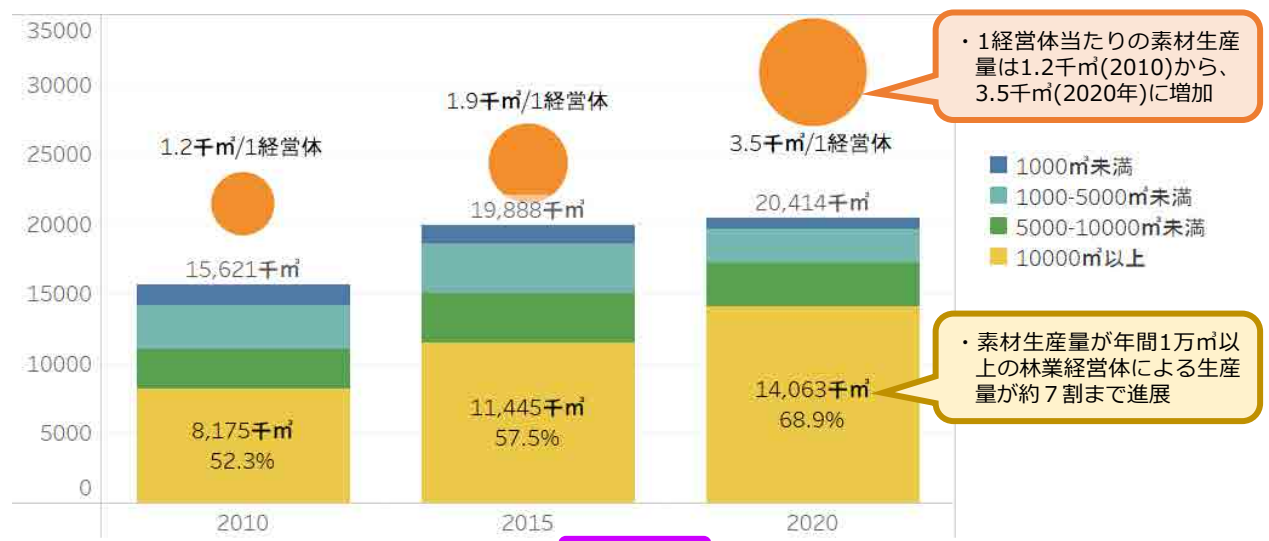


図8 民有林の間伐面積（センサス対象期間での比較）



資料：林野庁整備課調べ（注：間伐面積は、森林吸収源対策の実績として把握した数値）

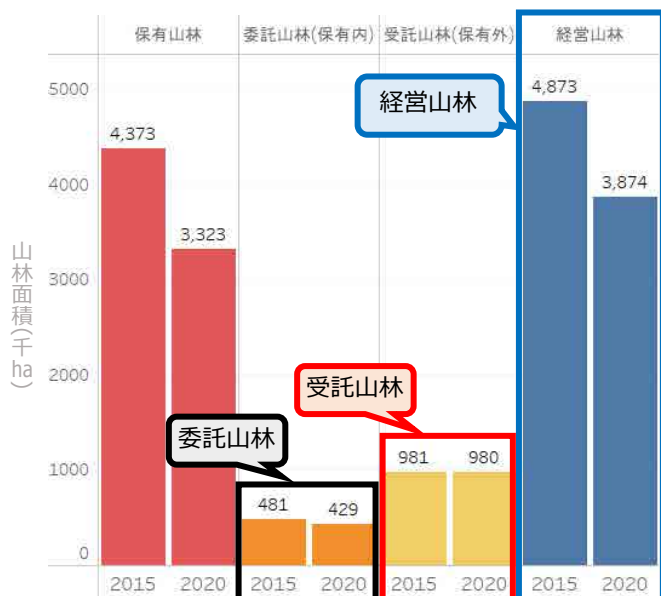
図9 林業経営体における素材生産量の推移



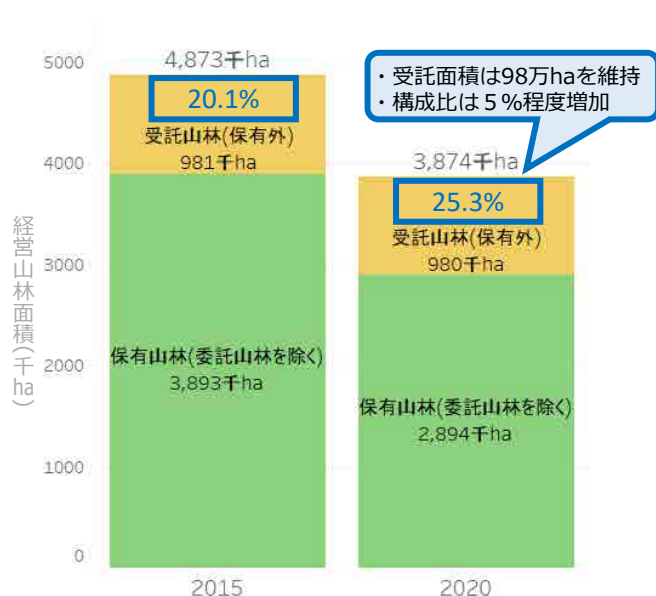
- ・ 林業経営体が実際に経営する山林として、保有山林から任せている山林(委託)を除き、任されている山林(受託)を加えた「経営山林」を算出(図10左)。
- ・ 林業経営体の減少に伴い全体の経営山林が減少(487万ha→387万ha)した中でも、任されている山林(受託)は、98万ha程度で維持されており、構成比では約5%増加(図10右)。継続して林業経営体に該当する経営体が、林家や他の経営体の山林について経営の受託を拡大しているものと推察される。

図10 林業経営体が経営する山林(経営山林)

◆ 経営山林面積(保有－委託＋受託＝経営山林)



◆ 経営山林に占める受託割合



全体考察

◆ 林業経営体の推移に関する特徴

- 農林業センサスの定義による林業経営体の総数が減少している中、継続して林業経営体に該当する経営体と、非該当となる経営体では、保有山林面積の規模、森林経営計画の有無、受託(造林・保育又は素材生産)の有無などの属性の特徴が異なり、継続該当率にも大きな差がある(図4～6)。
- このうち、非該当である林家・法人等に注目すると、施業の実施又は森林経営計画の作成があれば林業経営体に該当し得る者が30万程度存在(図2)し、林業経営体への該当・非該当を繰り返す存在も見られる(図7)。また、民有林の高齢級化等を背景とした間伐等の施業面積の減少(図8)により、林業経営体に該当する機会が減少している可能性がある。
- 一方、林業経営体の総数が減少する中でも、林業経営体による素材生産量は増加傾向で、1経営体当たりの規模拡大も進んでいる(図9)とともに、森林経営受委託契約等により一連の施業を受託する「任されている山林」の割合も増加傾向にあり(図10)、担い手となる林業経営体への集約化が進行している。

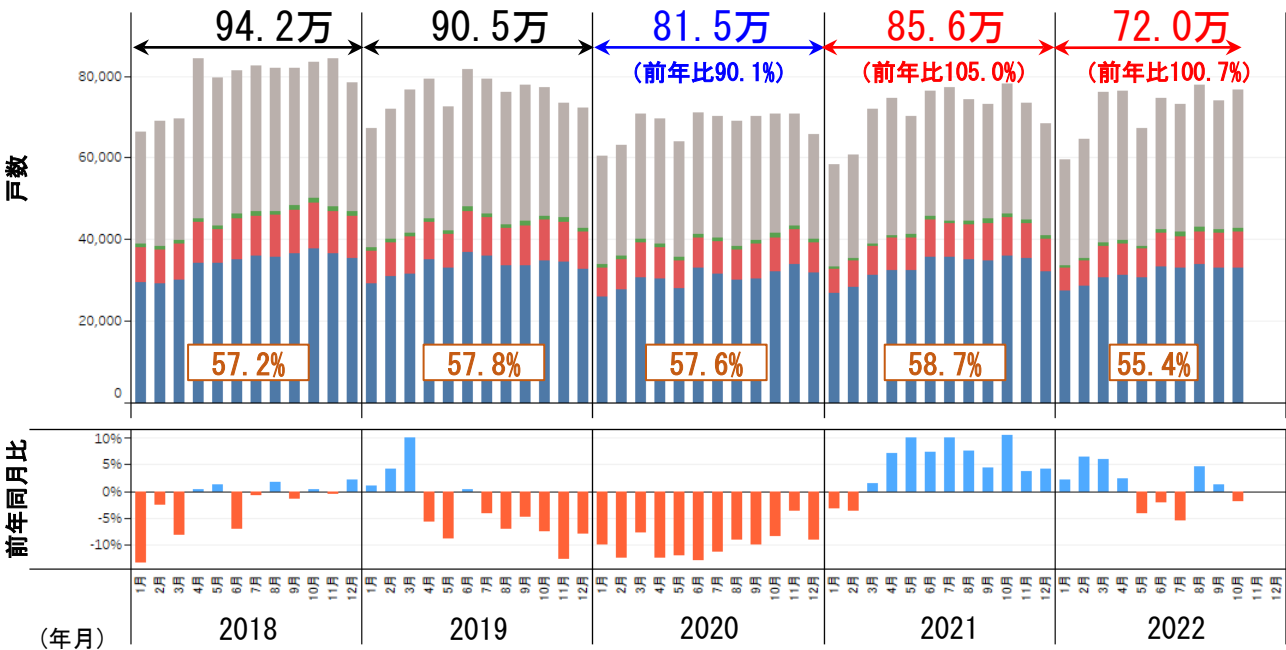
本分析資料は、省内のデータ分析の取り組み※1の一環として、林野庁(林政部企画課)と大臣官房統計部(統計データ分析支援チーム)を中心としたデータ分析プロジェクトにおいて作成※2したものです。

※1 令和4年度から新たに開始した、統計部(統計データ分析支援チーム)と政策部局が一体となってデータに基づく政策立案を推進するための取り組みです。

※2 本分析のため、農林業センサスの調査票情報を用いた独自集計を行っています。

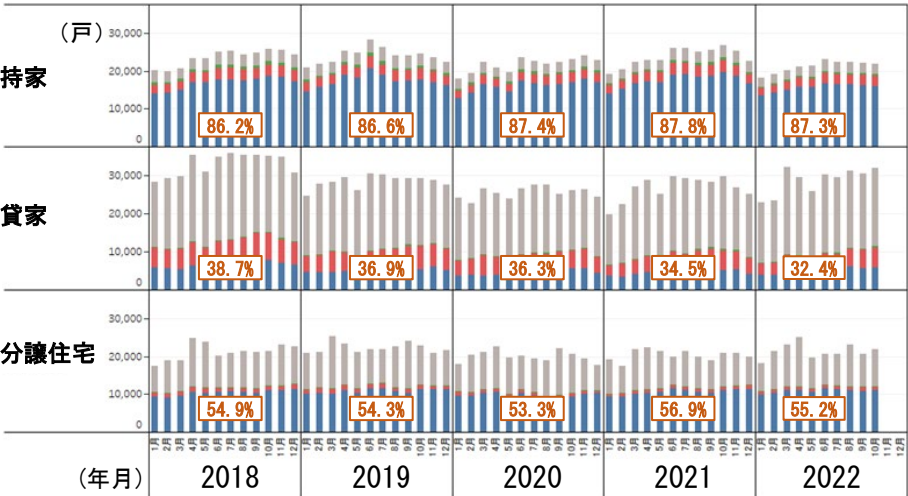
基礎的指標- 1 新設住宅着工戸数

- 2021年の新設住宅着工戸数は、85.6万戸（前年比105.0%）、このうち木造住宅は50.2万戸（同107.0%）
- 2022年1～10月の新設住宅着工戸数は、72.0万戸（前年同期比100.7%）、このうち木造住宅は39.9万戸（同95.7%）。



(単位：戸)

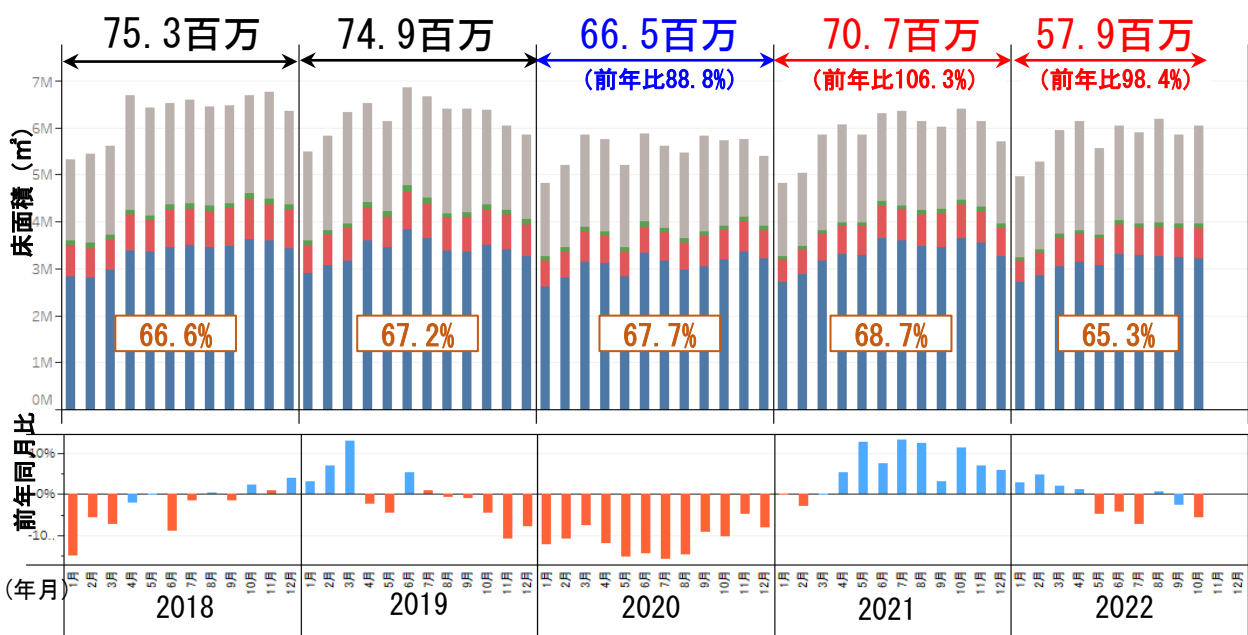
構造別の着工戸数	2022年 1～10月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	719,908	714,677	100.7%	678,899	106.0%
■ 非木造	321,154	298,088	107.7%	293,197	109.5%
木造	398,754	416,589	95.7%	385,702	103.4%
■ 木造プレハブ	8,358	8,709	96.0%	8,947	93.4%
■ 2×4	75,869	79,676	95.2%	76,884	98.7%
■ 在来軸組	314,527	328,204	95.8%	299,871	104.9%
□ 木造率	55.4%	58.3%		56.8%	



資料：国土交通省「住宅着工統計」

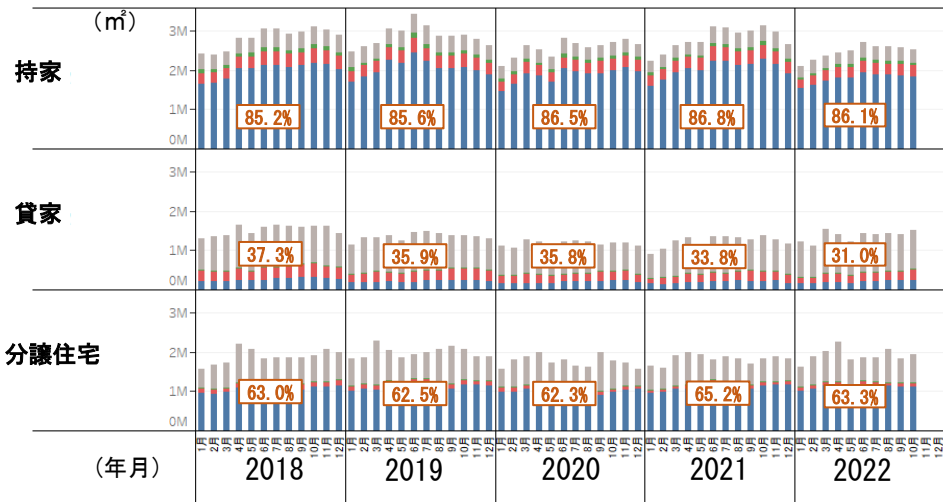
基礎的指標- 2 新設住宅着工床面積

- 2021年の新設住宅着工床面積は、70.7百万㎡（前年比106.3%）、このうち木造住宅は48.6百万㎡（同107.9%）。
- 2022年1～10月の新設住宅着工床面積は、57.9百万㎡（前年同期比98.4%）、このうち木造住宅は37.8百万㎡（同93.7%）。



構造別の 着工床面積	2022年 1～10月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	57,876	58,821	98.4%	55,319	104.6%
■ 非木造	20,104	18,519	108.6%	18,324	109.7%
木造	37,771	40,302	93.7%	36,996	102.1%
■ 木造プレハブ	827	888	93.0%	916	90.2%
■ 2×4	5,841	6,255	93.4%	5,879	99.4%
■ 在来軸組	31,104	33,158	93.8%	30,201	103.0%
□ 木造率	65.3%	68.5%		66.9%	

（参考）利用関係別の着工床面積（ただし、「給与住宅」を除く。）



資料：国土交通省「住宅着工統計」

＜参考＞非居住用建築物着工床面積

(単位:千㎡、%)

年次	月	合計		構造別			
				木造		非木造	
			前年比		前年比		前年比
2019年	1	3,970	101	259	84	3,711	102
	2	3,700	85	243	96	3,457	84
	3	3,334	81	294	105	3,040	79
	4	4,440	96	354	105	4,085	95
	5	4,170	99	327	103	3,844	99
	6	4,641	102	377	102	4,264	102
	7	4,980	100	452	122	4,527	99
	8	3,987	95	479	131	3,508	91
	9	3,609	82	431	96	3,179	80
	10	3,922	85	409	99	3,513	84
	11	3,750	90	386	102	3,364	89
	12	4,184	97	330	92	3,854	98
2020年	1	2,973	75	228	88	2,745	74
	2	3,605	97	230	95	3,374	98
	3	3,718	112	280	95	3,437	113
	4	4,086	92	312	88	3,774	92
	5	4,078	98	259	79	3,818	99
	6	3,798	82	347	92	3,451	81
	7	3,855	77	323	71	3,532	78
	8	3,662	92	371	77	3,291	94
	9	3,891	108	416	97	3,476	109
	10	3,635	93	400	98	3,235	92
	11	3,371	90	346	90	3,025	90
	12	3,565	85	308	93	3,257	85
2021年	1	3,364	113	246	108	3,118	114
	2	3,345	93	241	105	3,104	92
	3	4,272	115	287	103	3,984	116
	4	4,207	103	347	111	3,861	102
	5	4,277	105	307	119	3,970	104
	6	4,275	113	327	94	3,948	114
	7	4,082	106	344	107	3,738	106
	8	3,127	85	299	81	2,828	86
	9	3,700	95	307	74	3,394	98
	10	5,328	147	341	85	4,987	154
	11	3,737	111	293	85	3,444	114
	12	4,747	133	281	91	4,465	137
2022年	1	3,237	96	214	87	3,023	97
	2	3,711	111	223	93	3,488	112
	3	3,627	85	244	85	3,384	85
	4	4,866	116	285	82	4,581	119
	5	3,920	92	318	104	3,602	91
	6	4,788	112	349	107	4,438	112
	7	4,983	122	346	101	4,637	124
	8	3,980	127	327	109	3,653	129
	9	3,589	97	354	115	3,236	95
	10	3,599	68	300	88	3,299	66
2019年計		48,687	93	4,341	103	44,346	92
2020年計		44,237	91	3,820	88	40,415	91
2021年計		48,461	110	3,620	95	44,841	111
2019年	第1四半期	11,004	89	796	94	10,208	88
	第2四半期	13,251	99	1,058	103	12,193	99
	第3四半期	12,576	93	1,362	115	11,214	90
	第4四半期	11,856	91	1,125	98	10,731	90
2020年	第1四半期	10,296	94	738	93	9,556	94
	第2四半期	11,962	90	918	87	11,043	91
	第3四半期	11,408	91	1,110	81	10,299	92
	第4四半期	10,571	89	1,054	94	9,517	89
2021年	第1四半期	10,981	107	774	105	10,206	107
	第2四半期	12,759	107	981	107	11,779	107
	第3四半期	10,909	96	950	86	9,960	97
	第4四半期	13,812	131	915	87	12,896	136
2022年	第1四半期	10,575	96	681	88	9,895	97
	第2四半期	13,574	106	952	97	12,621	107
	第3四半期	12,552	115	1,027	108	11,526	116

資料：国土交通省「建築着工統計調査報告」

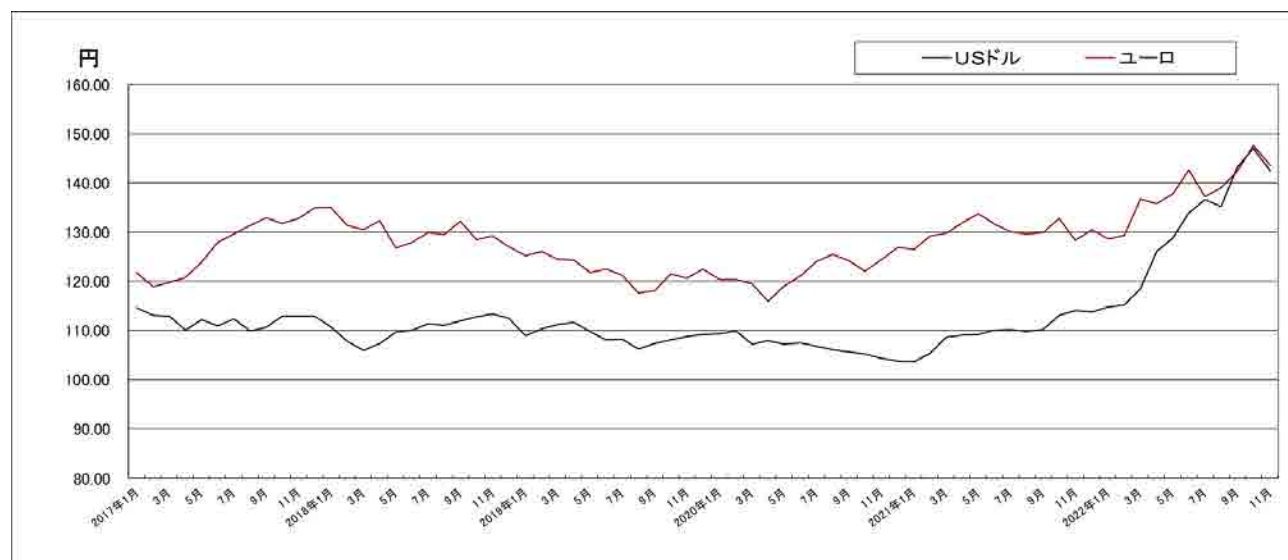
- 2021年は、木材産業の倒産件数が19件（前年比70.3%）、負債金額が4,313百万円（同112.0%）。
- 2022年1～10月は、木材産業の倒産件数が11件（前年同期比61.1%）、負債金額が7,228百万円（同171.6%）。

年・月		企業倒産状況							
		全 企 業				木材・木製品業			
		件数		負債金額		件数		負債金額	
		(件)	前年 比(%)	(百万円)	前年 比(%)	(件)	前年 比(%)	(百万円)	前年 比(%)
2019年	1	666	105	168,374	161	0	-	0	-
	2	589	95	195,534	217	1	100	10	2
	3	662	84	97,114	73	1	33	532	51
	4	645	99	106,916	112	2	50	797	111
	5	695	91	107,465	103	3	100	795	313
	6	734	106	86,957	40	1	25	59	8
	7	802	114	93,400	83	5	500	347	694
	8	678	98	87,149	72	3	300	278	150
	9	702	113	112,985	61	6	300	959	3,197
	10	780	107	88,578	75	2	100	91	1
	11	727	101	122,452	101	2	200	470	904
	12	704	113	156,864	192	4	200	543	32
2020年	1	773	116	124,734	74	0	-	0	-
	2	651	111	71,283	36	0	-	0	-
	3	740	112	105,949	109	1	100	300	56
	4	743	115	144,990	136	10	500	1,280	161
	5	314	45	81,336	76	2	67	320	40
	6	780	106	128,816	148	4	400	444	753
	7	789	98	100,821	108	1	20	89	26
	8	667	98	72,416	83	2	67	150	54
	9	565	80	70,740	63	1	17	637	66
	10	624	80	78,342	88	2	100	57	63
	11	569	78	102,101	83	3	150	550	117
	12	558	79	138,518	88	1	25	25	5
2021年	1	474	61	81,388	65	2	-	180	-
	2	446	69	67,490	95	0	-	0	-
	3	634	86	141,453	134	3	300	327	109
	4	477	64	84,098	58	4	40	50	4
	5	472	150	168,664	207	1	50	120	38
	6	541	69	68,566	53	5	125	3,296	742
	7	476	60	71,465	71	0	-	0	-
	8	466	70	90,973	126	1	50	10	7
	9	505	89	90,860	128	2	200	230	36
	10	525	84	98,464	126	0	-	0	-
	11	510	90	94,101	92	0	-	0	-
	12	504	90	93,181	67	1	100	100	400
2022年	1	452	95	66,940	82	1	50	13	7
	2	459	103	70,989	105	0	-	0	-
	3	593	94	169,673	120	4	133	2,010	615
	4	486	102	81,253	97	2	50	2,900	5,800
	5	524	111	87,380	52	1	100	180	150
	6	546	101	1,232,583	1,798	0	-	0	-
	7	494	104	84,570	118	0	-	0	-
	8	492	106	111,428	122	1	100	1,880	18,800
	9	599	119	144,871	159	1	50	45	20
	10	596	114	86,995	88	1	-	200	-
2019年計		8,384	102	1,423,788	96	30	115	4,881	40
2020年計		7,773	93	1,220,046	86	27	90	3,852	79
2021年計		6,030	78	1,150,703	94	19	70	4,313	112
2019年	第1四半期	1,917	94	461,022	141	2	33	542	33
	第2四半期	2,074	98	301,338	72	6	55	1,651	99
	第3四半期	2,182	108	293,534	70	14	350	1,584	598
	第4四半期	2,211	107	367,894	115	8	160	1,104	13
2020年	第1四半期	2,164	113	301,966	65	1	50	300	55
	第2四半期	1,837	89	355,142	118	16	267	2,044	124
	第3四半期	2,021	93	243,977	83	4	29	876	55
	第4四半期	1,751	79	318,961	87	6	75	632	57
2021年	第1四半期	1,554	72	290,331	96	5	500	507	169
	第2四半期	1,490	81	321,328	90	10	63	3,466	170
	第3四半期	1,447	72	253,298	104	3	75	240	27
	第4四半期	1,539	88	285,746	90	1	17	100	16
2022年	第1四半期	1,504	97	307,602	106	5	100	2,023	399
	第2四半期	1,556	104	1,401,216	436	3	30	3,080	89
	第3四半期	1,585	110	340,869	135	2	67	1,925	802

資料：東京商工リサーチ「TSR情報（全国企業倒産状況）」

基礎的指標-4 USドル及びユーロ為替相場

- 2022年11月の為替相場は、1ドル142.44円、1ユーロ143.58円。



(単位:円)

年月	USDドル	ユーロ
2017年1月	114.73	121.75
2月	113.06	118.98
3月	113.01	119.79
4月	110.06	120.85
5月	112.21	123.95
6月	110.91	127.97
7月	112.44	129.65
8月	109.91	131.34
9月	110.68	132.85
10月	112.96	131.76
11月	112.92	132.81
12月	112.97	134.94
2018年1月	110.77	135.08
2月	107.82	131.28
3月	106.00	130.52
4月	107.43	132.39
5月	109.69	126.73
6月	110.03	127.91
7月	111.37	129.93
8月	111.06	129.56
9月	111.89	132.14
10月	112.78	128.43
11月	113.37	129.19
12月	112.45	127.00
2019年1月	108.95	125.15
2月	110.36	126.09
3月	111.21	124.56
4月	111.66	124.38
5月	109.83	121.74
6月	108.06	122.49
7月	108.22	121.19
8月	106.27	117.63
9月	107.41	118.02
10月	108.12	121.46
11月	108.86	120.59
12月	109.18	122.54

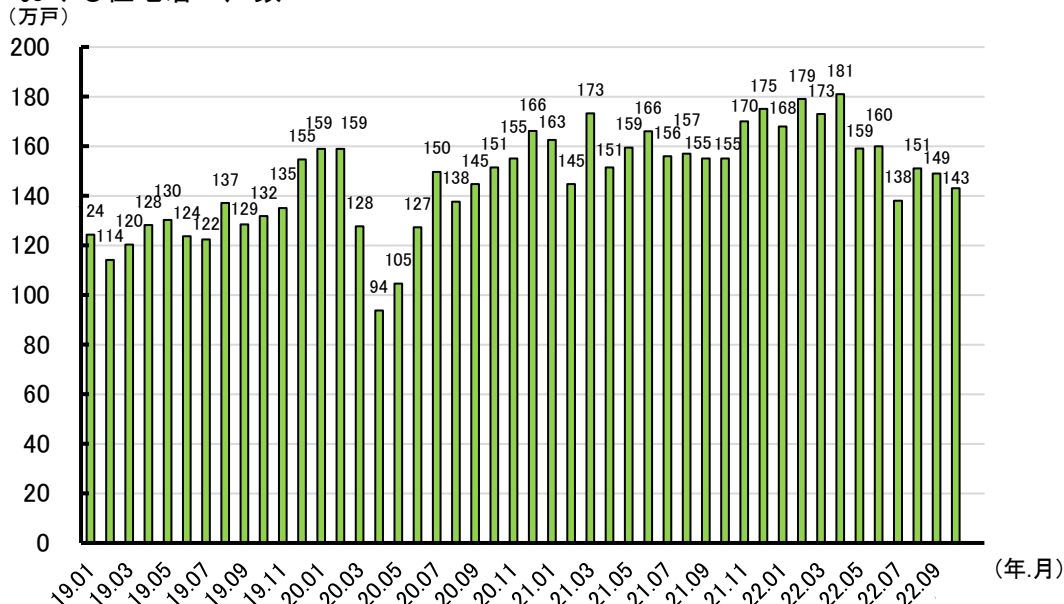
(単位:円)

年月	USDドル	ユーロ
2020年1月	109.34	120.30
2月	109.96	120.32
3月	107.29	119.55
4月	107.93	116.00
5月	107.31	119.13
6月	107.56	121.08
7月	106.78	124.13
8月	106.04	125.47
9月	105.74	124.17
10月	105.24	122.14
11月	104.40	124.38
12月	103.82	126.95
2021年1月	103.70	126.48
2月	105.36	129.15
3月	108.65	129.80
4月	109.13	131.99
5月	109.19	133.74
6月	110.11	131.58
7月	110.29	130.11
8月	109.84	129.69
9月	110.17	129.86
10月	113.10	132.77
11月	114.13	128.41
12月	113.87	130.51
2022年1月	114.83	128.66
2月	115.20	129.34
3月	118.51	136.70
4月	126.04	135.83
5月	128.78	137.76
6月	133.86	142.67
7月	136.63	137.25
8月	135.24	139.03
9月	143.14	142.32
10月	147.01	147.59
11月	142.44	143.58

資料：USドルは日銀 主要時系列統計データ表 為替相場（東京市場 スポットレート 中心相場 月平均）、ユーロは日銀「金融経済統計月報」対顧客為替相場。

- 米国の住宅着工戸数(戸建て計)は、新型コロナウイルス感染症の影響により2020年4月に急落した。その後、コロナ禍による在宅需要の増加と住宅ローンの低金利により、2020年5月から増加傾向が続き、2022年4月には181万戸(年率換算)を記録。2022年5月からは、住宅ローン金利が急騰したことにより、下落傾向が続き、2022年10月は前月比96%の143万戸と減少した。
- 世界的なコンテナ不足により、海上輸送運賃が急激に上昇。日本向けコンテナ運賃は、2020年11月頃から急上昇し、その後は欧州発、米国発ともに高値を維持していたが、2022年7月以降は下落傾向が続いている。

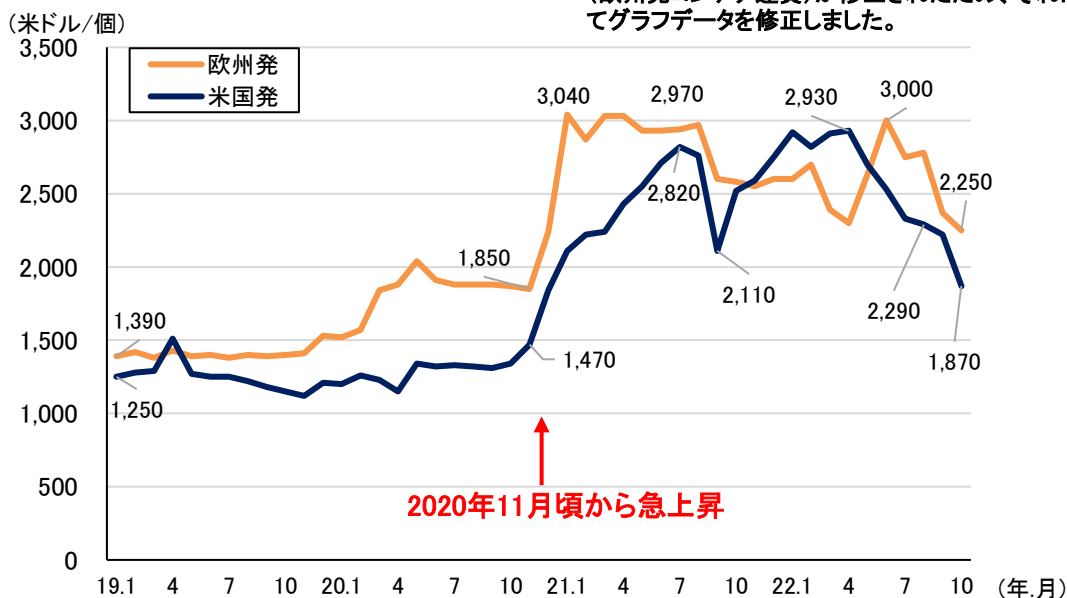
○米国における住宅着工戸数



資料：(住宅着工戸数)米国商務省「住宅着工統計」(季節調整済み、年率換算、戸建て計)

○日本向けコンテナ運賃の推移

※2022年6月に出典元のDrewry社集計データの一部(欧州発コンテナ運賃)が修正されたため、それに併せてグラフデータを修正しました。



注：40ftコンテナ。「米国発」はLos Angeles発横浜着、「欧州発」はRotterdam発横浜着。

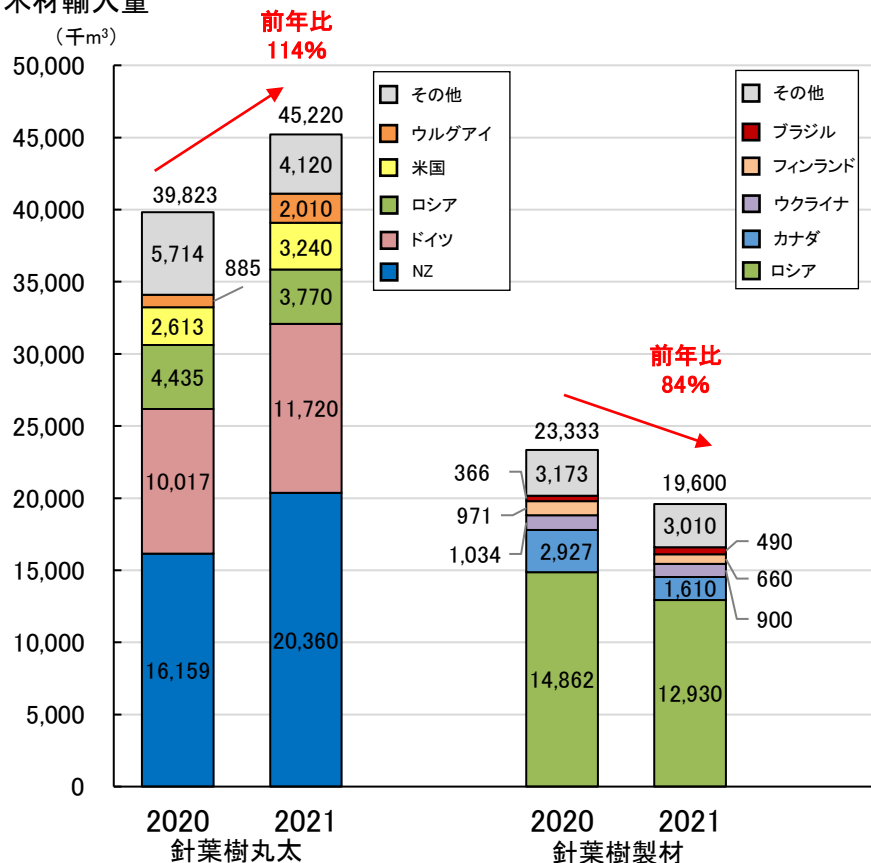
出典：Drewry「Container Freight Rate Insight」

資料：日本海事センター「主要航路コンテナ運賃動向」

基礎的指標-6 中国の木材輸入量、EUにおける建設活動水準

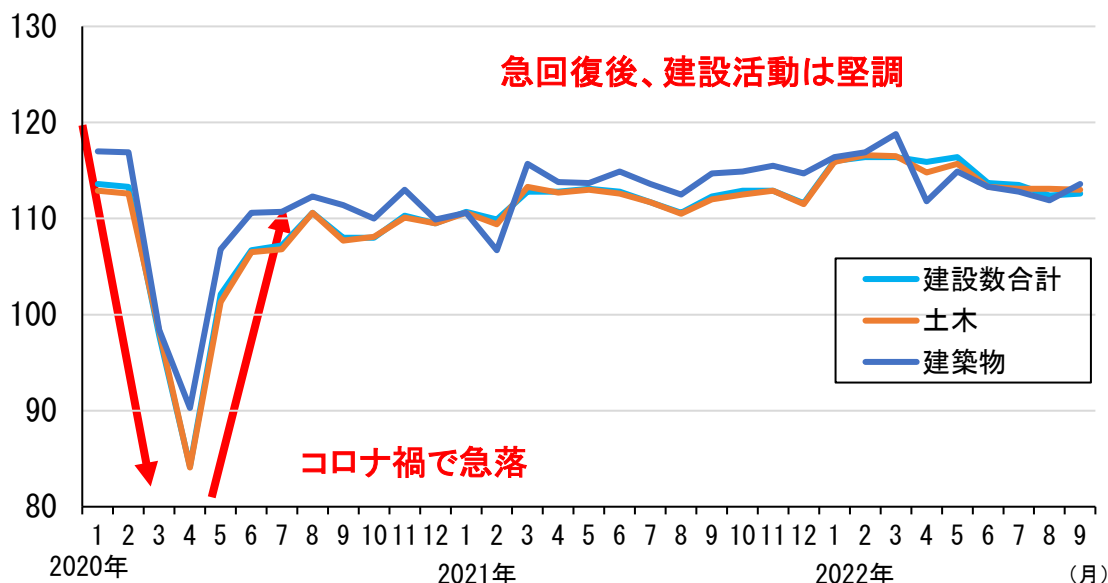
- 中国では、木材需要が継続して増加。2021年の針葉樹丸太輸入量は、前年同期比114%の4,522万 m^3 。一方、針葉樹製材輸入量は、前年同期比84%の1,960万 m^3 。木材輸入の形態が製材から丸太へシフト。
- EUでは、コロナ禍により、一昨年春に建設活動が急激に低下したが、同年夏以降は回復して、以後、堅調に推移。

○中国の木材輸入量



資料: ITTO (Tropical Timber Market Report, Vol.26 (3) (5))

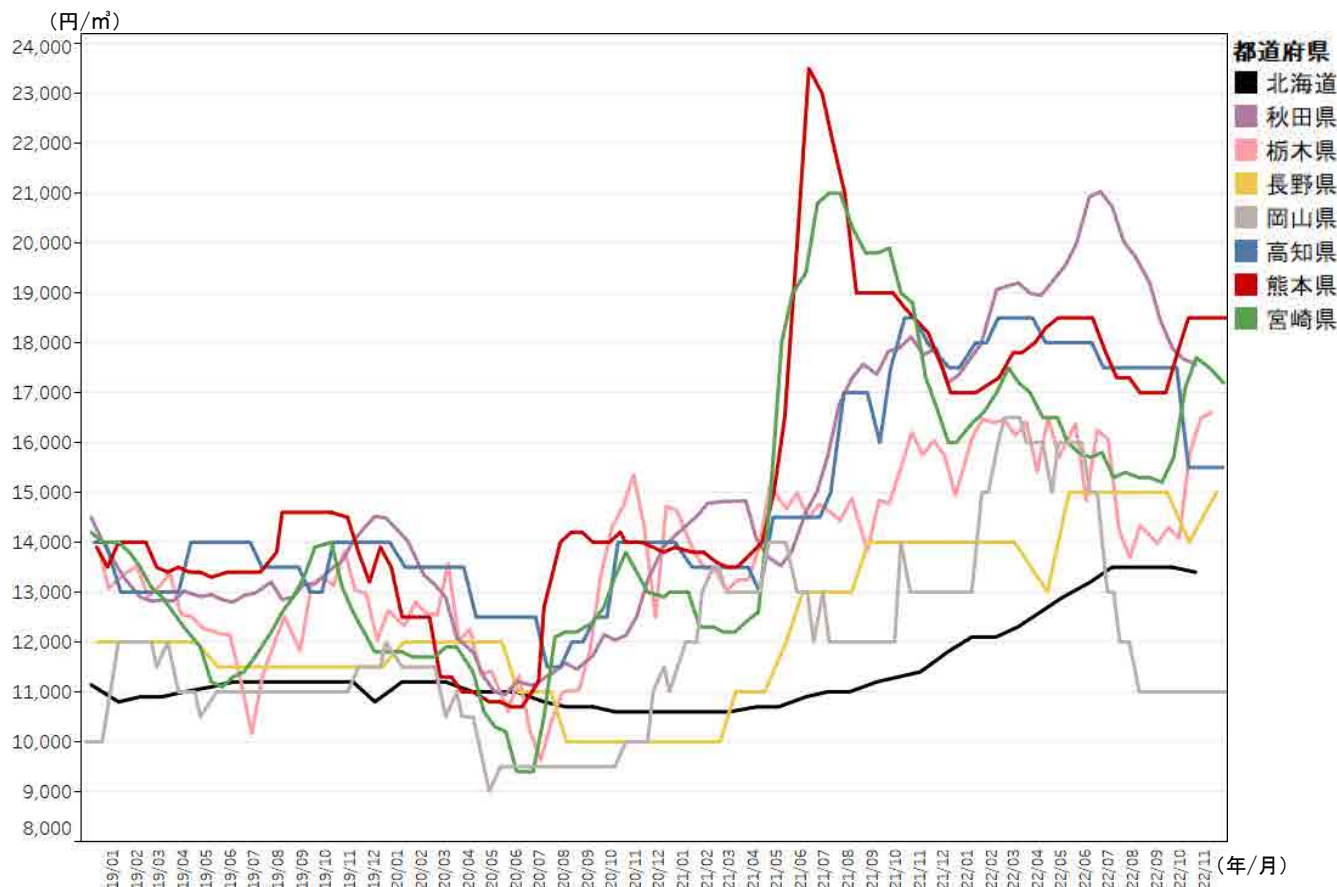
○EUにおける建設活動水準 (2015年比)
2015年=100



資料: Eurostat (Production in construction - monthly data)

木材価格情報-1 スギ原木の主要市場価格

- 2021年4月以降、いわゆるウッドショックにより価格が大きく上昇し、その後一部の地域で下落したが、全般的には、2021年3月以前と比較すると高い水準で推移。
- 直近のスギ原木価格は、11,000円～18,500円/㎡となっている。



資料：林野庁木材産業課調べ

注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。

注2：径24cm程度、長さ3.65～4.0m（2018年12月～）。

注3：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

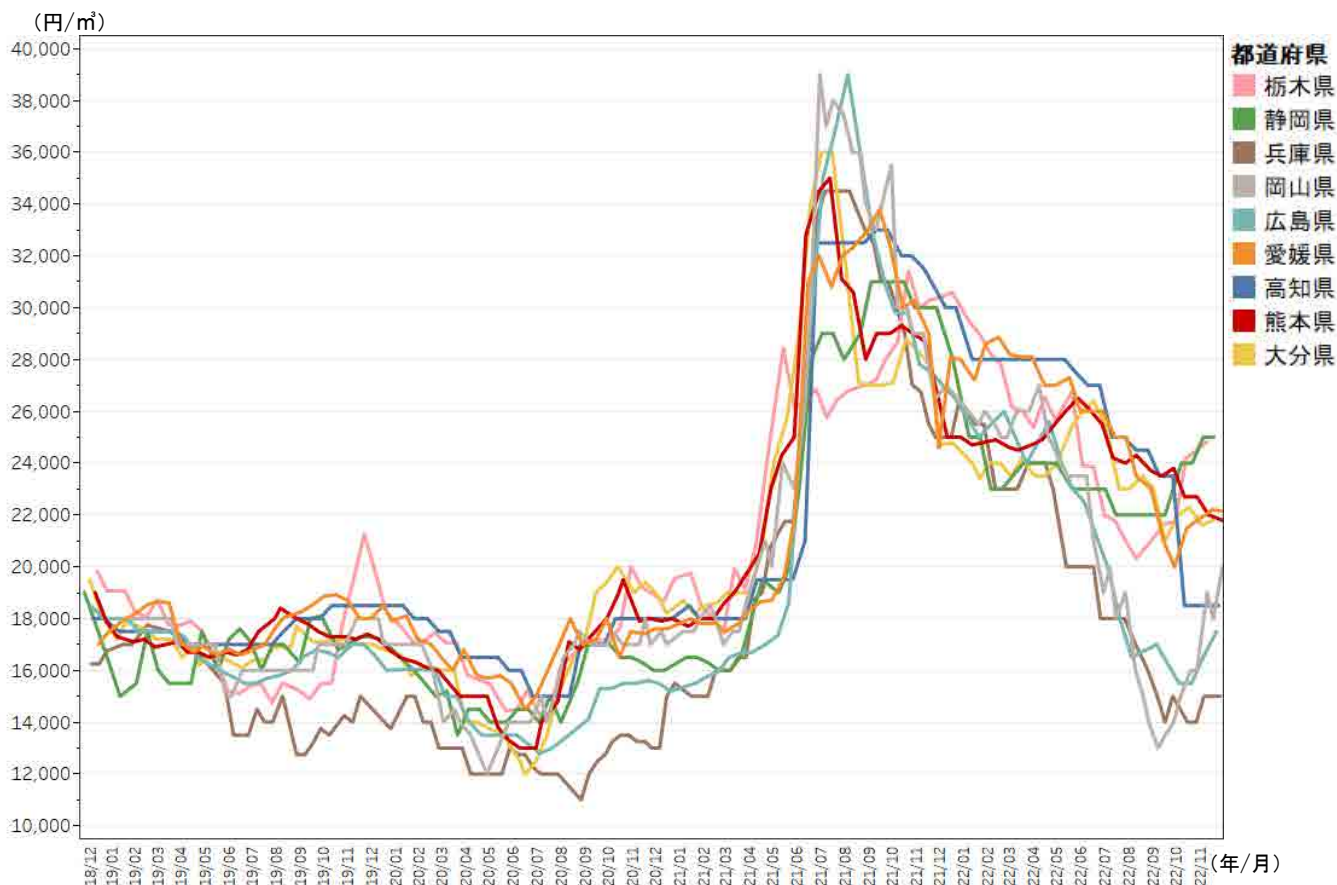
(単位：円)

都道府県	2022年 直近※	前年 同期	前年 同期比
■ 北海道	13,400	11,300	119%
■ 秋田県	17,570	18,120	97%
■ 栃木県	16,600	15,750	105%
■ 長野県	15,000	14,000	107%
■ 岡山県	11,000	13,000	85%
■ 高知県	15,500	18,000	86%
■ 熊本県	18,500	17,500	106%
■ 宮崎県	17,200	16,700	103%

※北海道、秋田県については10月、栃木県、長野県、岡山県、高知県、熊本県及び宮崎県については11月の値を使用。

木材価格情報- 1 ヒノキ原木の主要市場価格

- ・ ヒノキにおいてもスギと同様に、2021年4月以降、価格が大きく上昇。その後下落傾向に転じているが、2021年3月以前と比較すると全般的に高い水準で推移。
- ・ 直近のヒノキ原木価格は、15,000円～25,000円/㎡となっている。



資料：林野庁木材産業課調べ

注1：径24cm程度、長3.65～4.0m（2018年12月～）

注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

(単位：円)

都道府県	2022年 直近※	前年 同期	前年 同期比
栃木県	24,840	30,000	83%
静岡県	25,000	30,000	83%
兵庫県	15,000	25,000	60%
岡山県	20,000	26,500	75%
広島県	17,500	27,500	64%
愛媛県	22,150	24,600	90%
高知県	18,500	31,500	59%
熊本県	21,800	26,400	83%
大分県	21,800	27,800	78%

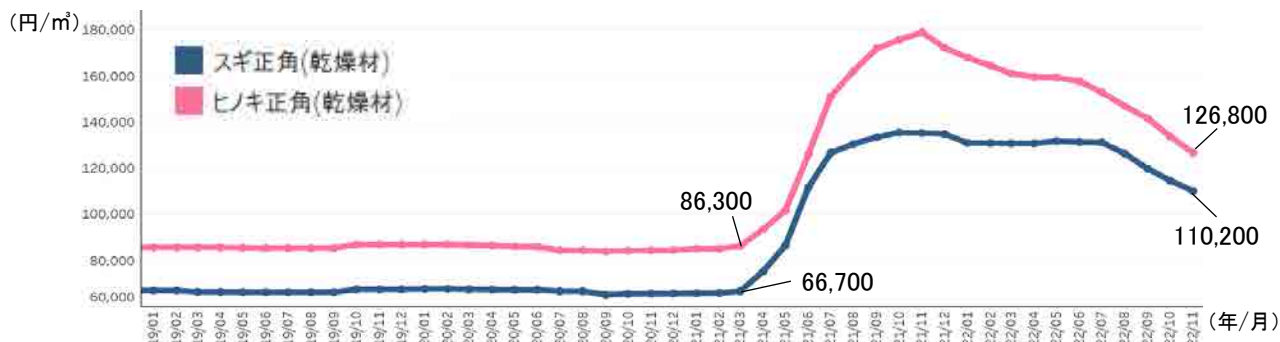
※各県11月の値を使用。

木材価格情報-2 木材価格（農林水産統計）

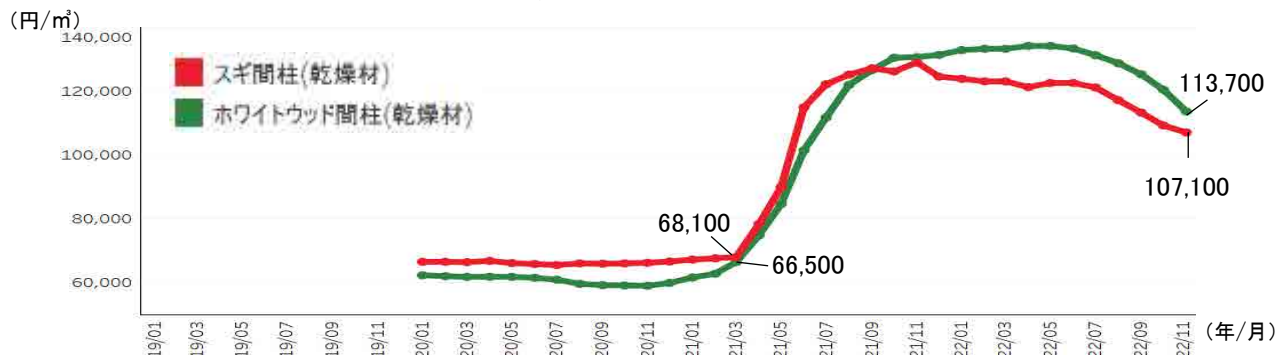
- 主な製材品及び針葉樹合板の全国平均価格は、いわゆるウッドショック以前（2021年3月以前）と比較すると、引き続き高い水準で推移。
- 2022年11月の正角（乾燥材）の価格は、スギは110,200円/m³（前年同期比81%）、ヒノキは126,800円/m³（同71%）。
- 同月の間柱（乾燥材）の価格は、スギは107,100円/m³（前年同期比83%）、ホワイトウッドは113,700円/m³（同87%）。
- 同年9月の針葉樹合板の価格は、2,350円/枚（前年同期比167%）。

■主な製材品等の価格推移（全国平均価格）

○正角（乾燥材）※厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m、2級



○間柱（乾燥材）※厚3.0cm、幅10.5cm、長3.0m、特等



○針葉樹合板 ※厚1.2cm、幅91.0cm、長1.82m、1類



資料：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

- 注：1 針葉樹合板は、2022年1月より、四半期ごとの公表となった（4月に1～3月分、7月に4～6月分、10月に7～9月分、翌1月に10～12月分を公表）。
- 2 製材品価格及び合板価格は、木材市売市場にあたってはせり又は入札による取引価格、木材センター及び木材販売業者にあたっては店頭渡し価格である。
- 3 2022年は「木材価格」に拠る速報値、2021年以前は「木材需給報告書」に拠る確定値である。（速報値は今後修正される可能性がある）

○カラマツ中丸太（製材用、径14.0～28.0cm、長3.65～4.0m）

・2021年

単位：円／m³

都道府県	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
北海道	11,900	12,000	11,900	11,900	11,900	12,500	12,700	12,800	13,100	13,200	13,300	13,300
岩手	17,600	17,600	17,600	17,700	18,300	18,800	20,100	20,100	20,800	20,900	21,000	21,100

・2022年

都道府県	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月
北海道	13,700	13,600	13,800	14,000	14,500	15,800	15,500	15,700	15,500	15,600	15,600
岩手	21,200	23,900	25,300	25,500	31,500	32,000	32,200	30,500	30,500	30,100	28,200

○スギ丸太（合板用、径18.0cm上）

・2021年

単位：円／m³

都道府県	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
岩手	9,600	9,600	9,600	9,600	9,600	9,600	9,600	9,900	10,600	11,300	11,700	12,400
宮城	10,900	10,900	10,900	10,900	10,900	11,100	11,100	11,100	11,600	11,900	13,300	14,400
秋田	10,300	10,300	10,300	10,600	10,500	10,600	10,600	11,200	11,400	11,500	12,900	13,300
島根	11,900	12,700	12,800	12,800	12,900	13,000	13,200	13,800	14,300	14,800	14,900	14,900

・2022年

都道府県	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月
岩手	12,600	13,300	14,100	14,100	14,100	15,100	14,500	13,800	13,800	13,800	13,800
宮城	15,300	16,400	16,400	16,400	16,400	16,400	16,400	16,400	16,400	16,400	16,400
秋田	14,100	16,700	17,200	17,900	17,800	17,800	18,100	17,800	17,100	16,900	16,200
島根	14,300	14,900	15,000	15,300	15,600	15,500	15,700	15,400	15,300	15,400	15,200

○スギ正角（厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m、2級）

・2021年

単位：円／m³

都道府県	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
千葉	52,900	52,900	52,900	66,800	72,000	98,700	98,700	98,700	98,700	98,700	98,500	88,000
東京	x	x	x	x	66,000	66,000	66,000	61,200	61,200	61,200	61,200	61,200
大阪	55,000	55,000	58,100	61,900	65,000	80,500	92,900	105,800	105,800	105,800	105,800	105,800
福岡	38,900	38,900	38,900	41,800	44,000	53,600	56,900	57,200	57,200	59,300	58,600	58,600

・2022年

都道府県	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
千葉			88,000			88,000			77,300
東京			58,800			58,800			57,300
大阪			103,100			103,100			103,100
福岡			58,600			60,500			58,600

※2022年1月より四半期ごとの公表（4月に3月分、7月に6月分、10月に9月分、翌1月に12月分を公表）。次回公表は1月。

○スギ正角・乾燥材（厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m、2級）

・2021年

単位：円／m³

都道府県	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
埼玉	60,900	61,000	64,100	86,000	97,800	132,500	137,600	138,800	143,200	143,000	142,700	142,300
千葉	69,100	69,400	70,100	86,300	99,000	125,500	147,100	152,300	153,100	153,100	146,900	142,900
東京	71,400	71,400	71,400	71,500	85,900	115,400	142,600	142,900	148,300	148,300	148,300	148,300
神奈川	66,300	68,100	68,500	77,400	79,400	111,200	131,700	152,000	153,000	153,100	153,100	153,100
愛知	71,300	71,300	71,300	80,700	89,100	107,500	121,800	121,800	121,800	121,800	121,600	116,100
大阪	70,600	70,600	70,900	76,800	82,500	99,000	111,200	111,200	111,200	112,500	112,500	112,500
兵庫	70,200	70,200	71,500	79,300	91,500	113,300	128,000	142,700	142,700	142,700	142,700	142,700
福岡	62,000	62,000	62,000	67,400	77,800	93,100	103,900	112,900	113,600	120,400	120,400	120,400

・2022年

都道府県	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月
埼玉	125,700	125,200	125,200	125,500	125,500	124,400	123,700	112,200	109,800	96,100	95,700
千葉	146,100	146,100	146,100	140,800	140,800	140,800	140,800	135,500	135,500	134,700	132,400
東京	148,900	148,900	148,900	148,900	148,900	148,900	148,800	148,800	132,800	132,400	126,800
神奈川	153,100	153,000	153,000	153,000	153,000	152,300	151,600	151,500	146,300	139,800	134,000
愛知	116,100	116,100	114,800	114,800	120,100	120,100	120,100	117,300	114,400	110,500	109,700
大阪	111,900	111,900	111,900	112,500	122,300	121,700	121,700	111,900	111,900	110,000	105,200
兵庫	142,900	142,900	142,900	142,900	146,000	143,700	143,700	134,300	131,200	128,000	122,600
福岡	120,400	120,400	120,400	120,400	120,400	120,300	120,300	117,600	113,800	110,100	102,800

資料：農林水産省「木材価格」

注1：2021年8月より、東京都の調査対象が変更になったことから、2021年7月及び8月の東京都のスギ正角の数値は接続しない。

注2：「x」は、個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表していないもの。

注3：年間を通じて価格を「x」として、統計数値を公表していない都道府県は省略している。

注4：スギ正角の価格は、2022年1月より四半期ごとの公表となった（4月に3月分、7月に6月分、10月に9月分、翌1月に12月分を公表）。

○ヒノキ正角（厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m、2級）

・2021年

単位：円／m³

都道府県	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
千葉	71,900	71,900	71,900	73,900	84,800	86,000	98,200	98,200	98,200	98,200	98,200	98,200
東京	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
愛知	85,400	85,400	85,400	86,700	88,000	92,500	96,100	96,100	96,100	96,100	96,100	96,100
大阪	62,400	62,400	71,300	67,900	72,000	83,200	108,700	118,200	145,700	129,000	129,000	125,800
兵庫	66,800	66,800	67,200	69,500	76,400	79,600	87,400	99,300	120,700	120,400	120,400	116,100
福岡	50,300	50,300	50,300	50,300	55,800	66,000	82,500	82,500	82,500	82,500	82,500	82,500

・2022年

都道府県	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
千葉			98,200			98,100			92,000
東京			x			x			x
愛知			94,800			94,800			93,500
大阪			119,700			112,100			107,900
兵庫			116,300			114,300			106,300
福岡			82,500			86,600			84,200

※2022年1月より四半期ごとの公表（4月に3月分、7月に6月分、10月に9月分、翌1月に12月分を公表）。次回公表は1月。

○ヒノキ正角・乾燥材（厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m、2級）

・2021年

単位：円／m³

都道府県	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
埼玉	78,200	78,200	79,000	91,400	100,900	138,900	147,000	148,000	164,300	168,700	167,900	160,200
千葉	94,000	94,900	95,800	105,500	114,200	131,500	149,300	161,300	161,300	165,900	163,800	164,900
東京	98,900	98,900	98,900	98,900	104,500	121,000	142,900	143,100	159,500	175,800	175,800	175,800
神奈川	78,700	79,000	84,100	94,800	110,500	146,200	178,800	184,700	186,300	187,400	187,400	187,400
愛知	94,700	94,700	94,700	97,500	102,900	113,500	128,100	129,400	142,400	142,900	165,700	161,900
大阪	80,100	80,100	82,800	90,600	98,000	128,900	169,100	192,900	193,800	193,800	193,800	181,100
兵庫	78,900	78,900	79,700	88,600	101,800	113,800	152,600	179,600	188,800	188,400	188,400	180,800

・2022年

都道府県	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月
埼玉	145,600	142,500	142,500	142,500	142,500	141,800	139,800	128,600	122,800	110,100	109,700
千葉	171,400	169,100	169,100	164,800	164,800	164,800	164,800	158,100	158,100	156,100	150,200
東京	175,500	175,400	175,400	175,500	175,500	175,500	175,200	175,200	164,600	164,200	153,400
神奈川	187,400	185,300	185,300	185,300	185,300	181,900	178,600	173,300	167,300	151,900	146,500
愛知	159,400	159,400	151,900	149,700	149,700	149,700	137,000	131,600	130,700	124,600	117,000
大阪	176,400	169,900	163,600	162,600	161,700	159,800	154,400	152,600	147,000	137,800	130,600
兵庫	184,800	178,400	173,900	168,100	168,100	161,200	156,600	143,000	138,400	131,500	117,900

○米ツガ正角・防腐処理材（厚10.5cm、幅10.5cm、長4.0m、2級）

・2021年

単位：円／m³

都道府県	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
埼玉	78,900	78,900	79,900	85,600	98,600	104,600	116,100	129,300	139,300	139,300	141,300	141,300
千葉	78,200	78,500	78,500	85,600	91,900	100,300	119,100	129,800	139,400	139,400	139,400	138,500
神奈川	81,000	82,000	84,500	86,500	95,700	105,600	117,700	133,300	137,400	139,700	139,700	142,200
愛知	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	145,500	136,900
大阪	79,200	79,200	84,200	93,500	96,200	104,500	121,000	121,000	121,000	121,000	121,000	121,000
兵庫	79,200	79,200	80,500	88,000	93,500	103,300	107,700	114,300	121,000	121,000	121,000	121,000

・2022年

都道府県	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
北海道			135,700			138,000			138,000
埼玉			144,700			148,800			151,900
千葉			139,800			142,400			142,400
東京			154,400			154,400			154,400
神奈川			142,200			143,100			143,100
愛知			158,300			158,300			145,500
大阪			121,000			132,000			132,000
兵庫			138,500			141,800			141,800

※2022年1月より四半期ごとの公表（4月に3月分、7月に6月分、10月に9月分、翌1月に12月分を公表）。次回公表は1月。

資料：農林水産省「木材価格」

注1：「x」は、個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表していないもの。

注2：年間を通じて価格を「x」として、統計数値を公表していない都道府県は省略している。

注3：ヒノキ正角、米ツガ正角・防腐処理材の価格は、2022年1月より四半期ごとの公表となった（4月に3月分、7月に6月分、10月に9月分、翌1月に12月分を公表）。

○スギ間柱・乾燥材（厚3.0cm、幅10.5cm、長3.0m、特等）

・2021年

単位：円／m³

都道府県	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
埼玉	60,200	60,900	62,800	78,900	94,600	130,900	133,100	133,100	138,900	136,000	131,200	122,300
千葉	65,300	65,800	66,600	77,100	93,600	136,600	140,900	141,800	142,100	137,500	124,700	119,300
東京	x	x	66,800	71,700	97,200	109,400	112,400	132,000	133,800	133,800	133,800	124,000
神奈川	67,100	67,600	69,800	81,300	88,500	116,900	135,100	140,500	141,600	141,900	141,200	136,800
愛知	68,300	68,300	68,300	79,300	85,400	99,800	112,300	119,200	119,800	119,800	119,300	119,300
大阪	62,700	63,100	63,800	74,800	82,500	89,100	110,000	118,800	121,000	121,000	121,000	112,200
兵庫	68,300	69,400	70,500	77,200	88,300	104,900	131,500	136,800	137,300	137,300	137,100	137,000
広島	85,500	85,800	85,800	95,000	95,000	96,200	97,400	97,400	101,000	101,000	167,200	167,200
福岡	65,700	65,700	65,700	71,700	80,500	101,300	104,800	105,500	105,500	108,900	108,900	107,100

・2022年

都道府県	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月
埼玉	115,400	113,300	113,300	116,600	120,600	120,100	116,900	111,200	103,800	99,500	96,100
千葉	120,300	120,300	120,300	120,200	120,200	120,200	120,200	115,200	110,300	107,500	103,600
東京	129,300	129,300	129,300	129,300	129,300	129,300	122,200	122,200	120,900	115,400	107,500
神奈川	134,400	132,900	132,900	132,900	132,900	131,800	131,300	128,900	122,200	117,500	116,100
愛知	121,800	119,300	119,300	119,300	120,500	120,500	120,500	113,700	110,300	106,900	106,500
大阪	112,200	112,200	112,200	112,200	121,000	118,800	118,800	110,000	110,000	110,000	105,600
兵庫	137,000	137,000	137,000	137,200	142,400	142,400	137,200	131,900	126,600	121,200	121,100
広島	167,200	167,200	167,200	141,900	138,100	140,800	140,800	140,800	138,500	127,300	127,300
福岡	107,100	107,100	107,100	107,100	106,900	106,900	106,900	105,900	105,900	104,900	104,900

○ホワイトウッド間柱・乾燥材（厚3.0cm、幅10.5cm、長3.0m、特等）

・2021年

単位：円／m³

都道府県	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
埼玉	56,800	58,100	65,400	75,900	89,000	99,200	107,000	116,400	118,700	120,200	120,200	120,200
千葉	75,500	76,800	79,600	93,300	103,500	123,500	131,500	138,700	141,500	147,700	147,700	148,000
東京	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
神奈川	58,900	60,200	66,700	79,500	90,600	107,000	115,900	127,400	132,300	136,900	136,900	139,200
愛知	63,200	63,800	66,300	69,100	78,200	92,900	102,500	112,800	118,400	123,100	125,600	126,900
大阪	x	x	x	x	x	97,700	109,400	119,700	121,000	122,300	127,100	127,100
兵庫	56,700	57,800	59,900	73,500	84,500	99,200	114,300	133,200	133,200	140,600	128,800	128,800
広島	72,200	75,300	78,200	78,800	79,000	91,500	102,100	102,400	124,900	125,200	126,300	126,300

・2022年

都道府県	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月
埼玉	111,300	111,300	111,300	121,000	122,400	122,400	119,000	114,700	111,500	107,800	99,900
千葉	148,000	148,000	148,000	148,000	148,000	148,000	148,000	145,600	143,800	134,800	134,600
東京	147,300	147,300	147,300	147,300	147,300	147,300	147,300	147,300	144,400	131,300	130,000
神奈川	139,200	137,800	137,800	137,800	138,500	139,000	136,700	136,000	133,000	125,300	121,700
愛知	126,900	128,100	128,100	127,900	127,900	127,200	126,900	126,500	122,200	115,200	106,700
大阪	132,000	132,000	132,000	132,000	132,000	126,900	121,600	115,500	110,600	110,000	104,500
兵庫	140,400	143,200	143,200	143,200	143,200	143,200	140,400	137,500	134,600	134,600	115,700
広島	126,300	126,300	126,300	125,600	121,500	125,600	125,400	124,300	122,400	122,400	119,700

○スギ集成管柱（厚10.5cm、幅10.5cm、長2.98～3.0m、1等）

・2021年

単位：円／本

都道府県	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
宮崎	1,800	1,900	1,900	2,000	2,200	2,700	2,900	3,000	3,200	3,800	4,400	4,400

・2022年

都道府県	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月
秋田	x	4,700	4,400	4,400	4,300	4,200	4,000	4,000	4,000	3,800	3,600
宮崎	4,200	4,300	4,300	4,300	4,300	4,400	4,400	4,400	4,200	4,200	4,000

○ホワイトウッド集成管柱（厚10.5cm、幅10.5cm、長2.98～3.0m、1等）

・2021年

単位：円／本

都道府県	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
岡山	2,000	2,000	2,100	2,300	2,300	2,800	2,900	3,500	4,400	5,100	5,100	5,100

・2022年

都道府県	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月
岡山	5,100	5,100	5,100	5,100	5,100	5,100	4,900	4,700	4,500	4,400	4,200

○針葉樹合板（厚1.2cm、幅91.0cm、長1.82m、1類）

・2021年

単位：円／枚

都道府県	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
埼玉	1,180	1,180	1,190	1,190	1,260	1,320	1,360	1,390	1,510	1,520	1,590	1,760
東京	1,360	1,360	1,360	1,360	1,390	1,410	1,440	1,460	1,510	1,580	1,640	1,760
大阪	1,030	1,030	1,030	1,030	1,060	1,060	1,110	1,150	1,170	1,290	1,330	1,660

・2022年

都道府県	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
埼玉			2,220			2,420			2,390
東京			2,140			2,420			2,410
大阪			1,840			1,990			2,220

※2022年1月より四半期ごとの公表（4月に3月分、7月に6月分、10月に9月分、翌1月に12月分を公表）。次回公表は1月。

資料：農林水産省「木材価格」

注1：「x」は、個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表していないもの。

注2：年間を通じて価格を「x」として、統計数値を公表していない都道府県は省略している。

注3：針葉樹合板の価格は、2022年1月より四半期ごとの公表となった（4月に3月分、7月に6月分、10月に9月分、翌1月に12月分を公表）。

木材需給情報- 1 木材需要の動向（2021年木材需給表）

- 木材の総需要量は、82,132千 m^3 （対前年比110.3%）となった。内訳は、用材が67,142千 m^3 （同109.4%）、しいたけ原木が246千 m^3 （同101.7%）、燃料材が14,744千 m^3 （同115.1%）である。
- 国内消費量は、78,881千 m^3 （対前年比110.4%）となった。この中で、前年に比べて増加量が大きかったものは、パルプ・チップ用材の+2,629千 m^3 （同110.6%）、燃料材の+1,940千 m^3 （同115.2%）である。
- 輸出量は、3,251千 m^3 （対前年比108.0%）となった。この中で、前年に比べて増加したものは、丸太（用材）の+75千 m^3 （同105.4%）、製材品等の+60千 m^3 （同121.8%）、合板等の+58千 m^3 （同132.4%）、木材パルプ・チップ等の+50千 m^3 （同104.3%）である。

木 材 需 要 の 動 向

区 分			2021年		2020年		対前年 増減量 (千m ³)	対前年 比 (%)
			数量 (千m ³)	構成比 (%)	数量 (千m ³)	構成比 (%)		
総 需 要 量	用 材	製 材 用 材	26,179	31.9	24,597	33.0	1,582	106.4
		合 板 用 材	10,294	12.5	8,919	12.0	1,375	115.4
		ハ°ルフ°・チップ°用材	28,743	35.0	26,064	35.0	2,679	110.3
		そ の 他 用 材	1,926	2.3	1,812	2.4	114	106.3
		小 計	67,142	81.7	61,392	82.5	5,750	109.4
	し い た け 原 木		246	0.3	242	0.3	4	101.7
	燃 料 材		14,744	18.0	12,805	17.2	1,939	115.1
計			82,132	100.0	74,439	100.0	7,693	110.3
国 内 消 費	用 材	製 材 用 材	25,844	32.8	24,321	34.0	1,523	106.3
		合 板 用 材	10,056	12.7	8,741	12.2	1,315	115.0
		ハ°ルフ°・チップ°用材	27,529	34.9	24,900	34.9	2,629	110.6
		そ の 他 用 材	466	0.6	426	0.6	40	109.4
		小 計	63,895	81.0	58,387	81.7	5,508	109.4
	し い た け 原 木		246	0.3	242	0.3	4	101.7
	燃 料 材		14,740	18.7	12,800	17.9	1,940	115.2
計			78,881	100.0	71,430	100.0	7,451	110.4
輸 出	用 材	丸 太	1,459	44.9	1,384	46.0	75	105.4
		製 材 品 等	335	10.3	275	9.2	60	121.8
		合 板 等	237	7.3	179	5.9	58	132.4
		木材ハ°ルフ°・チップ°等	1,214	37.3	1,164	38.7	50	104.3
		そ の 他	2	0.1	3	0.1	△ 1	66.7
	小 計	3,247	99.9	3,005	99.8	242	108.1	
	燃 料 材		4	0.1	5	0.2	△ 1	80.0
計			3,251	100.0	3,009	100.0	242	108.0

資料：林野庁「木材需給表」

注：1）燃料材とは、木炭、薪、燃料用チップ及びペレットである。

2）輸出の製材品等は、製材、集成材、構造用集成材、セルラーウツパネル、加工材等である。

3）輸出の合板等は、合板、薄板・単板、ブロックボード等である。

4）輸出の木材パルプ・チップ等は、木材パルプ、木材チップ、再生木材である。

5）輸出の用材のその他は、改良木材、枕木、のこくず・木くずである。

6）数値の合計値は、四捨五入のため計に一致しない場合がある。

木材需給情報- 1 木材供給の動向（2021年木材需給表）

- 木材の総供給量は、82,132千 m^3 （対前年比110.3%）となった。内訳は、用材が67,142千 m^3 （同109.4%）、しいたけ原木が246千 m^3 （同101.7%）、燃料材が14,744千 m^3 （同115.1%）である。
- 国内生産量は、33,723千 m^3 （対前年比108.3%）となった。この中で、前年に比べて増加量が大きかったものは、丸太（用材）の+2,092千 m^3 （同109.6%）である。
- 輸入量は、48,409千 m^3 （対前年比111.8%）となった。この中で、前年に比べ増加量が大きかったものは、木材チップ等の+2,538千 m^3 （同115.2%）、燃料材の+1,516千 m^3 （同139.1%）である。一方で、製材品等は△218千 m^3 （同97.8%）、木材パルプは△199千 m^3 （同96.0%）と減少した。

木 材 供 給 の 動 向

区 分			2021年		2020年		対前年 増減量 (千 m^3)	対前年 比 (%)
			数量 (千 m^3)	構成比 (%)	数量 (千 m^3)	構成比 (%)		
総供給量	用材	丸太	27,845	33.9	25,180	33.8	2,665	110.6
		林地残材	161	0.2	106	0.1	55	151.9
		輸入木材製品	39,136	47.6	36,106	48.5	3,030	108.4
		小計	67,142	81.7	61,392	82.5	5,750	109.4
	しいたけ原木		246	0.3	242	0.3	4	101.7
	燃料材		14,744	18.0	12,805	17.2	1,939	115.1
	計		82,132	100.0	74,439	100.0	7,693	110.3
国内生産	用材	丸太	23,966	71.1	21,874	70.2	2,092	109.6
		林地残材	161	0.5	106	0.3	55	151.9
		小計	24,127	71.5	21,980	70.6	2,147	109.8
	しいたけ原木		246	0.7	242	0.8	4	101.7
	燃料材		9,350	27.7	8,927	28.7	423	104.7
	計		33,723	100.0	31,149	100.0	2,574	108.3
輸入	用材	丸太	3,879	8.0	3,306	7.6	573	117.3
		製材品等	9,903	20.5	10,121	23.4	△ 218	97.8
		合板等	5,201	10.7	4,293	9.9	908	121.2
		木材パルプ	4,798	9.9	4,997	11.5	△ 199	96.0
		木材チップ等	19,184	39.6	16,646	38.5	2,538	115.2
		その他	49	0.1	49	0.1	0	100.0
	木材製品	細計	39,136	80.8	36,106	83.4	3,030	108.4
		小計	43,015	88.9	39,412	91.0	3,603	109.1
	燃料材		5,394	11.1	3,878	9.0	1,516	139.1
	計		48,409	100.0	43,290	100.0	5,119	111.8

資料：林野庁「木材需給表」

注：1）林地残材とは、立木を伐採した後の林地に残されている根株、枝条等のうち、利用を目的に木材チップ工場に搬入されたものである。

2）燃料材とは、木炭、薪、燃料用チップ及びペレットである。

3）輸入の製材品等は、製材、集成材、構造用集成材、セルラーウツパネル、加工材等である。

4）輸入の合板等は、合板、薄板・単板、ブロックボード等である。

5）輸入の木材チップ等は、木材チップ、再生木材である。

6）輸入の用材のその他は、改良木材、枕木、のこくず・木くずである。

7）数値の合計値は、四捨五入のため計に一致しない場合がある。

木材需給情報- 1 木材自給率の動向（2021年木材需給表）

- ・ 建築用材等の自給率は、製材用材の国内生産が大きく増加したこと等により、対前年比で0.8ポイント上昇し、48.0%となった。
- ・ 非建築用材等の自給率は、パルプ・チップ用材及び燃料材の輸入が大きく増加したこと等により、対前年比で2.0ポイント低下し、35.5%となった。
- ・ これらを合わせた総数での自給率は、対前年比で0.7ポイント低下し、41.1%となった。

【参考】木材自給率（%）＝ 国内生産量÷総需要量（※）×100

※「総需要量」は「国内消費量」に「輸出量」を加えたもの。

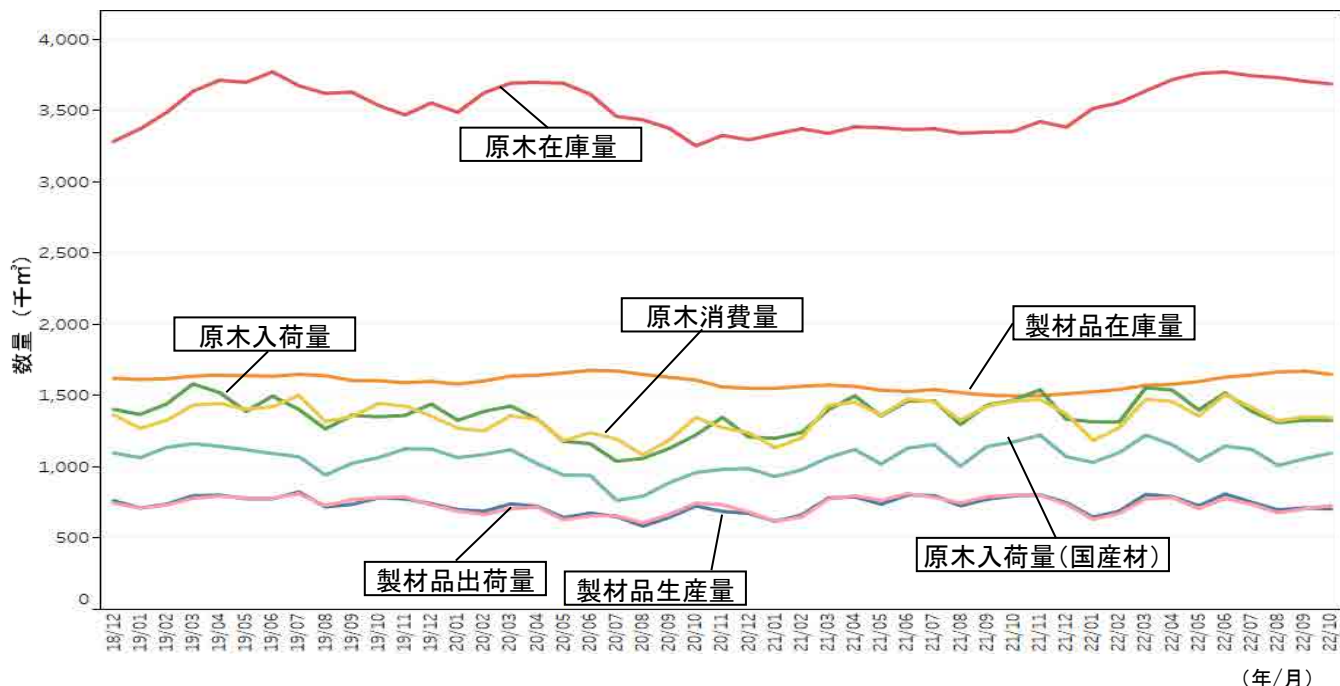
木 材 自 給 率 の 動 向

区 分			2021年 数 量 (千m ³)	2020年 数 量 (千m ³)	対前年 増減量 (千m ³)	対前年比 (%)
建築用材等		国 内 生 産	17,522	15,810	1,712	110.8
		輸 入	18,951	17,706	1,245	107.0
		総 需 要 量	36,473	33,516	2,957	108.8
		自 給 率	48.0%	47.2%	0.8ポ イント	
用材	製 材 用 材	国 内 生 産	12,861	11,615	1,246	110.7
		輸 入	13,318	12,982	336	102.6
		総 需 要 量	26,179	24,597	1,582	106.4
		自 給 率	49.1%	47.2%	1.9ポ イント	
	合 板 用 材	国 内 生 産	4,661	4,195	466	111.1
		輸 入	5,633	4,724	909	119.2
非建築用材等		総 需 要 量	10,294	8,919	1,375	115.4
		自 給 率	45.3%	47.0%	△ 1.7ポ イント	
		国 内 生 産	16,201	15,339	862	105.6
		輸 入	29,458	25,584	3,874	115.1
		総 需 要 量	45,659	40,923	4,736	111.6
		自 給 率	35.5%	37.5%	△ 2.0ポ イント	
	ハ ル プ ・ チ ッ プ 用 材	国 内 生 産	4,744	4,420	324	107.3
		輸 入	24,000	21,644	2,356	110.9
		総 需 要 量	28,743	26,064	2,679	110.3
		自 給 率	16.5%	17.0%	△ 0.5ポ イント	
	そ の 他 用 材	国 内 生 産	1,862	1,750	112	106.4
		輸 入	65	62	3	104.8
		総 需 要 量	1,926	1,812	114	106.3
		自 給 率	96.6%	96.6%	0.0ポ イント	
	しいたけ 原 木	国 内 生 産	246	242	4	101.7
		輸 入	-	-	-	-
		総 需 要 量	246	242	4	101.7
		自 給 率	100.0%	100.0%	0.0ポ イント	
	燃料材	国 内 生 産	9,350	8,927	423	104.7
		輸 入	5,394	3,878	1,516	139.1
		総 需 要 量	14,744	12,805	1,939	115.1
		自 給 率	63.4%	69.7%	△ 6.3ポ イント	
総 数		国 内 生 産	33,723	31,149	2,574	108.3
		輸 入	48,409	43,290	5,119	111.8
		総 需 要 量	82,132	74,439	7,693	110.3
		自 給 率	41.1%	41.8%	△ 0.7ポ イント	
	う ち 用材の計	国 内 生 産	24,127	21,980	2,147	109.8
		輸 入	43,015	39,412	3,603	109.1
		総 需 要 量	67,142	61,392	5,750	109.4
		自 給 率	35.9%	35.8%	0.1ポ イント	

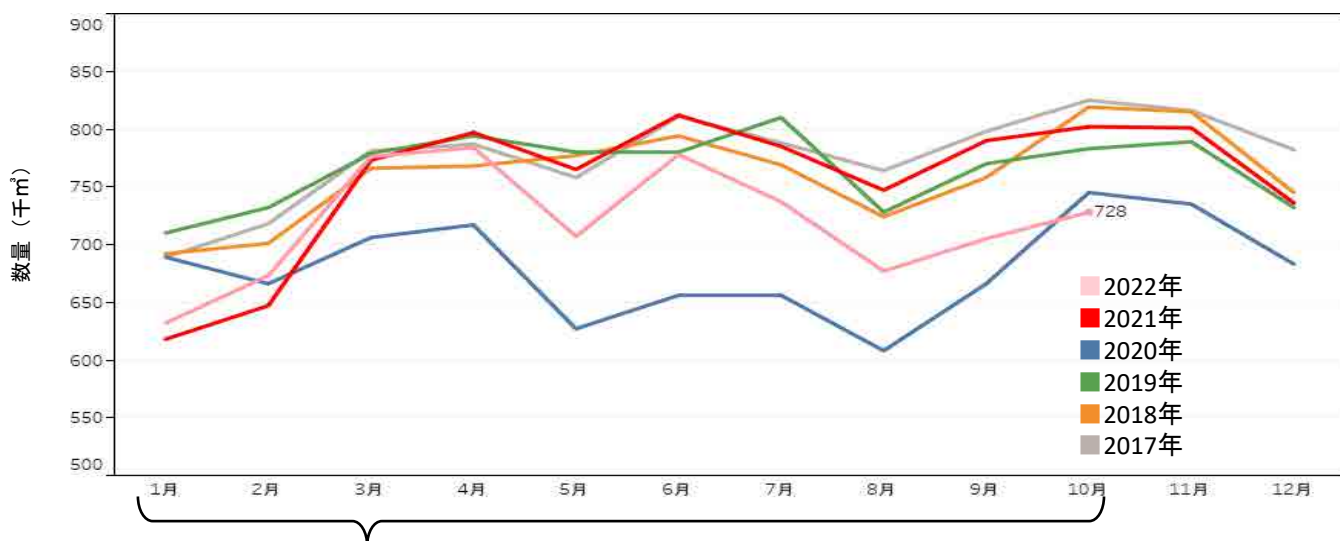
資料：林野庁「木材需給表」

注）数値の合計値は、四捨五入のため計に一致しない場合がある。

- 2022年1～10月の原木の入荷量は13,990千 m^3 （2019年比99%）。
- 同様に製材品の出荷量は7,197千 m^3 （2019年比94%）。



○製材品出荷量の月別推移（全国）

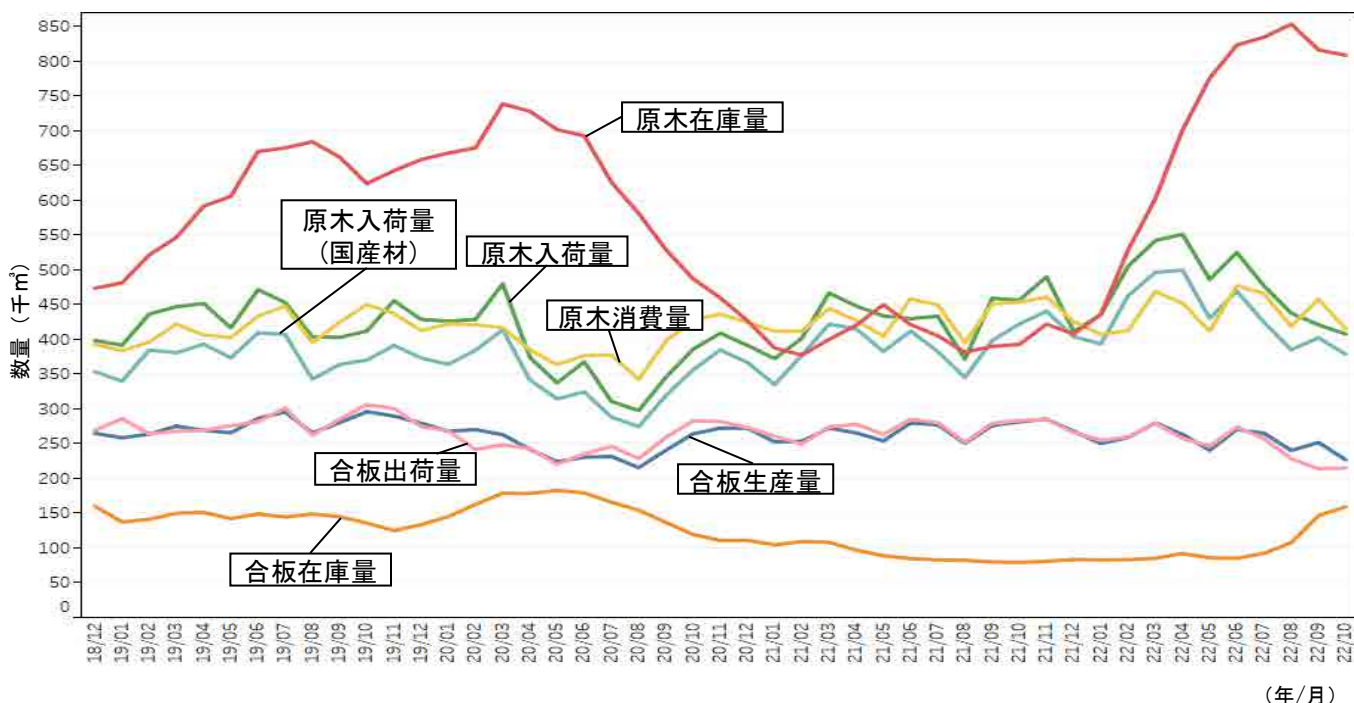


	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
1～10月原木入荷量合計(千 m^3)	13,722	13,715	14,174	12,268	13,812	13,990
2019年との比較※	97%	97%	—	87%	97%	99%
1～10月出荷量合計(千 m^3)	7,719	7,568	7,666	6,736	7,536	7,197
2019年との比較※	100%	99%	—	88%	98%	94%

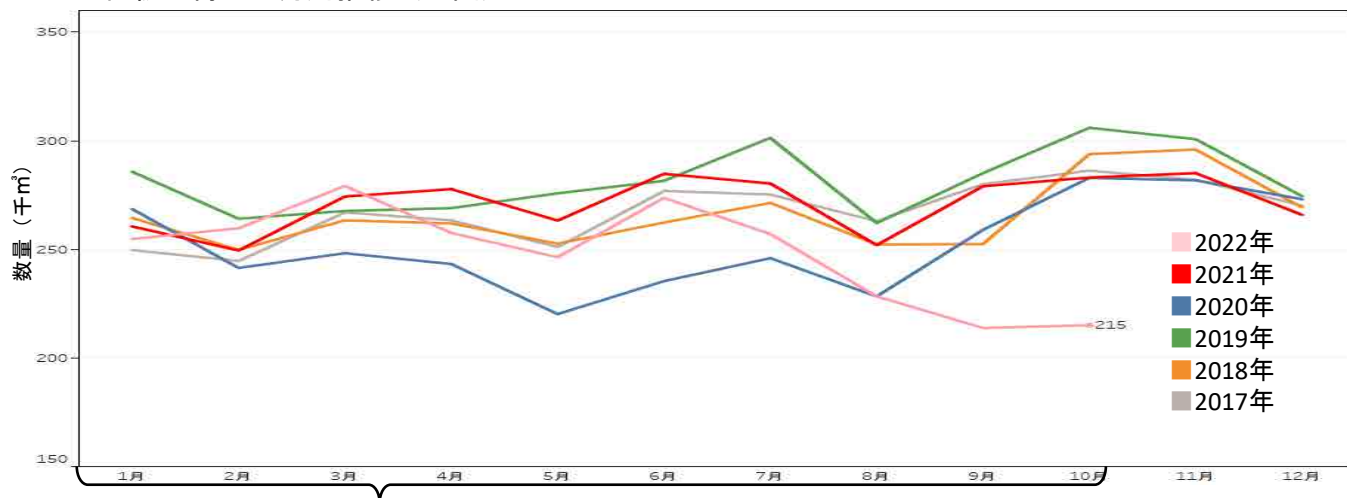
※2019年の数値を100%とした比較

資料：農林水産省「製材統計」

- 2022年1～10月の原木の入荷量は4,788千 m^3 （2019年比112%）。
- 同様に合板の出荷量は2,486千 m^3 （2019年比89%）。



○合板出荷量の月別推移（全国）

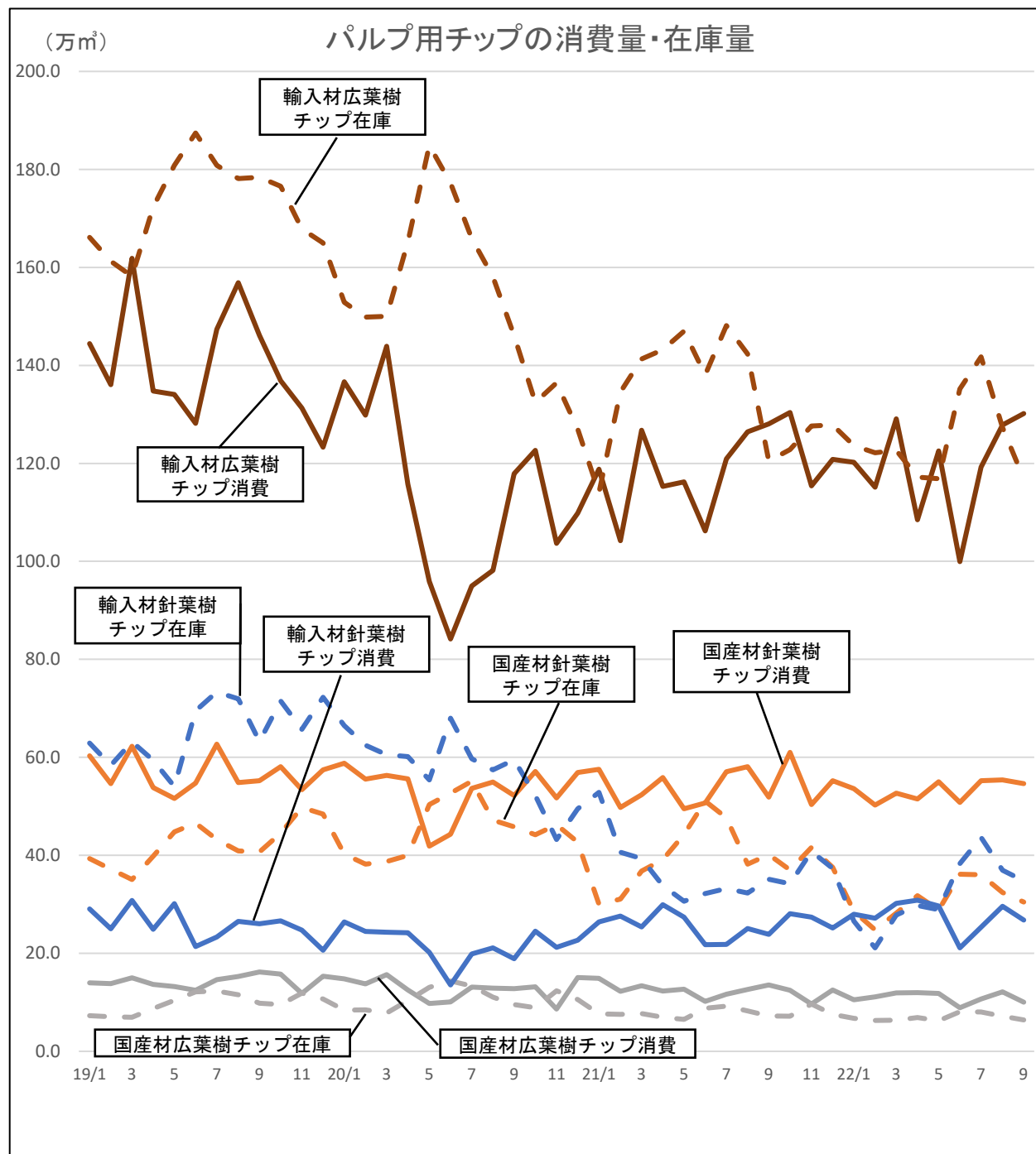


	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
1～10月原木入荷量 合計(千 m^3)	3,827	4,113	4,285	3,753	4,272	4,788
2019年との比較※	89%	96%	—	88%	100%	112%
1～10月出荷量 合計(千 m^3)	2,657	2,625	2,798	2,473	2,705	2,486
2019年との比較※	95%	94%	—	88%	97%	89%

※2019年の数値を100%とした比較

資料：農林水産省「合板統計」

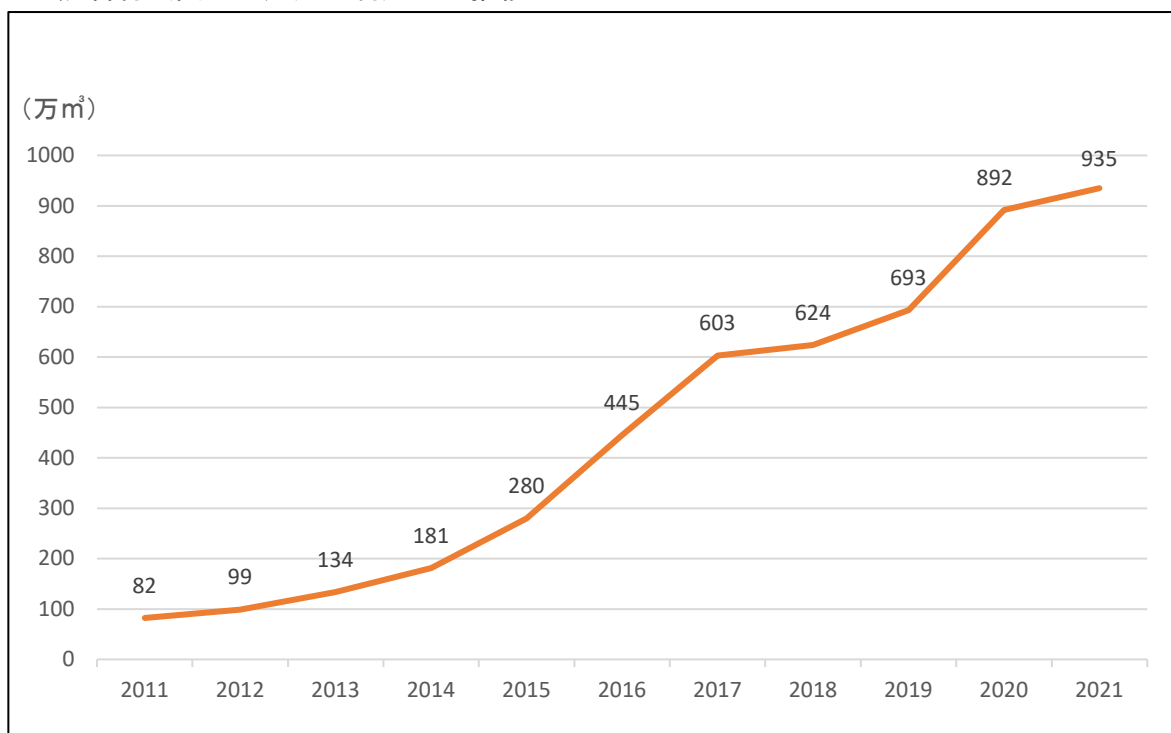
- パルプ用チップの消費について、輸入広葉樹チップの消費量は2020年4月から6月まで激減した。その後は回復傾向。国産針葉樹チップの消費量は、2020年5月に大きく減少したが、その後回復した。



資料：林野庁木材産業課調べ

- 燃料材(国内生産)の利用量は、発電利用を中心に増加(過去10年間で約11倍)。
- 紙の生産高は2020年6月に減少したが、その後一定程度回復している。

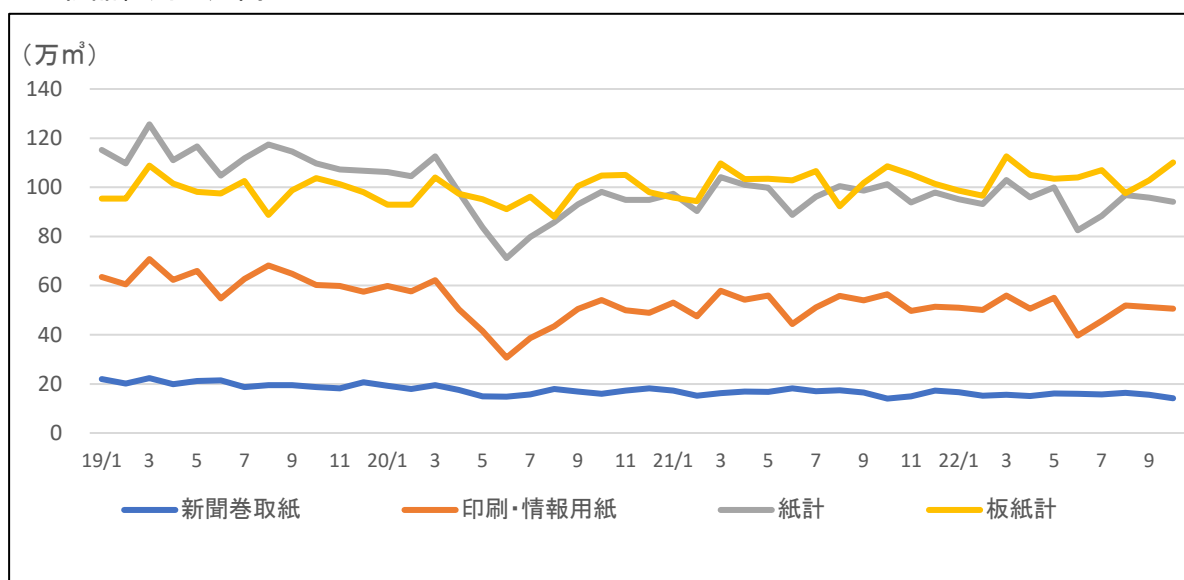
○燃料材（国内生産）の利用量の推移



資料：木材利用課調べ（～2014年）、林野庁「木材需給表」（2015年～）

注：利用量には輸出力は含まない。

○紙品種別生産高



資料：林野庁木材産業課調べ

- 2021年の製材、合板及びチップ用材の素材生産量は2,185万m³。

単位：千m³

全 国 ・ 都道府県	計	製材用	合板等用	木材チップ用	針葉樹		広葉樹
					スギ	ヒノキ	
全 国	21,847	12,861	4,661	4,325	20,088	12,917	1,759
北 海 道	3,163	1,630	652	881	2,615	63	548
青 森	971	360	397	214	924	812	47
岩 手	1,431	525	547	359	1,228	770	203
宮 城	627	218	292	117	588	538	39
秋 田	1,183	486	554	143	1,109	1,095	74
山 形	305	223	75	7	302	291	3
福 島	890	444	64	382	756	568	134
茨 城	401	320	4	77	374	254	27
栃 木	658	463	5	190	571	396	87
群 馬	252	162	31	59	240	179	12
埼 玉	67	31	x	x	43	25	24
千 葉	50	16	4	30	35	28	15
東 京	64	17	8	39	58	37	6
神 奈 川	10	8	x	x	9	6	1
新 潟	119	81	23	15	112	111	7
富 山	112	57	21	34	96	90	16
石 川	108	52	37	19	98	85	10
福 井	122	57	30	35	120	114	2
山 梨	125	27	x	x	104	27	21
長 野	460	188	207	65	453	106	7
岐 阜	385	256	80	49	381	211	4
静 岡	608	199	99	310	608	248	0
愛 知	139	96	28	15	127	76	12
三 重	277	189	81	7	276	122	1
滋 賀	72	15	14	43	57	40	15
京 都	159	51	41	67	140	98	19
大 阪	x	7	-	x	10	6	x
兵 庫	301	98	143	60	287	189	14
奈 良	125	107	x	x	125	67	0
和 歌 山	206	138	24	44	201	129	5
鳥 取	232	83	101	48	211	163	21
島 根	346	120	124	102	289	204	57
岡 山	427	348	23	56	389	100	38
広 島	347	152	81	114	267	136	80
山 口	221	123	46	52	198	135	23
徳 島	333	175	x	x	321	263	12
香 川	13	5	-	8	8	1	5
愛 媛	563	528	3	32	563	342	-
高 知	519	x	x	94	516	254	3
福 岡	402	343	7	52	395	353	7
佐 賀	130	109	1	20	119	66	11
長 崎	139	77	12	50	120	59	19
熊 本	938	752	123	63	907	686	31
大 分	1,129	892	210	27	1,116	929	13
宮 崎	2,042	1,830	164	48	2,026	1,931	16
鹿 児 島	664	417	132	115	596	514	68
沖 縄	x	x	-	x	0	-	x

資料：農林水産省「令和3年木材統計」

「x」：個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表していないもの

- 2020年の木材生産の都道府県別木材生産の産出額の合計は1,944億円。

単位：千万円

都道府県	木材生産	針葉樹					広葉樹	竹材
		スギ	ヒノキ	アカマツ・クロマツ	カラマツ・エゾマツ・トドマツ			
北海道	2,793	2,318	30	—	—	2,260	475	—
青森	744	679	540	0	43	60	65	—
岩手	1,307	1,035	551	0	155	329	259	—
宮城	438	406	375	4	21	4	30	2
秋田	1,002	905	871	—	2	28	95	—
山形	245	240	228	0	2	9	5	0
福島	688	606	478	71	26	28	80	—
茨城	392	368	252	114	1	0	24	—
栃木	587	551	363	185	1	1	30	2
群馬	172	168	115	19	1	31	4	—
埼玉	45	28	18	10	0	0	17	—
千葉	41	26	21	4	—	—	12	3
東京	19	16	7	9	—	0	2	—
神奈川	11	10	5	5	—	0	1	—
新潟	103	96	96	0	0	0	6	0
富山	71	67	64	1	1	1	4	—
石川	132	115	93	6	8	1	16	0
福井	102	97	94	1	1	0	5	0
山梨	104	86	21	9	15	34	13	—
長野	463	436	59	95	32	240	17	—
岐阜	456	444	250	179	3	11	11	—
静岡	307	304	135	165	1	2	2	—
愛知	208	207	99	90	0	15	2	—
三重	320	316	131	182	0	—	4	—
滋賀	44	36	26	10	0	0	7	1
京都	116	94	66	23	0	—	17	5
大阪	5	5	3	2	0	—	0	—
兵庫	204	193	124	65	1	0	11	0
奈良	147	147	72	74	0	—	0	0
和歌山	140	134	73	61	0	—	4	2
鳥取	226	211	167	39	4	0	16	—
島根	397	321	255	52	14	0	76	—
岡山	446	435	68	363	3	—	8	3
広島	274	232	115	106	11	0	41	—
山口	230	209	140	67	2	—	20	1
徳島	281	275	214	60	1	—	6	0
香川	8	7	2	5	0	—	—	1
愛媛	550	549	260	287	2	—	—	0
高知	500	496	243	250	3	—	3	1
福岡	187	177	128	48	1	—	9	1
佐賀	125	115	67	48	0	—	9	0
長崎	100	81	30	52	—	—	18	—
熊本	1,142	1,108	739	366	3	—	26	8
大分	1,038	1,020	833	186	0	—	7	5
宮崎	1,977	1,950	1,814	131	4	—	26	—
鹿児島	548	475	405	62	1	—	58	15
沖縄	2	0	—	—	—	—	2	—
合計	19,437	17,796	10,739	3,506	364	3,055	1,541	49

資料：農林水産省「令和2年林業産出額」

注：都道府県別産出額には、全国値には含まれる木材生産におけるパルプ工場に直接入荷されるパルプ用素材、輸出丸太及び燃料用チップ素材の産出額を含まない。

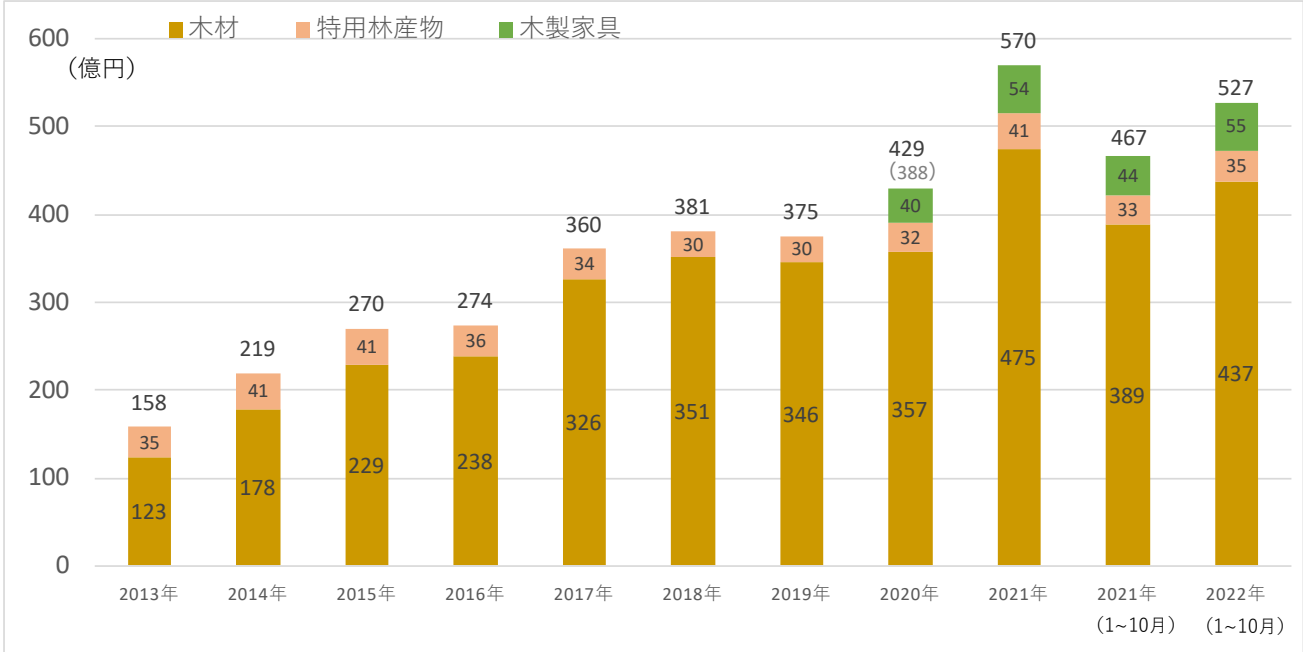
また、全国値には含まない木材生産における県外移出されたしいたけ原木の産出額を含む。

林産物輸出入情報- 1

林産物輸出額

- 令和4年10月の林産物の輸出額は54億円（前年同月比104%）となった。
- 内訳としては木材が44億円（同105%）、特用林産物が4億円（同89%）、木製家具が6億円（同116%）となった。
- 1～10月の累計は、527億円（前年同期比113%）となった。

○林産物輸出の推移



資料：財務省「貿易統計」
※特用林産物には、きのこ（はらたけ属以外）、乾しいたけ、ロジン、植物性ろう等が含まれる。なお、木質ペレット、薪、木炭は木材に含まれる。
※2020年の（388）は品目の見直しによる追加品目（木製家具、調整・保存処理したきのこ等）を含まない数字。
※四捨五入により、合計が合致しない場合がある。

○林産物の月別輸出額

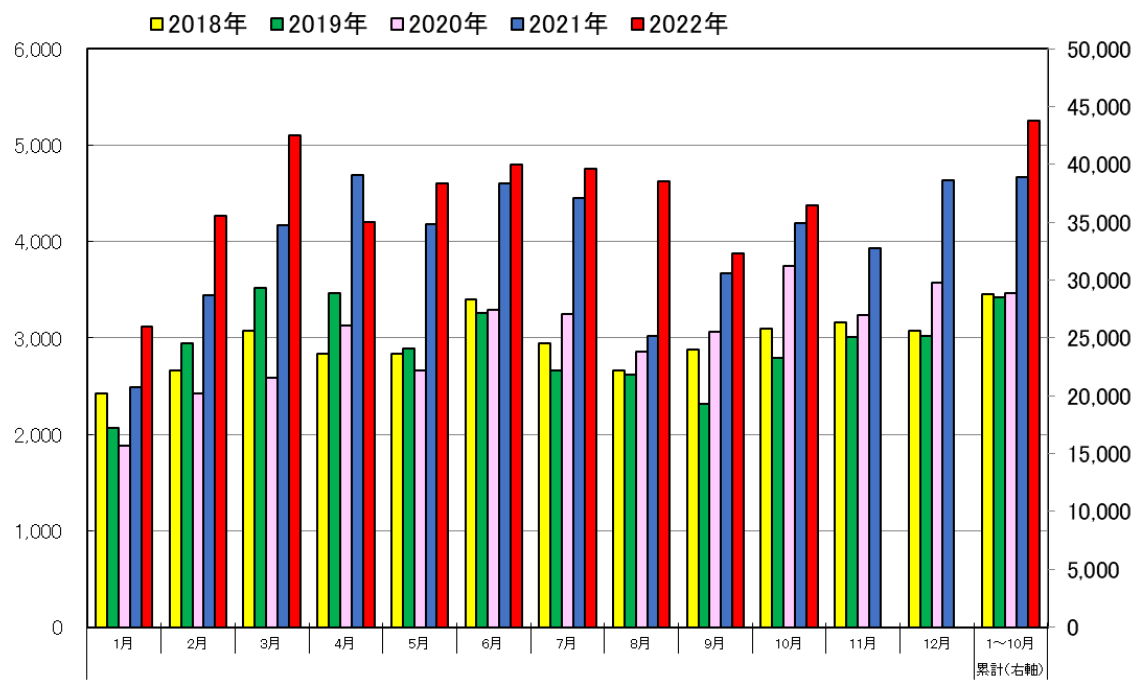
(億円)

	2021年				2022年					
	林産物	木材	特用林産物	木製家具	林産物	前年比	前々年比	木材	特用林産物	木製家具
1月	31	25	3	3	37	119%	157%	31	3	4
2月	41	34	4	3	50	121%	164%	43	3	4
3月	51	42	4	5	61	121%	192%	51	4	6
4月	55	47	3	5	51	92%	138%	42	3	5
5月	49	42	3	4	55	113%	176%	46	3	5
6月	54	46	3	5	58	107%	154%	48	4	6
7月	52	45	3	4	58	111%	156%	48	4	7
8月	37	30	3	5	56	149%	165%	46	3	6
9月	45	37	3	5	48	107%	130%	39	4	6
10月	52	42	4	5	54	104%	118%	44	4	6
11月	48	39	4	5						
12月	55	46	4	5						
10月累計	467	389	33	44	527	113%	153%	437	35	55

資料：財務省貿易統計

- 令和4年(2022年)10月の輸出額は43.8億円(前年同月比105%)となった。2022年(1～10月)の累計は437億円(前年同期比112%)となった。
- 特に丸太輸出額については、中国のロックダウンなどを原因として輸出が減少している。製材輸出額については、米国における金利上昇に伴う住宅の減速感から、米国向け輸出が減少している。

○木材輸出額の推移（月別）



○木材輸出額の推移（主な国別・品目別）

輸出先	単月 10月					累計1～10月				
	輸出額	前年比	主要品目内訳(百万円) 前年比(%)			輸出額	前年比	主要品目内訳(百万円) 前年比(%)		
	(百万円)	(%)	丸太	製材	合板	(百万円)	(%)	丸太	製材	合板
中国	1,791	98%	1,404 100%	139 112%	17 32%	17,960	97%	13,843 96%	1,341 106%	304 62%
韓国	236	68%	110 60%	31 64%	1 17%	3,115	98%	1,760 97%	482 88%	36 92%
台湾	228	157%	96 103%	66 254%	1 —	2,312	120%	1,245 106%	549 120%	3 16%
米国	533	115%	0 —	165 58%	0 —	5,222	121%	0 —	2,576 85%	11 156%
フィリピン	1,320	143%	0 —	181 78%	1,093 168%	11,998	151%	0 —	2,683 140%	8,366 152%
その他	274	56%	16 1291%	40 14%	2 227%	3,138	102%	256 7676%	493 85%	57 92%
総計	4,381	105%	1,626 96%	622 63%	1,114 157%	43,746	112%	17,104 96%	8,124 105%	8,777 143%

※資料：財務省貿易統計（第44類を集計）
※四捨五入により、数値が合わないことがある。

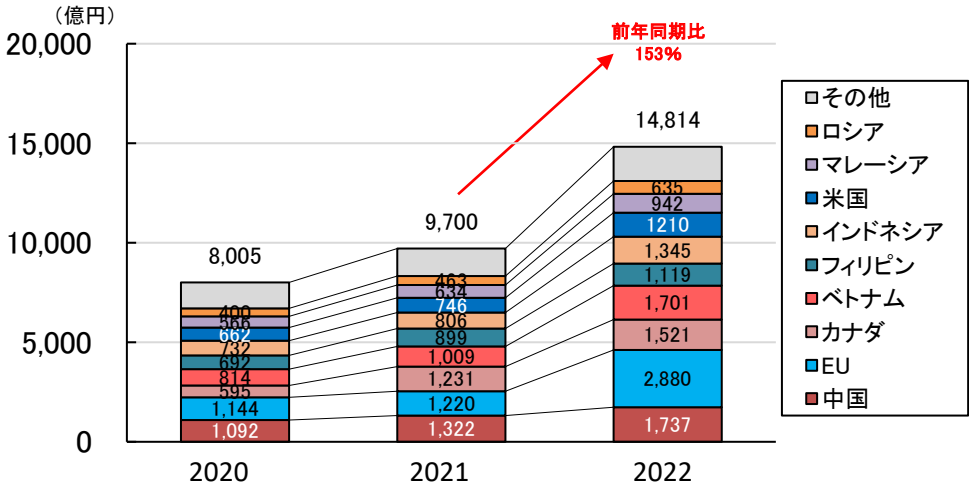
林産物輸出入情報-3 木材輸入額

- 2022年10月の木材輸入額は、前月比101%、前年同月比131%の1,516億円となった。
- 国別に、前月比で見ると、EU（前年輸入額に占めるシェア14%）が91%、ベトナム（同10%）が94%、米国（同7%）が93%と減少する一方、中国（同14%）が111%、カナダ（同12%）が111%、フィリピン（同9%）が110%、インドネシア（同8%）が107%と増加した。。
- 前年同月比で見ると、カナダが94%と減少する一方、EUが157%、中国が115%、ベトナムが203%、フィリピンが133%、インドネシアが158%、米国が150%と軒並み増加した。

(単位: 億円)

年 国名	2021年 (1月～ 12月)	月別金額				累計金額		
		2022年 9月	2022年 10月	前月比	前年 同月比	2021年 1～10月	2022年 1～10月	前年 同期比
世界計	12,291	1,498	1,516	101%	131%	9,700	14,814	153%
E U	1,712	273	248	91%	157%	1,220	2,880	236%
（フィンランド）	557	105	77	73%	141%	395	958	242%
（スウェーデン）	399	40	50	126%	137%	271	610	225%
中 国	1,663	160	178	111%	115%	1,322	1,737	131%
カナダ	1,514	137	152	111%	94%	1,231	1,521	124%
ベトナム	1,268	220	206	94%	203%	1,009	1,701	169%
フィリピン	1,123	112	123	110%	133%	899	1,119	124%
インドネシア	1,029	150	160	107%	158%	806	1,345	167%
米 国	914	124	115	93%	150%	746	1,210	162%
マレーシア	769	99	80	80%	102%	634	942	148%
ロシア	634	39	27	68%	39%	463	635	137%
その他	1,664	184	226	123%	139%	1,369	1,724	126%
我が国の総輸入額	845,898	109,200	111,684	102%	154%	677,958	970,467	143%
我が国の総輸入額に 占める木材輸入額の割合	1.45%	1.37%	1.36%			1.43%	1.53%	

○2020～2022年の1～10月における木材輸入額（累計）

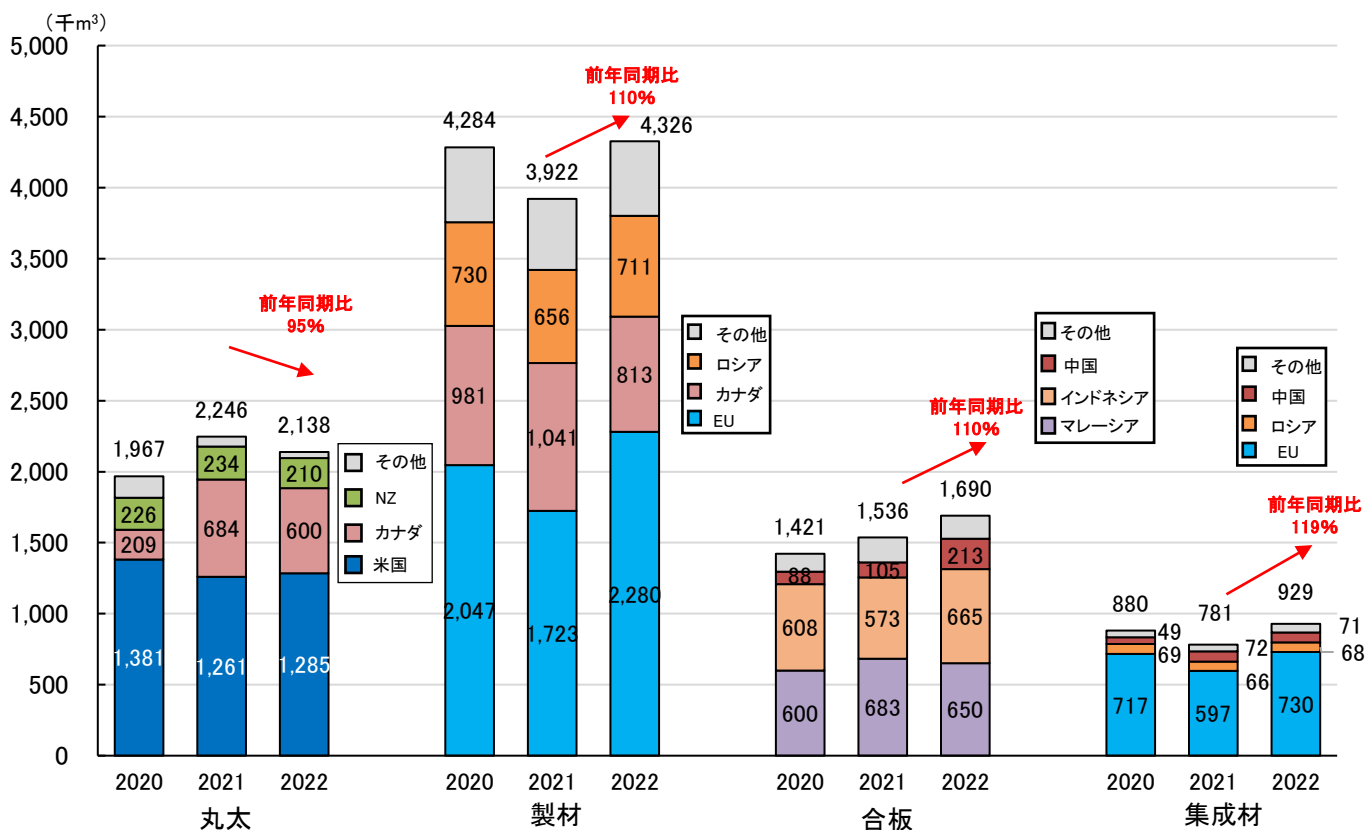


資料：財務省貿易統計
 注1：輸入統計品目表第44類（木材及びその製品並びに木炭）の合計（※次ページ以降に記載の品目の合計ではない）。
 2：EUに英国は含まない。
 3：EUは、フィンランド、スウェーデンの合計ではない。

林産物輸出入情報-3 木材輸入量（累計）

- 2022年1～10月における品目別の輸入量は、前年同期比で丸太が95%と減少する一方で、製材が110%、合板が110%、集成材が119%と、増加した。
- なお、2020年同期と比較すると、丸太が109%、製材が101%、合板が119%、集成材が106%。

○2020～2022年の1～10月における品目別木材輸入量



資料：財務省貿易統計

(注)2022年2月のエクアドルからの丸太(4403.99-990号)輸入量については、財務省に数値の確認中のため、集計からは除外している。

林産物輸出入情報-4 木材輸入量（丸太）

- 2022年10月の丸太輸入量は、前月比99%、前年同月比88%の17万^m³となった。
- 国別に、前月比で見ると、米国（前年輸入量に占めるシェア57%）が37%と減少する一方、カナダ（同28%）が462%、ニュージーランド（同12%）が151%と増加した。
- 前年同月比で見ると、米国が48%と減少する一方、カナダが157%、ニュージーランドが112%と増加した。

（単位：千^m³）

材種 国名	年	月別数量				累計数量		
		2021年 (1月～ 12月)	2022年 9月	2022年 10月	前月比	前年 同月比	2021年 1～10月	2022年 1～10月
合 計		[100%] 2,639	[100%] 174	[100%] 173	99%	88%	[100%] 2,246	[100%] 2,138
米 材		[86%] 2,257	[90%] 156	[85%] 147	94%	88%	[87%] 1,944	[88%] 1,885
米国		[57%] 1,511	[78%] 135	[29%] 50	37%	48%	[56%] 1,261	[60%] 1,285
カナダ		[28%] 746	[12%] 21	[56%] 97	462%	157%	[30%] 684	[28%] 600
南洋材		[1%] 21	-	[0%] 0	皆増	5%	[1%] 17	[1%] 14
インドネシア		[0%] 0	-	[0%] 0	皆増	皆増	-	[0%] 0
マレーシア		[0%] 8	-	[0%] 0	皆増	皆増	[0%] 8	[1%] 14
パプアニューギニア		[0%] 13	-	-	-	0%	[0%] 9	-
ロシア材		[1%] 35	-	-	-	0%	[1%] 34	[0%] 7
ニュージーランド材		[12%] 306	[10%] 17	[15%] 25	151%	112%	[10%] 234	[10%] 210
欧州材		[1%] 13	[0%] 0	[0%] 0	32%	726%	[1%] 12	[1%] 15
EU 計		[1%] 13	[0%] 0	[0%] 0	32%	726%	[1%] 12	[1%] 15
アフリカ材		[0%] 2	[0%] 0	[0%] 0	16%	10%	[0%] 2	[0%] 2
中 国		[0%] 1	[0%] 0	[0%] 0	22%	59%	[0%] 1	[0%] 2
その他		[0%] 3	[0%] 0	[0%] 0	75%	104%	[0%] 3	[0%] 3

資料：財務省貿易統計

注1：丸太は輸入統計品目表第4403項の合計。

2：米材は米国、カナダより輸入された材。

3：南洋材はインドネシア、マレーシア、パプアニューギニア、ソロモン諸島、フィリピン、シンガポール、ブルネイの7か国より輸入された材。

4：欧州材はロシアを除く全ての欧州各国より輸入された材。

5：数量の上段の〔 〕書きは、総輸入量に占める各国の割合。

6：四捨五入の関係で計は必ずしも一致しない。

7：「-」は輸入実績なし等。

8：EUに英国は含まない。

9：2022年2月のエクアドルからの丸太（4403.99-990号）輸入量については、財務省に数値の確認中のため、集計からは除外している。

林産物輸出入情報-4 木材輸入量（製材）

- 2022年10月の製材輸入量は、前月比96%、前年同月比87%の34万m³となった。
- 国別に、前月比で見ると、カナダ（前年輸入量に占めるシェア25%）が72%、ロシア（同18%）が63%、EU（同44%）が99%と軒並み減少した。。
- 前年同月比で見ると、カナダが59%、ロシアが38%と減少する一方、EUが118%と増加した。

（単位：千m³）

材種 国名	年	2021年 (1月～ 12月)	月別数量				累計数量		
			2022年 9月	2022年 10月	前月比	前年 同月比	2021年 1～10月	2022年 1～10月	前年 同期比
合 計		[100%] 4,830	[100%] 355	[100%] 343	96%	87%	[100%] 3,922	[100%] 4,326	110%
米 材		[28%] 1,361	[25%] 90	[20%] 70	77%	64%	[29%] 1,155	[21%] 925	80%
米国		[3%] 135	[3%] 11	[4%] 13	111%	112%	[3%] 114	[3%] 113	99%
カナダ		[25%] 1,226	[22%] 79	[17%] 57	72%	59%	[27%] 1,041	[19%] 813	78%
南洋材		[1%] 56	[2%] 6	[2%] 6	100%	131%	[1%] 45	[1%] 52	115%
インドネシア		[0%] 20	[1%] 2	[0%] 2	78%	100%	[0%] 16	[0%] 17	107%
マレーシア		[1%] 34	[1%] 4	[1%] 4	108%	160%	[1%] 27	[1%] 34	123%
パプアニューギニア		[0%] 0	-	[0%] 0	皆増	59%	[0%] 0	[0%] 0	63%
ロシア材		[18%] 846	[13%] 48	[9%] 30	63%	38%	[17%] 656	[16%] 711	108%
ニュージーランド材		[1%] 57	[1%] 4	[1%] 5	112%	156%	[1%] 45	[1%] 41	91%
チリ材		[5%] 226	[1%] 2	[10%] 33	1593%	144%	[5%] 189	[5%] 213	112%
欧州材		[46%] 2,210	[56%] 200	[57%] 195	97%	114%	[45%] 1,774	[54%] 2,327	131%
EU 計		[44%] 2,148	[55%] 195	[56%] 193	99%	118%	[44%] 1,723	[53%] 2,280	132%
(スウェーデン)		[16%] 756	[13%] 45	[17%] 59	131%	110%	[15%] 600	[17%] 748	125%
(フィンランド)		[15%] 729	[21%] 73	[16%] 53	73%	91%	[15%] 587	[17%] 739	126%
アフリカ材		[0%] 2	[0%] 0	[0%] 0	50%	235%	[0%] 1	[0%] 2	126%
中 国		[1%] 64	[1%] 4	[1%] 3	89%	55%	[1%] 47	[1%] 49	103%
その他		[0%] 9	[0%] 0	[0%] 1	137%	68%	[0%] 7	[0%] 7	98%

資料：財務省貿易統計

注 1：製材は輸入統計品目表第4407項の合計。

2：米材は米国、カナダより輸入された材。

3：南洋材はインドネシア、マレーシア、パプアニューギニア、ソロモン諸島、フィリピン、シンガポール、ブルネイの7か国より輸入された材。

4：欧州材はロシアを除く全ての欧州各国より輸入された材。

5：数量の上段の[]書きは、総輸入量に占める各国の割合。

6：四捨五入の関係で計は必ずしも一致しない。

7：「-」は輸入実績なし等。

8：EUに英国は含まない。

林産物輸出入情報-4 木材輸入量（合板、木材チップ）

- 2022年10月の合板輸入量は、前月比89%、前年同月比81%の14万^mとなった。
- 国別に、前月比で見ると、マレーシア（前年輸入量に占めるシェア43%）が67%と減少する一方、インドネシア（同38%）が108%と増加した。
- 前年同月比で見ると、マレーシアが54%と減少する一方、インドネシアが108%と増加した。

（単位：千^m）

国名	年	月別数量				累計数量		
		2021年 (1月～ 12月)	2022年 9月	2022年 10月	前月比	前年 同月比	2021年 1～10月	2022年 1～10月
総輸入量		[100%] 1,865	[100%] 152	[100%] 136	89%	81%	[100%] 1,536	[100%] 1,690
マレーシア		[43%] 795	[38%] 58	[29%] 39	67%	54%	[44%] 683	[38%] 650
インドネシア		[38%] 715	[40%] 60	[48%] 66	108%	108%	[37%] 573	[39%] 665
ベトナム		[11%] 207	[11%] 16	[13%] 17	106%	76%	[11%] 164	[9%] 148
中 国		[7%] 133	[11%] 16	[10%] 13	81%	108%	[7%] 105	[13%] 213
EU		[0%] 6	[0%] 0	[0%] 0	85%	138%	[0%] 5	[0%] 5
その他		[0%] 9	[0%] 1	[1%] 1	120%	137%	[0%] 6	[0%] 8

資料：財務省貿易統計

注1：輸入統計品目表第4412.10号111～299、第4412.31号、第4412.33号、第4412.34号、第4412.39号の合計。

2：数量の上段の[]書きは、総輸入量に占める各国の割合。

3：四捨五入の関係で計は必ずしも一致しない。

4：EUに英国は含まない。

- 2022年10月の木材チップ輸入量は、前月比109%、前年同月比102%の101万トンとなった。
- 国別に、前月比で見ると、ベトナム（前年輸入量に占めるシェア38%）が97%、チリ（同10%）が96%と減少する一方、オーストラリア（同18%）が132%と増加した。
- 前年同月比で見ると、チリが53%と減少する一方、ベトナムが112%、オーストラリアが130%と増加した。

（単位：千トン）

国名	年	月別数量				累計数量		
		2021年 (1月～ 12月)	2022年 9月	2022年 10月	前月比	前年 同月比	2021年 1～10月	2022年 1～10月
総輸入量		[100%] 10,996	[100%] 926	[100%] 1,007	109%	102%	[100%] 9,199	[100%] 9,402
ベトナム		[38%] 4,132	[38%] 349	[34%] 337	97%	112%	[37%] 3,421	[38%] 3,618
オーストラリア		[18%] 1,947	[17%] 156	[20%] 206	132%	130%	[18%] 1,671	[17%] 1,627
チ リ		[10%] 1,060	[9%] 79	[8%] 76	96%	53%	[11%] 968	[8%] 760
南アフリカ共和国		[9%] 1,026	[13%] 121	[9%] 88	73%	59%	[9%] 832	[10%] 914
米 国		[7%] 811	[4%] 41	[10%] 102	249%	127%	[7%] 686	[8%] 758
その他		[18%] 2,020	[20%] 182	[20%] 199	109%	125%	[18%] 1,619	[18%] 1,725

資料：財務省貿易統計

注1：輸入統計品目表第4401.21号と第4401.22号の合計。

2：数量の上段の[]書きは、総輸入量に占める各国の割合。

3：四捨五入の関係で計は必ずしも一致しない。

林産物輸出入情報-4 木材輸入量（集成材）

- 2022年10月の集成材輸入量は、前月比85%、前年同月比90%の7.2万m³となった。構造用集成材に限ると、前月比79%、前年同月比93%の6.0万m³となった。
- 国別に、前月比で見ると、EU（前年輸入量に占めるシェア76%）が79%、ロシア（同9%）が87%と減少する一方、中国（同10%）が133%と増加した。EUの国別内訳では、フィンランド（同36%）が78%、ルーマニア（同15%）が62%、オーストリア（同13%）が80%と軒並み減少した。
- 前年同月比で見ると、中国が41%、ロシアが72%と減少する一方、EUが101%と増加した。

（単位：千m³）

年 国名	2021年 (1月～12月)	月別数量				累計数量		
		2022年 9月	2022年 10月	前月比	前年 同月比	2021年 1 ～10月	2022年 1～10月	前年 同期比
総輸入量	[100%] 967	[100%] 85	[100%] 72	85%	90%	[100%] 781	[100%] 929	119%
うち 構造用集成材	[100%] 832	[100%] 76	[100%] 60	79%	93%	[100%] 674	[100%] 812	120%
E U	[76%] 733	[84%] 71	[78%] 56	79%	101%	[76%] 597	[78%] 730	122%
うち 構造用集成材	[85%] 709	[92%] 70	[89%] 54	77%	100%	[86%] 578	[88%] 711	123%
フィンランド	[36%] 349	[47%] 40	[43%] 31	78%	109%	[37%] 293	[37%] 341	116%
うち 構造用集成材	[41%] 345	[51%] 39	[50%] 30	77%	109%	[43%] 289	[42%] 338	117%
ルーマニア	[15%] 148	[10%] 9	[8%] 5	62%	51%	[14%] 113	[16%] 150	133%
うち 構造用集成材	[17%] 139	[11%] 8	[8%] 5	56%	49%	[16%] 105	[18%] 143	135%
オーストリア	[13%] 126	[15%] 12	[14%] 10	80%	109%	[13%] 102	[12%] 109	107%
うち 構造用集成材	[14%] 116	[16%] 12	[15%] 9	74%	104%	[14%] 94	[13%] 102	108%
中国	[10%] 93	[4%] 4	[7%] 5	133%	41%	[9%] 72	[8%] 71	98%
うち 構造用集成材	[6%] 52	[3%] 2	[4%] 3	125%	41%	[6%] 40	[5%] 42	105%
ロシア	[9%] 84	[6%] 5	[6%] 4	87%	72%	[8%] 66	[7%] 68	104%
うち 構造用集成材	[9%] 71	[5%] 4	[6%] 4	88%	74%	[8%] 56	[7%] 58	105%
その他	[6%] 57	[5%] 4	[9%] 6	148%	111%	[6%] 46	[7%] 61	133%
うち 構造用集成材	[0%] 0	[0%] -	[0%] -	-	0%	[0%] 0	[0%] 0	178%

資料：財務省貿易統計

注1：輸入統計品目表第4412.10号910、第4412.51号100、第4412.59号100、第4412.91号100、第4412.92号100、第4412.99号110、190と、第4418.81号（構造用集成材）の合計。

2：数量の上段の〔 〕書きは、総輸入量に占める各国の割合。

3：四捨五入の関係で計は必ずしも一致しない。

4：「-」は輸入実績なし等。

5：EUに英国は含まない。

6：EUはフィンランド、ルーマニア、オーストリアの合計ではない。

林産物輸出入情報-4 木材輸入量（木質ペレット、LVL）

- 2022年10月の木質ペレット輸入量は、前月比92%、前年同月比156%の43万トンとなった。
- 国別に、前月比で見ると、ベトナム（前年輸入量に占めるシェア53%）が76%、カナダ（同34%）が79%と減少した。
- 前年同月比で見ると、ベトナムが140%、カナダが114%と増加した。

（単位：千トン）

国名	年	月別数量				累計数量		
		2021年 (1月～ 12月)	2022年 9月	2022年 10月	前月比	前年 同月比	2021年 1～10月	2022年 1～10月
								前年 同期比
総輸入量		[100%] 3,117	[100%] 467	[100%] 430	92%	156%	[100%] 2,452	[100%] 3,756 153%
ベトナム		[53%] 1,647	[61%] 286	[50%] 216	76%	140%	[52%] 1,266	[54%] 2,030 160%
カナダ		[34%] 1,058	[27%] 127	[23%] 100	79%	114%	[35%] 868	[30%] 1,141 131%
マレーシア		[5%] 156	[1%] 4	[4%] 18	459%	164%	[5%] 121	[2%] 94 77%
その他		[8%] 256	[11%] 49	[22%] 96	193%	422%	[8%] 197	[13%] 491 249%

資料：財務省貿易統計

注1：輸入統計品目表第4401.31号000を集計。

2：数量の上段の[]書きは、総輸入量に占める各国の割合。

3：四捨五入の関係で計は必ずしも一致しない。

- 2022年10月のLVL輸入量は、前月比119%の4.8万m³となった。
- 国別に、前月比で見ると、中国が126%と増加した。

（単位：千m³）

国名	年	2021年 (1月～ 12月)	月別数量				累計数量		
			2022年 9月	2022年 10月	前月比	前年 同月比	2021年 1～10月	2022年 1～10月	前年 同期比
総輸入量			[100%] 40	[100%] 48	119%			[100%] 432	
中国			[71%] 29	[75%] 36	126%			[75%] 325	
ベトナム			[24%] 10	[22%] 11	108%			[20%] 88	
インドネシア			[4%] 2	[3%] 1	84%			[4%] 16	
その他			[1%] 0	[0%] 0	55%			[1%] 3	

資料：財務省貿易統計

注1：輸入統計品目表第4412.41号000、4412.42号000、4412.49号を集計。

2：LVLは、HSコードの改定に伴い、2022年1月1日より集計可能となったため、2021年以前のデータは存在しない。

3：数量の上段の[]書きは、総輸入量に占める各国の割合。

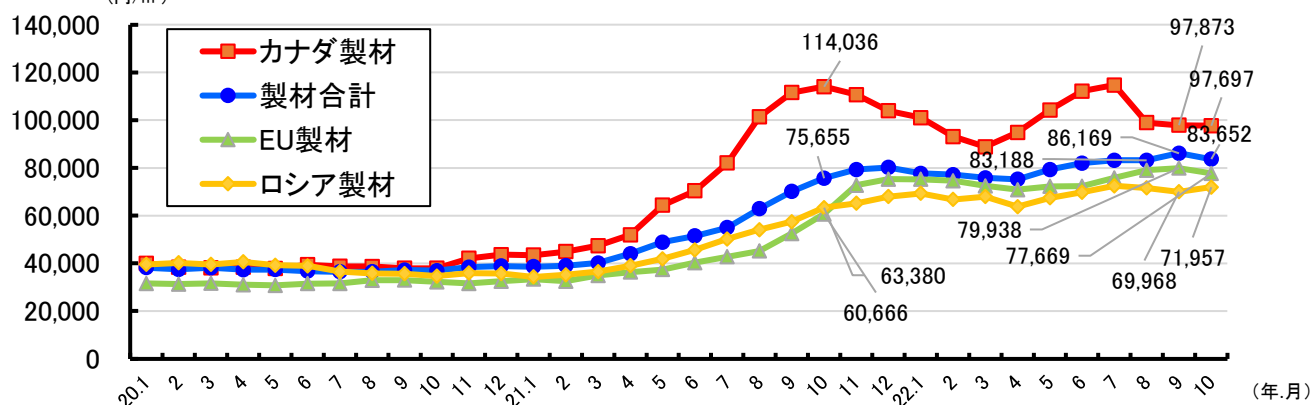
4：四捨五入の関係で計は必ずしも一致しない。

林産物輸出入情報-5 製材・構造用集成材・合板の輸入平均単価

- 2022年10月の製材輸入平均単価（総輸入額／総輸入量）は、前月比97%の83,652円/ m³（前年同月比111%）。うち、カナダの製材は、前月比100%の97,697円/ m³（前年同月比86%）、EUの製材は、前月比97%の77,669円/ m³（前年同月比128%）、ロシアの製材は、前月比103%の71,957円/ m³（前年同月比114%）。
- 同月のEUからの構造用集成材輸入平均単価は、前月比96%の116,356円/ m³（前年同月比157%）。
- 同月の合板輸入平均単価は、前月比107%の117,136円/ m³（前年同月比163%）。

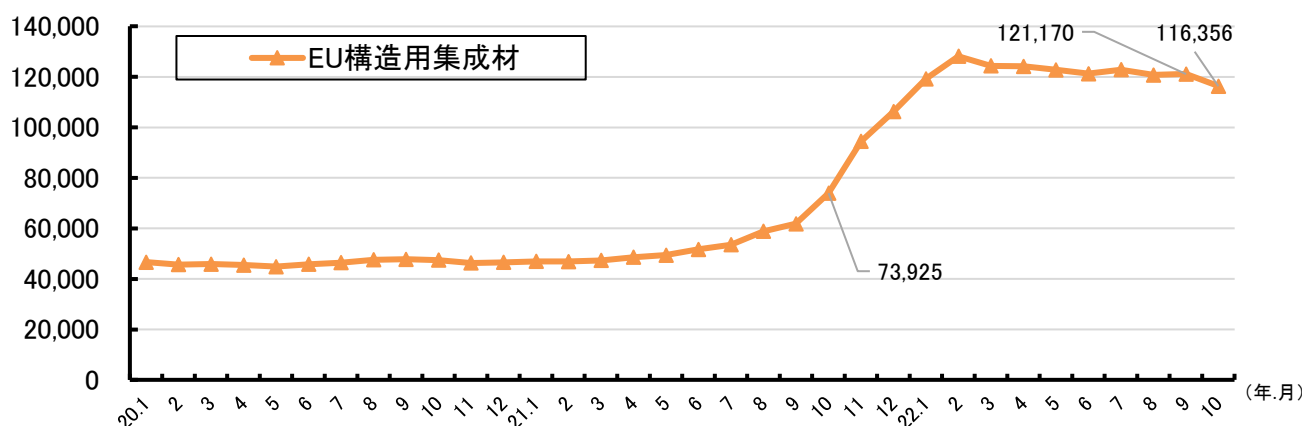
○製材の輸入平均単価

(円/m³)



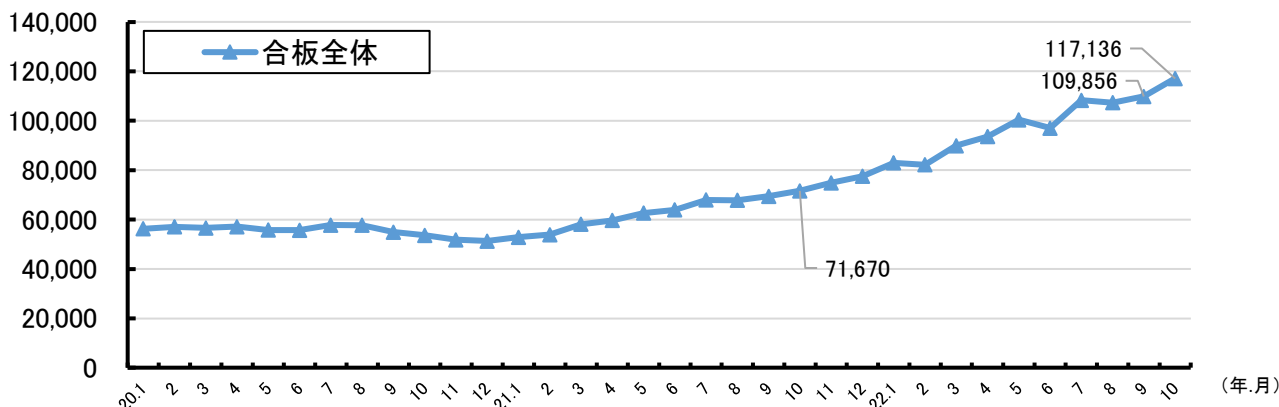
○構造用集成材の輸入平均単価

(円/m³)



○合板の輸入平均単価

(円/m³)



資料：財務省貿易統計

注：輸入平均単価は、総輸入額を総輸入量で割った値。

特用林産情報- 1
 特用林産物の国内生産量

- 2021年の食用きのこ類の生産量は46万2,021t（対前年比99.9%）となった。
- たけのこの生産量は1万9,917t（対前年比75.3%）となった。
- 木炭の生産量は1万1,806t（対前年比91.2%）となった。

○きのこ類

単位：t

品目 年次		きのこ類													
		しいたけ計	乾しいたけ	乾しいたけ (生換算値)	生しいたけ	きのこ類		なめこ	えのきたけ	ひらたけ	ぶなしめじ	まいたけ	エリンギ	きくらげ類	まつたけ
						原木栽培	菌床栽培								
2011	平成23	97,125	3,696	25,871	71,254	10,735	60,519	25,426	143,189	2,082	118,006	44,453	38,055	643	36
2012	24	92,414	3,705	25,938	66,476	8,426	58,050	25,816	134,097	1,883	122,276	43,251	38,163	819	16
2013	25	92,437	3,499	24,491	67,946	7,707	60,239	23,383	133,647	2,290	117,363	45,453	40,200	765	38
2014	26	89,093	3,175	22,222	66,872	7,437	59,435	21,796	135,919	2,327	115,751	49,541	39,645	894	42
2015	27	86,284	2,631	18,415	67,869	7,611	60,258	22,897	131,683	3,263	116,152	48,852	39,692	1,182	71
2016	28	88,241	2,735	19,141	69,100	7,324	61,778	22,935	133,297	3,449	116,271	48,523	40,475	1,278	69
2017	29	86,767	2,544	17,807	68,961	6,393	62,568	22,946	135,615	3,828	117,712	47,728	39,088	1,710	18
2018	30	88,196	2,635	18,442	69,754	5,965	63,789	22,809	140,038	4,001	117,916	49,670	39,413	2,309	56
2019	令和元	87,971	2,414	16,901	71,071	5,914	65,157	23,285	128,974	3,862	118,597	51,108	37,635	2,315	14
2020	2	86,394	2,302	16,115	70,280	5,396	64,884	22,835	127,914	3,824	122,802	54,993	38,500	3,132	32
2021	3	86,573	2,216	15,514	71,058	4,981	66,078	24,063	129,587	4,463	119,545	54,521	38,344	3,031	39

注：まつたけの1972年までの生産量は、『農林省統計表』による。

○その他食品

単位：t

品目 年次		その他食用		
		くり	たけのこ	わさび (根茎＋葉柄)
2011	平成23	19,100	32,217	2,703
2012	24	20,900	39,244	2,670
2013	25	21,000	24,203	2,381
2014	26	21,400	36,364	2,429
2015	27	16,300	28,980	2,213
2016	28	16,500	35,592	2,266
2017	29	18,700	23,582	2,214
2018	30	16,500	25,364	2,080
2019	令和元	15,700	22,285	1,973
2020	2	16,900	26,449	2,017
2021	3	15,700	19,917	1,886

注：くりの2010年～2020年の生産量は、農林水産省大臣官房統計部『果樹生産出荷統計』、『令和2年産西洋なし、かき、くりの結果樹面積、収穫量及び出荷量』による。

○非食品

品目 年次		非 食 用																
		生うるし	木ろう	竹材	桐材	木炭	竹炭	オガ炭	オガライト	薪	木質粒状燃料	つばき油	しきみ	さかき	煉炭	豆炭	木酢液	竹酢液
		kg	t	千束	m	t	t	t	t	層積m	t	t	千本、t	千本、t	t	t	kl	kl
2011	平成23	1,345	16	1,184	631	22,124	1,058	8,044	1,225	87,760	78,258	80	2,214	832	11,160	11,567	2,141	287
2012	24	1,438	18	1,199	589	22,646	1,002	6,615	1,051	62,071	98,184	44	2,176	860	10,840	11,567	2,136	242
2013	25	1,043	24	1,196	647	21,409	1,119	7,060	435	74,683	110,092	36	1,960	854	7,446	8,831	2,134	232
2014	26	1,003	28	1,178	669	20,281	599	6,869	318	84,659	126,035	50	1,750	832	7,841	10,742	2,100	213
2015	27	1,182	19	1,235	599	17,723	499	7,643	261	72,493	119,570	47	1,892	1,016	6,104	8,235	2,497	185
2016	28	1,294	24	1,272	492	16,769	411	6,553	185	82,584	120,162	70	1,875	1,091	5,123	7,262	2,774	203
2017	29	1,434	15	1,196	465	15,942	526	6,628	88	82,839	126,532	61	1,881	945	6,615	7,306	2,410	193
2018	30	1,845	41	1,143	404	14,699	534	6,479	79	76,659	131,401	45	1,586	811	5,936	6,846	2,450	197
2019	令和元	1,997	26	1,071	264	14,393	447	6,481	66	73,739	147,321	40	1,524	935	4,728	6,093	2,087	193
2020	2	2,051	21	1,030	200	12,945	451	6,363	31	83,536	148,726	42	1,672	866	4,054	5,735	1,743	151
2021	3	2,036	22	916	187	11,806	459	5,156	19	91,791	155,836	78	1,865	1,075	3,972	5,123	1,708	192

- 注：1 木炭、薪の昭和47年までに生産量は『農林省統計表』による。
- 2 木炭は平成3年から粉炭を含み、平成9年から竹炭を除く。
- 3 煉炭、豆炭の生産量は日本煉炭工業界調べによる
- 4 しきみ、さかきの単位を平成22年より千本から t に変更した。

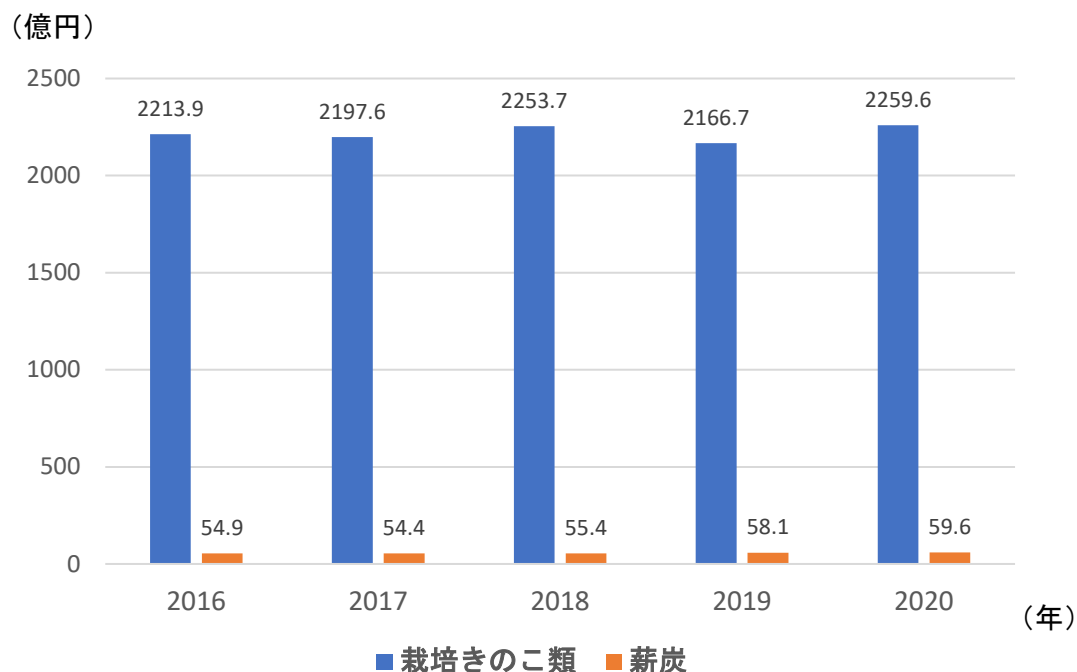
資料：特用林産基礎資料（第一報）

特用林産情報- 2 特用林産物の産出額

- 2020年のきのこ類の林業産出額は2,259.6億円（対前年比104.3%）となった。
- 薪炭の林業産出額は59.6億円（対前年比102.6%）となった。

（単位：億円）

	2016	2017	2018	2019	2020
栽培きのこ類	2,213.9	2,197.6	2,253.7	2,166.7	2,259.6
薪炭	54.9	54.4	55.4	58.1	59.6



資料：農林水産省「令和2年林業産出額」

特用林産情報- 3 特用林産物の輸出入量

- 2021年の乾しいたけの輸出量は41トン（対前年比124.2%）、輸入量は4,575トン（対前年比105.1%）。
- 2021年の木炭の輸出量は270トン（対前年比61.5%）、輸入量は84,224トン（対前年比105.6%）。

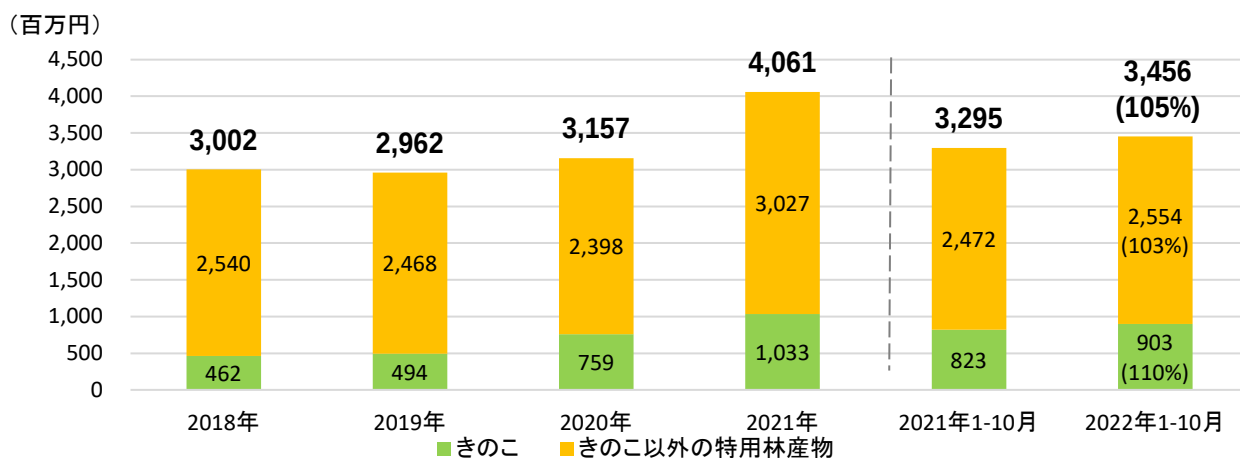
品目	単位	2017		2018		2019		2020		2021	
		輸出量	輸入量	輸出量	輸入量	輸出量	輸入量	輸出量	輸入量	輸出量	輸入量
乾しいたけ	トン	26	5,050	24	4,998	33	4,869	33	4,354	41	4,575
生しいたけ	トン	…	2,108	…	1,942	…	1,835	…	1,785	…	1,988
なめこ	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
えのきたけ	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
ひらたけ	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
ぶなしめじ	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
まいたけ	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
エリンギ	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
きくらげ類	トン	28	24,735	46	26,696	89	25,320	14	23,190	66	22,058
まつたけ	トン	…	787	…	798	…	849	…	629	…	524
くり	トン	…	10,837	…	9,781	…	9,019	…	7,371	…	8,401
くるみ	トン	…	57,536	…	56,389	…	52,236	…	56,478	…	67,581
たけのこ	トン	…	172,499	…	167,868	…	157,296	…	142,544	…	149,780
ねまがりたけ	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
わさび	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
おうれん	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
きはだ皮	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
木ろう	トン	14	…	3	19	7	10	4	9	5	11
生うるし	k g	…	40,925	…	35,879	…	36,254	…	30,165	…	21,910
つばき油	k l	…	154	…	177	…	180	…	220	…	224
竹皮	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
竹材	千束	…	244	1	251	0	215	0	194	0	191
桐材	m ³	…	12,527	…	10,750	…	10,099	…	9,726	…	9,871
木炭	トン	521	141,662	442	144,462	460	143,953	439	79,739	270	84,224
竹炭	トン	0	8,061	0	8,744	0	9,414	12	7,605	2	6,790
木酢液	Kl	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
竹酢液	Kl	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
薪	層積m ³	753	351	833	476	788	1,830	468	2,326	490	7,099
オガライト	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
オガ炭	トン	…	56,135	…	53,679	…	54,183	…	44,499	…	37,584
煉炭	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
豆炭	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…

資料：財務省貿易統計

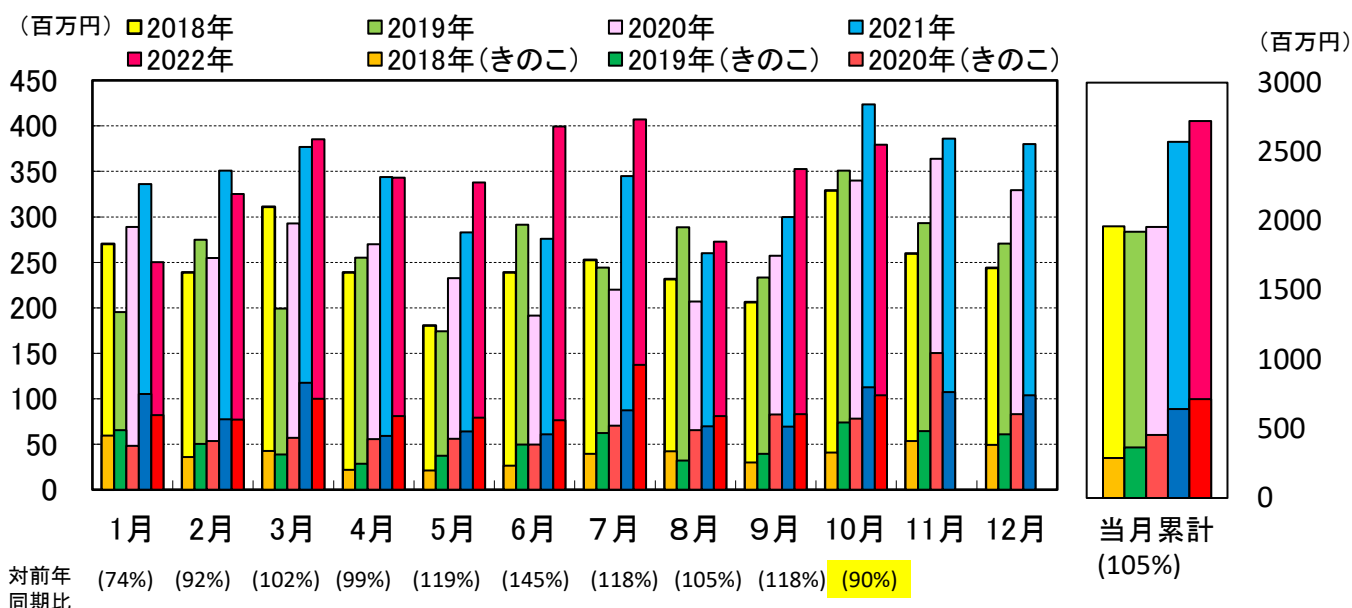
注：「…」は事実不詳又は調査を欠くもの。

- 2022年（1～10月）での特用林産物輸出額は3,456百万円（前年同期比105%）となった。内訳としては、きのこ（乾しいたけ含む）は、903百万円（対前年同期比110%）、きのこ以外は、2,554百万円（対前年同期比103%）となった。
- 10月輸出額は、381百万円（対前年同月比90%）となった。
- 内訳としては、きのこ（乾しいたけ含む）は105百万円（対前年同月比94%）、きのこ以外の特用林産物は276百万円（対前年同月比89%）となった。

○特用林産物輸出額全体の推移（累計）



○特用林産物輸出額全体の推移（月別）



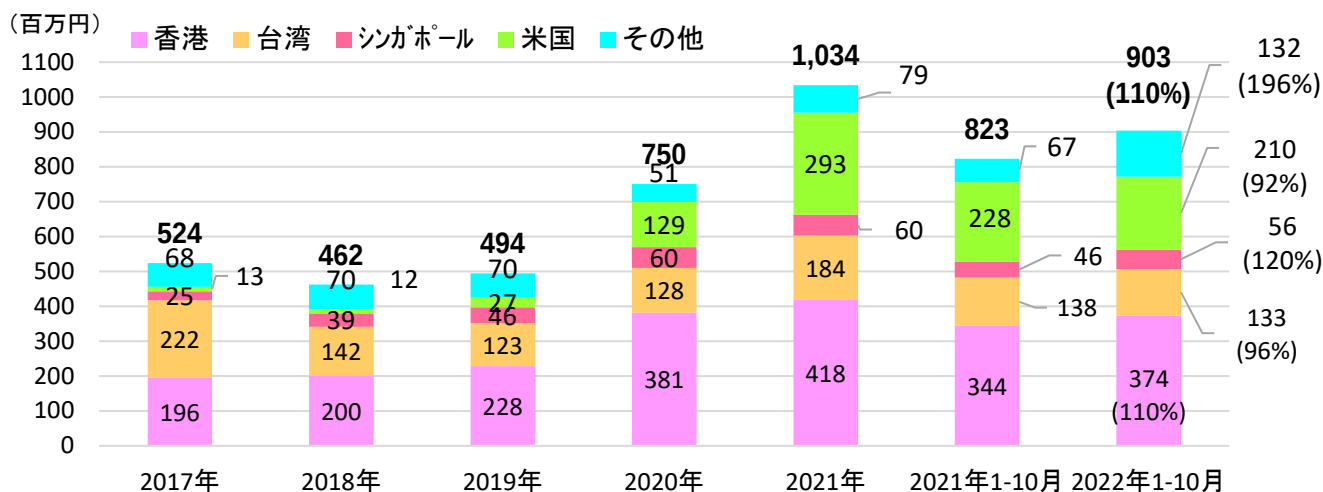
資料：財務省貿易統計

※生鮮きのこ、乾しいたけのほか、ロジン、植物性ろう等を含み、木質ペレット、チップ、薪、木炭は含まず。

※令和2年の定義見直しにより、令和3年実績から、乾燥きくらげ類、調整きのこ、保存処理をしたきのこ、しいたけ以外の乾燥きのこを計上した。

- 2022年（1～10月）のきのこの輸出額は903百万円で、対前年同期比110%となっている。国別には、主要な輸出先である香港が対前年同期比110%、台湾が96%、シンガポールが120%、米国が92%となっている。
- 同年同期の輸出量は1,206トンで、対前年同期比115%となっている。主要な輸出先では、香港が対前年同期比110%、台湾が105%、シンガポールが95%、米国が102%となっている。

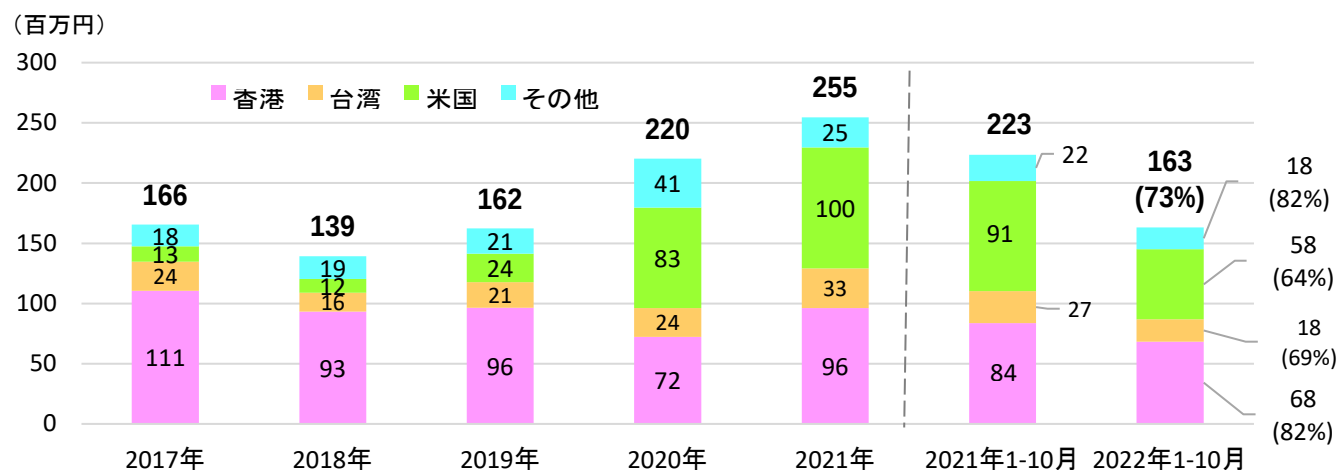
〇きのこ（乾しいたけ含む）輸出額の推移（累計）



※令和2年の定義見直しにより、令和3年実績から、生鮮きのこ、乾しいたけに加え、乾燥きくらげ類、調整きのこ、保存処理をしたきのこ及びしいたけ以外の乾燥きのこを計上している。

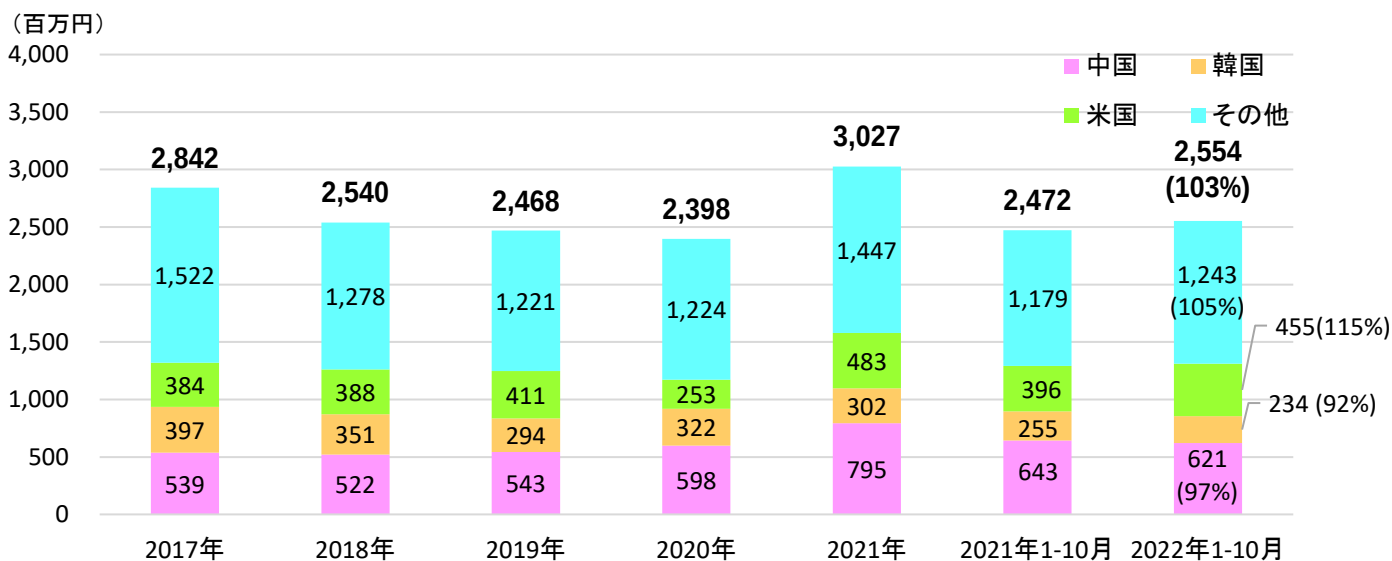
- 2022年（1～10月）の乾しいたけの輸出額は163百万円で、対前年同期比73%となっている。国別には、主要な輸出先である香港が対前年同期比82%、台湾は69%、米国は64%となっている。
- 同年同期の輸出量は32トンで、対前年同期比93%となっている。主要な輸出先では、対前年同期比は香港が76%、台湾が53%、米国が118%となっている。

〇乾しいたけ輸出額の推移（累計）



- 2022年（1～10月）のきのこ以外の特用林産物の輸出額は2,554百万円で、対前年同期比103%となっている。国別には、中国が対前年同期比97%、韓国が92%、米国が115%となっている。取引額の大きい品目では、ロジン（松脂）が対前年同期比103%、植物性ろうが101%、テルペン油が117%となっている。
- 同年同期の輸出量は2,222トンで、対前年同期比92%となっている。主要な輸出先では、中国が対前年同期比89%、韓国が69%、米国が95%となっている。

○きのこ以外の特用林産物の輸出額の推移（累計）



資料：財務省貿易統計

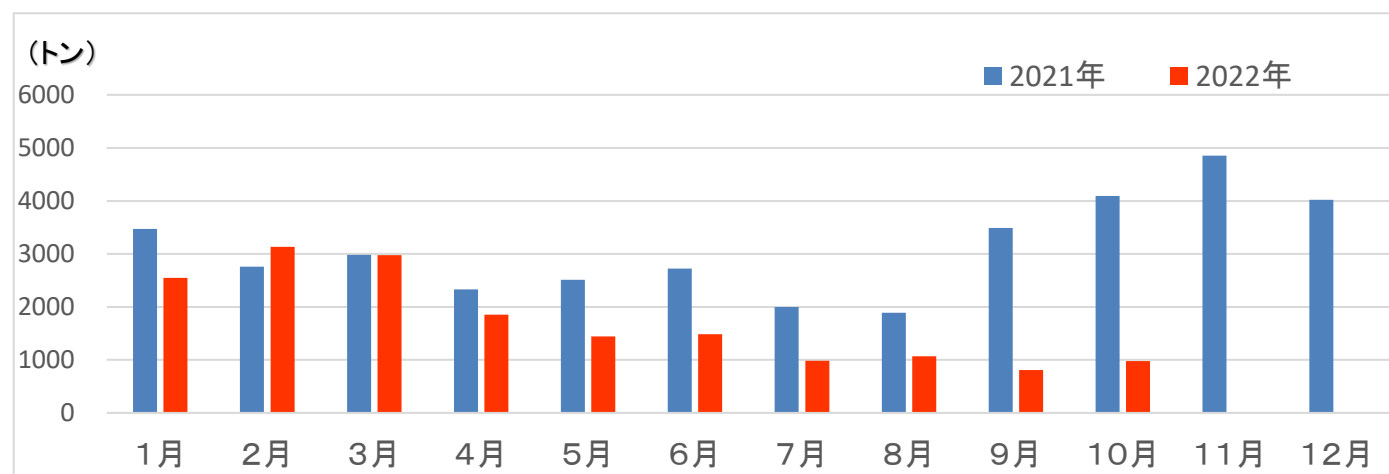
※()は対前年同期比

- 中国からのしいたけ菌糸の輸入量は近年増加傾向にあるが、2022年4月以降は減少傾向に転じている。
- 2022年の月別の輸入量について前年と比較すると、4月以降の輸入量に減少が見られ、直近の10月には、前年の4,092トンから979トン（対前年同期比23.9%）へと大幅に減少。

○中国からのしいたけ菌糸輸入量（月別）

（単位：トン）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2021年	3,472	2,757	2,984	2,330	2,513	2,722	1,996	1,889	3,488	4,092	4,856	4,022
2022年	2,548	3,136	2,975	1,850	1,439	1,482	980	1,068	808	979		



資料：財務省貿易統計

- 2021年のきのこ類の卸売量は、225,649トン（対前年比99.7%）となった。
- 2021年のきのこ類の卸売価額は、96,668,000千円（対前年比91.1%）となった。

きのこ類の卸売量

単位：トン

	2017	2018	2019	2020	2021※
生しいたけ	48,399	49,391	49,121	48,466	47,744
なめこ	15,549	16,143	16,193	16,889	16,285
えのきだけ	117,251	111,238	106,291	98,312	99,571
しめじ	72,518	68,505	65,619	62,573	62,049
合計	253,717	245,277	237,224	226,240	225,649

きのこ類の卸売価額

単位：千円

	2017	2018	2019	2020	2021※
生しいたけ	46,171,290	44,690,633	43,515,380	43,780,628	41,270,000
なめこ	6,914,944	7,348,774	7,248,066	7,430,921	7,032,000
えのきだけ	25,534,311	26,329,886	24,221,698	26,244,760	23,267,000
しめじ	31,033,202	30,829,573	28,912,378	28,687,620	25,099,000
合計	109,653,747	109,198,866	103,897,522	106,143,929	96,668,000

きのこ類の卸売価格

単位：円/kg

	2017	2018	2019	2020	2021※
生しいたけ	954	905	886	903	864
なめこ	445	455	448	440	432
えのきだけ	218	237	228	267	234
しめじ	428	450	441	458	404

資料：青果物卸売市場調査

※：2021年の数値は速報値。

セミナー・イベント情報

林野庁が関係（主催・後援等）する各種セミナー・イベントの情報をご紹介します。

■11月中旬以降の開催情報

イベント名	開催日時	会場	イベント概要
～美しい地球は、私達の心のハーモニーから～ 雨谷麻世 環境チャリティコンサートvol.82	12月21日（水）	セルリアンタワー東急ホテル	歌を通じて地球環境の大切さ、命の源である緑・森の大切さを伝えるコンサートです。 主催：（特非）太陽の会 （公社）国土緑化推進機構 Mayo Crystal Music 詳細： http://mayocrystalvoice.com/
森林の仕事エリア ガイダンス	1月15日（日） （新潟県、長崎県） 1月17日（火） （山形県） 1月21日（土） （長野県、愛媛県） 1月28日（土） （福井県、高知県）	全国7会場 （詳細はHP参照）	森林・林業に関心を持つ方や就業を考える方を対象に実施する説明会・相談会です。 主催：各県森林組合連合会、 林業労働力確保支援センター等 事前申込：要の場合あり（詳細はHP参照） 参加費：無料 詳細： https://www.ringyou.net/area_guidance/
WOOD コレクション （モクコレ） 2023	オンライン展示会 1月17日（火） ～2月17日（金） リアル展示会 1月31日（火） ～2月1日（水）	東京ビッグサイト 西1・2 ホール （オンライン併用）	東京都と全国の道府県が連携する、建材や雑貨、玩具など、業種や商材にとらわれない国産木材専門のイベントです。 主催：WOODコレクション（モクコレ） 実行委員会 事前申込：要（ウェブサイトから事前登録） 参加費：無料 詳細： https://www.mokucolle.com/jp
第30回日本文化を担う・漆の美展	1月20日（金） ～26日（木）	東京都美術館 ギャラリーB	「漆の美の今の姿」を広く社会に伝える作品を展示し、特に優れたものを評価、表彰します。 主催：（一社）日本漆工協会 事前申込：不要 入場料：無料 詳細： http://www.nihon-shikkou-kyokai.or.jp/
建築・建材展 2023	2月28日（火） ～3月3日（金）	東京国際展示場「ビッグサイト」 東展示棟 （オンライン展も開催）	安心・安全で快適な住環境、商環境の実現に不可欠な各種建材及び関連設備機器などを一堂に集め展示します。 主催：（株）日本経済新聞社 入場料：3,000円 （ウェブサイトからの事前登録で無料） 詳細： https://messe.nikkei.co.jp/ac/info.html

ウッド・チェンジ ロゴマーク 活用のご案内

ウッド・チェンジ ロゴマークは、「ウッド・チェンジ（※）」の趣旨に賛同し、木材利用の取組を積極的に推進していることのPRにご使用いただけます！（例：ポスター、チラシ、webサイト等）

広くロゴマークをご使用いただくことで、「ウッド・チェンジ」の輪が大きくなり、「木づかい運動」を盛り上げ、木材利用の需要拡大につながります。多くの方の使用登録をお待ちしています！

（※）ウッド・チェンジとは、身の回りのものを木に変える、木を暮らしに取り入れる、建築物を木造・木質化するなど、木の利用を通じて持続可能な社会へチェンジする行動を指します。

【背景】

林野庁では、日本の森林の健全な維持やカーボンニュートラルにつながる「伐って、使って、植えて、育てる」という森林資源の循環利用を促進するため、建築物等の木造・木質化や身近なものの木製品化による木材利用拡大に取り組んでいます。

その一環で国民運動として「木づかい運動」を展開しており、「ウッド・チェンジ」を合言葉に様々な取組を行っています。



WOOD ♣ CHANGE

WOOD ♣ CHANGE



【ロゴマークの使用申請について】

1. ウッド・チェンジ ロゴマーク使用規程をご確認の上、内容にご了承いただける場合には、使用を開始する日の5日前（土、日、祝日の日数は算入しない）までに、登録フォームに必要事項を入力して申請してください。
2. 使用を認められないと判断される場合のみ、遅滞なく通知いたします。

（注）使用が認められない場合の例として、営利を主たる目的とする場合が該当します。

例えば、販売して収益を上げる予定の布バッグやTシャツの柄としてロゴマークをプリントするなど、商品そのものへのマークの使用はお控えください。

なお、商品のチラシやパッケージ、イベントで着用するTシャツや配布者自ら製作する頒布品等に使用することは問題ありません。

ロゴマークの使用規程・ガイドライン、申請登録フォームなど、詳細はこちらから↓

<http://www.rinya.maff.go.jp/j/riyou/kidukai/wood-change-logo.html>

お問合せ先：林野庁木材利用課 消費対策班（TEL：03-6744-2298）



林業・木材産業事業者の皆様

公的な保証機関である当基金が、
事業資金の調達をサポートします。
まずはお気軽にご連絡ください。

独立行政法人農林漁業信用基金

電話・・〇三（三四三四）七八二五
（林業業務推進課）



制度の概要、活用事例、申込様式などはこちら
<https://www.jaffic.go.jp/guide/rin/index.html>